

第35回 豊川市地域公共交通会議 資料

<目 次>

1. 【報告事項（１）】平成２９年１１月までの豊川市コミュニティバスの運行実績について
2. 【報告事項（２）】OD調査結果について
3. 【報告事項（３）】平成２８年１０月の路線・運賃体系変更後の効果の検証について
4. 【報告事項（４）】豊川市コミュニティバスのバス停位置及び運行ルートの変更について
5. 【報告事項（５）】利用促進イベントの取り組み結果について
6. 【報告事項（６）】地域協議会意見交換会・勉強会について
7. 【協議事項（１）】地域公共交通確保維持改善事業の評価について

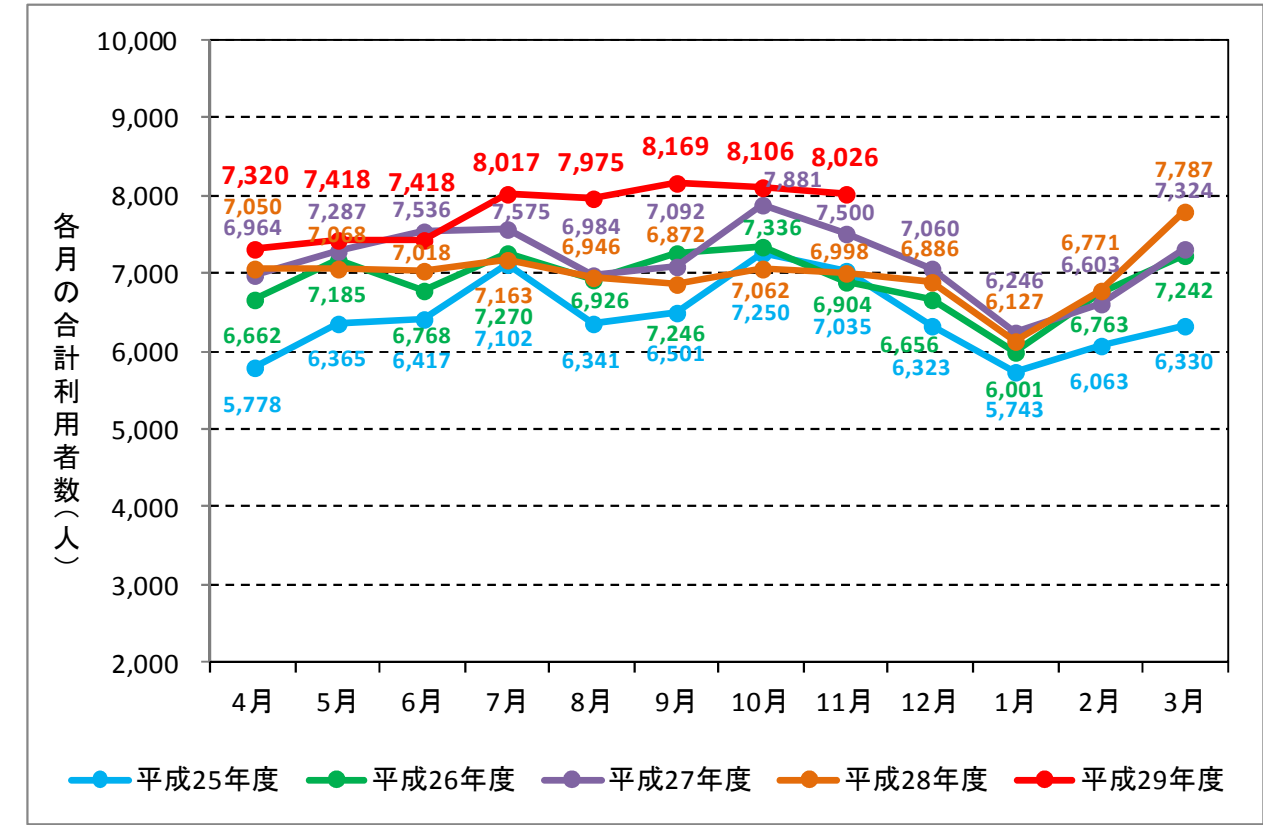
平成２９年１２月２６日

1. 平成29年11月までの豊川市コミュニティバスの運行実績について

1-1. 豊川市コミュニティバス利用者数の推移

新たな体系で運行を始めた平成28年10月以降においては、利用者数が前年同月より下回る状況が続きましたが、次第にその減少幅は小さくなり、平成29年2月以降の各月は、2月は168人、3月は463人、4月は270人、5月は350人、6月は400人、7月は854人、8月は1,029人、9月は1,297人、10月は1,044人、11月は1,028人それぞれ増加し、前年同月を上回りました。

運行開始から平成29年11月までの73ヶ月間の総利用者数は約49万人となっています。



※ 路線の主な見直し

- 平成24年10月 1日：一宮地区地域路線の路線変更
(2路線<東回り、西回り>に1路線<中回り>追加)
- 平成24年10月 1日：御油地区地域路線の運行開始
(1日6便による運行で、御油地区と国府駅を結ぶ路線で運行開始)
- 平成25年 5月 1日：豊川市民病院の移転に伴う路線再編
(豊川国府線、ゆうあいの里小坂井線、音羽線、御津線の市民病院の経由)
- 平成26年 5月 1日：御油地区地域路線の運行本数の変更
(1日6便から8便へ増便)
- 平成27年 5月 1日：御津地区地域路線の路線変更
(路線を5路線から7路線へ分割し、放射状の路線形態へ変更)
- 平成28年10月 1日：ダイヤ及び運行本数の変更、運賃体系の変更
(豊川国府線、音羽線、御津線は豊川市民病院以東を減便し、豊川市民病院以西を増便、ゆうあいの里小坂井線は最終便を減便)

1-2. 路線別の月別利用者数の推移

新たな体系で運行を始めた平成28年10月以降のうち、前年同月を上回る平成29年2月～11月の合計利用者数を前年同期間と比較すると、基幹路線6路線、地域路線4路線の全ての路線で上回っています。

平成27年度路線別の利用者数推移												
路線名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
豊川国府線	888	1,054	1,022	1,034	1,008	1,002	1,101	1,041	1,041	927	803	1,050
千両三上線	966	986	1,086	1,133	966	898	1,053	967	973	782	915	939
ゆうあいの里小坂井線	728	762	937	785	811	725	782	769	660	653	496	817
一宮線	883	978	818	967	878	932	1,016	1,185	934	801	1,083	962
音羽線	745	762	789	837	732	781	842	834	812	679	735	797
御津線	624	602	708	634	579	650	743	736	687	606	605	663
つつじバス (音羽地区地域路線)	823	853	865	866	905	812	913	798	918	761	845	875
ハートフル号 (御津地区地域路線)	382	336	373	294	151	282	356	333	302	258	291	277
本宮線のんほい号 (一宮地区地域路線)	608	582	575	629	592	591	696	493	414	488	503	569
ごゆりんバス (御油地区地域路線)	317	372	363	396	362	419	379	344	319	291	327	375
合 計	6,964	7,287	7,536	7,575	6,984	7,092	7,881	7,500	7,060	6,246	6,603	7,324

平成28年度路線別の利用者数推移														H27との比較	
路線名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平成28年度合計	増減数	増減率
豊 川 国 府 線	943	957	897	951	816	953	780	892	799	740	788	872	10,388	-1,583	-13.2%
千 両 三 上 線	912	931	966	962	944	925	1,043	978	979	932	921	1,036	11,529	-135	-1.2%
ゆうあいの里小坂井線	747	734	690	667	836	659	737	749	681	609	740	917	8,766	-159	-1.8%
一 宮 線	1,024	980	906	1,010	915	934	1,053	1,057	967	935	1,054	1,150	11,985	548	4.8%
音 羽 線	692	758	725	810	782	699	713	773	860	598	707	928	9,045	-300	-3.2%
御 津 線	611	661	713	672	678	660	698	575	546	479	502	654	7,449	-388	-5.0%
つつじバス (音羽地区地域路線)	905	841	912	905	888	842	735	695	832	721	805	899	9,980	-254	-2.5%
ハートフル号 (御津地区地域路線)	269	291	306	229	113	272	292	284	266	245	281	268	3,116	-519	-14.3%
本宮線のんほい号 (一宮地区地域路線)	521	530	510	518	495	469	524	542	452	508	501	572	6,142	-598	-8.9%
ごゆりんバス (御油地区地域路線)	426	385	393	439	479	459	487	453	504	360	472	491	5,348	1,084	25.4%
合 計	7,050	7,068	7,018	7,163	6,946	6,872	7,062	6,998	6,886	6,127	6,771	7,787	83,748	-2,304	-2.7%

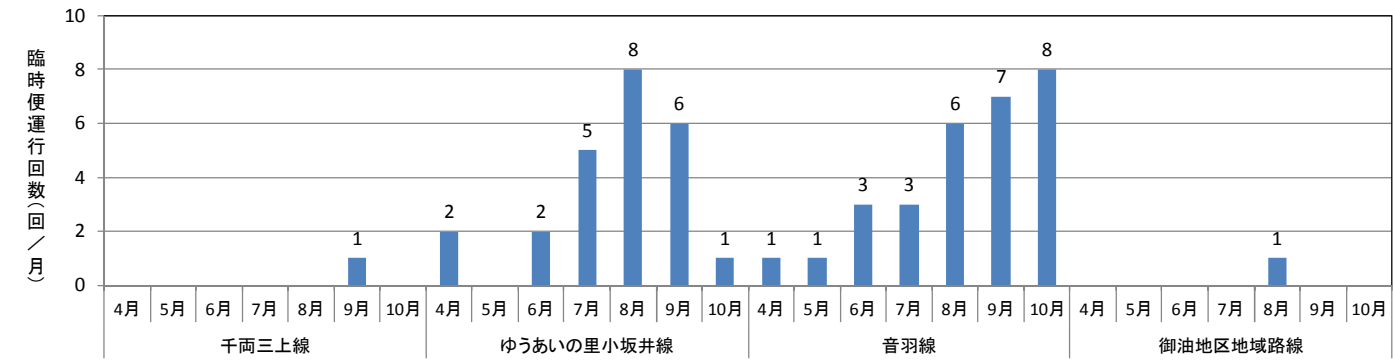
平成29年度路線別の利用者数推移												
路線名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
豊川国府線	853	973	973	1,049	832	1,036	917	968				
千両三上線	989	1,011	1,046	1,118	1,054	1,072	988	1,025				
ゆうあいの里小坂井線	861	782	789	908	965	996	947	959				
一宮線	1,000	1,084	1,082	1,151	1,057	1,043	1,187	1,261				
音羽線	735	793	790	852	900	898	941	885				
御津線	694	762	697	657	805	715	727	684				
つつじバス (音羽地区地域路線)	868	729	713	851	1,012	953	996	861				
ハートフル号 (御津地区地域路線)	270	275	282	226	164	263	315	332				
本宮線のんほい号 (一宮地区地域路線)	525	481	460	600	588	575	471	484				
ごゆりんバス (御油地区地域路線)	525	528	586	605	598	618	617	567				
合 計	7,320	7,418	7,418	8,017	7,975	8,169	8,106	8,026	0	0	0	0

1-3. 定員超過時に追加運行した臨時便の運行状況

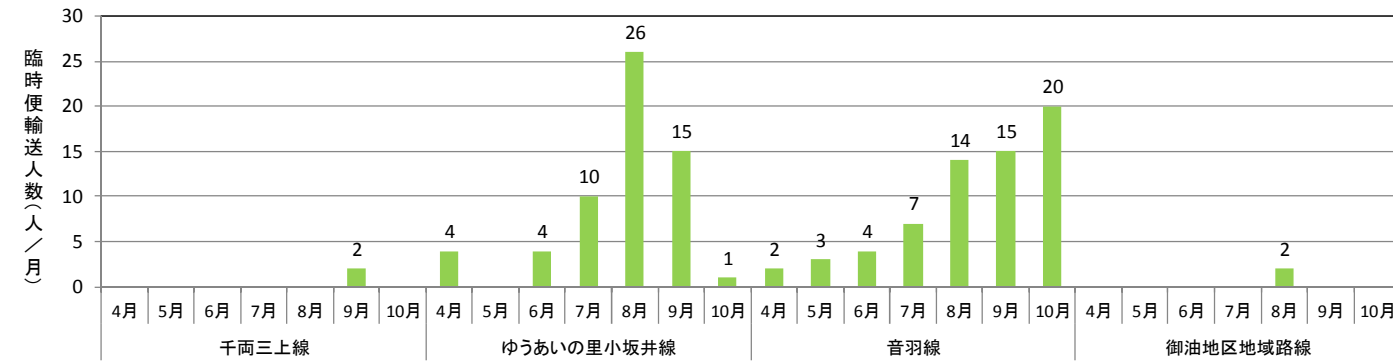
平成29年4月以降で臨時便が運行された路線は、ゆうあいの里小坂井線、音羽線が多くなっています。

臨時便が運行された便は、ゆうあいの里小坂井線、音羽線のともに、第1便に集中している状況にあります。

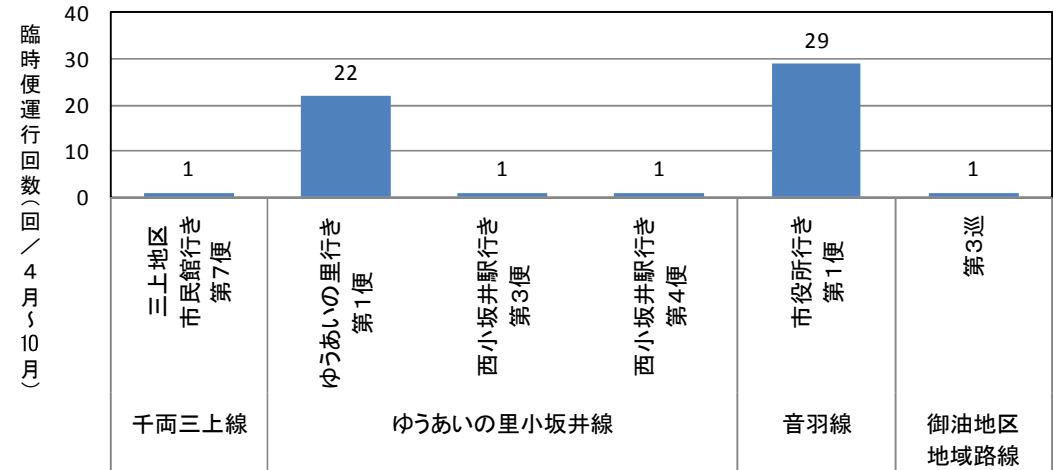
路線別月別の臨時便運行回数



路線別月別の臨時便輸送人数

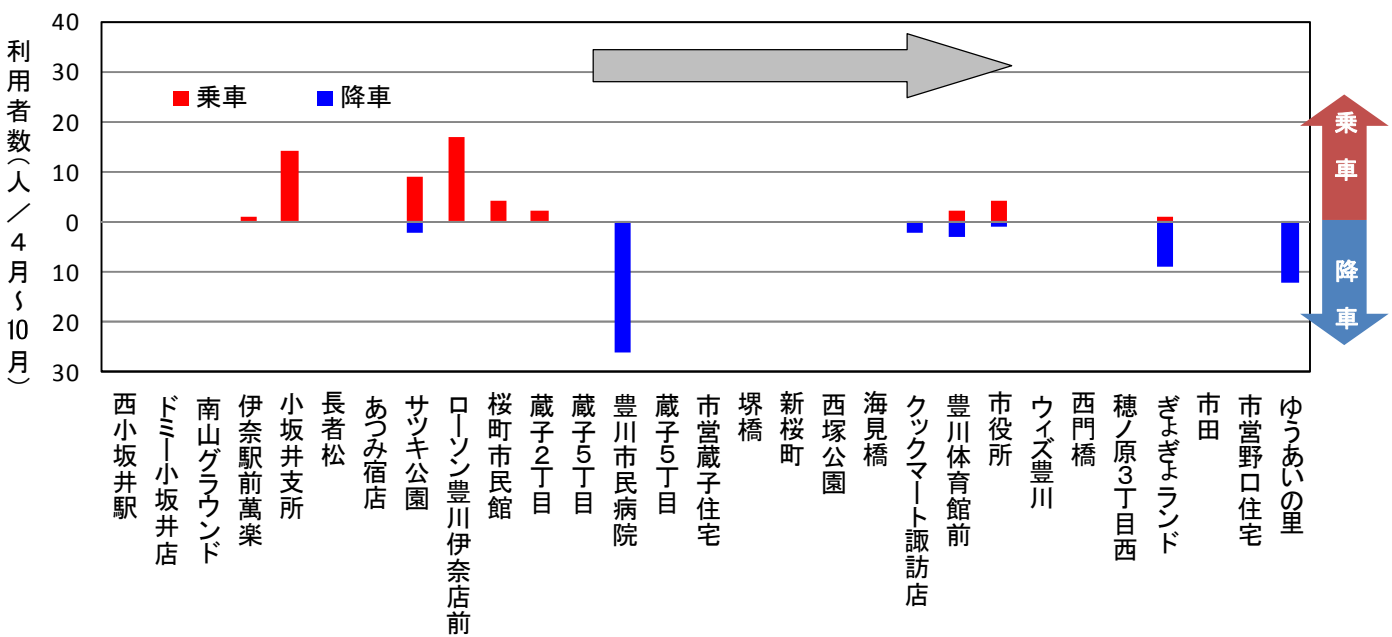


路線別便別の臨時便運行回数

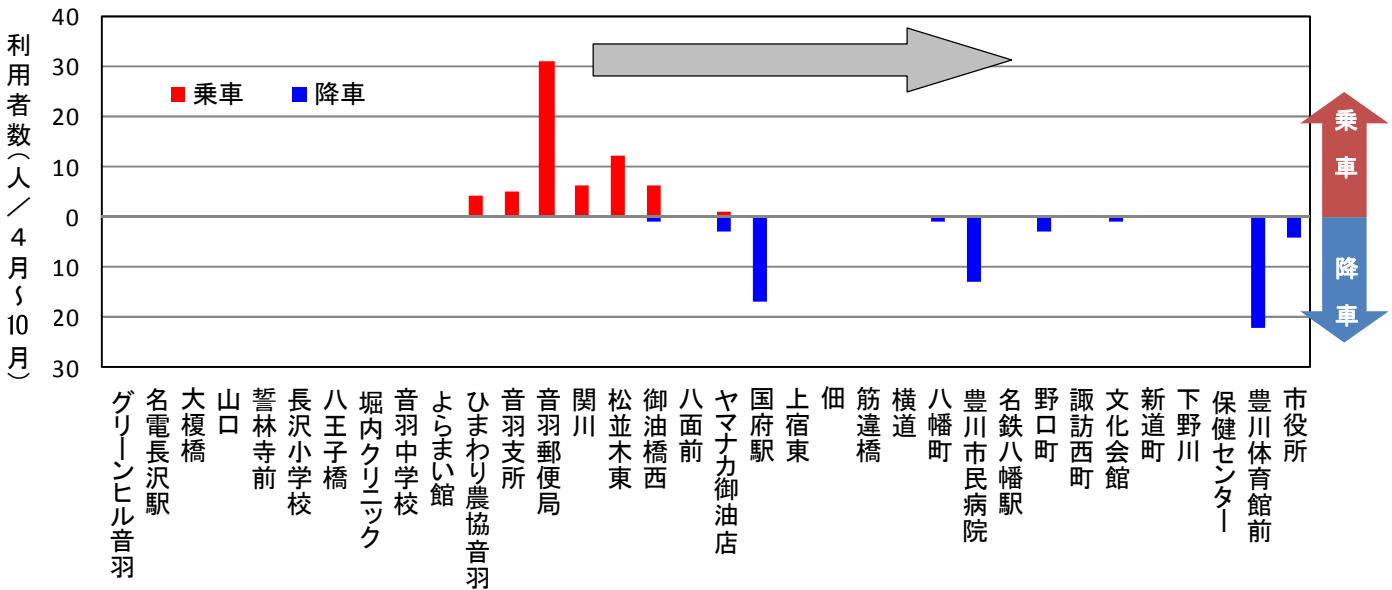


臨時便の運行が多い第1 便利用者の乗降バス停をみると、ゆうあいの里小坂井線では「小坂井支所」、「サツキ公園」、「ローソン豊川伊奈店前」から乗車し、「豊川市民病院」、「ぎょぎょランド」、「ゆうあいの里」で降車、音羽線では「音羽郵便局」を中心としたその前後のバス停から乗車し、「国府駅」、「豊川市民病院」、「豊川体育館前」で降車する利用の多さが目立っています。

臨時便利用者の乗降バス停：ゆうあいの里小坂井線（ゆうあいの里行き第1便）



臨時便利用者の乗降バス停：音羽線（市役所行き第1便）



2. 【報告事項（2）】OD調査結果について

2-1. 調査の実施概要と回収結果

バス利用者の移動状況を把握するため、OD調査を以下のとおり実施しました。

- ① 豊川市コミュニティバス（10路線）：10/24(火)～28(土)：5日間
- ② 豊鉄バス 新豊線・豊川線（正岡～東上バス停）：10/24(火)・10/28(土)：2日間

回答者数は全体では2,423人となり、前年比106%となっています。

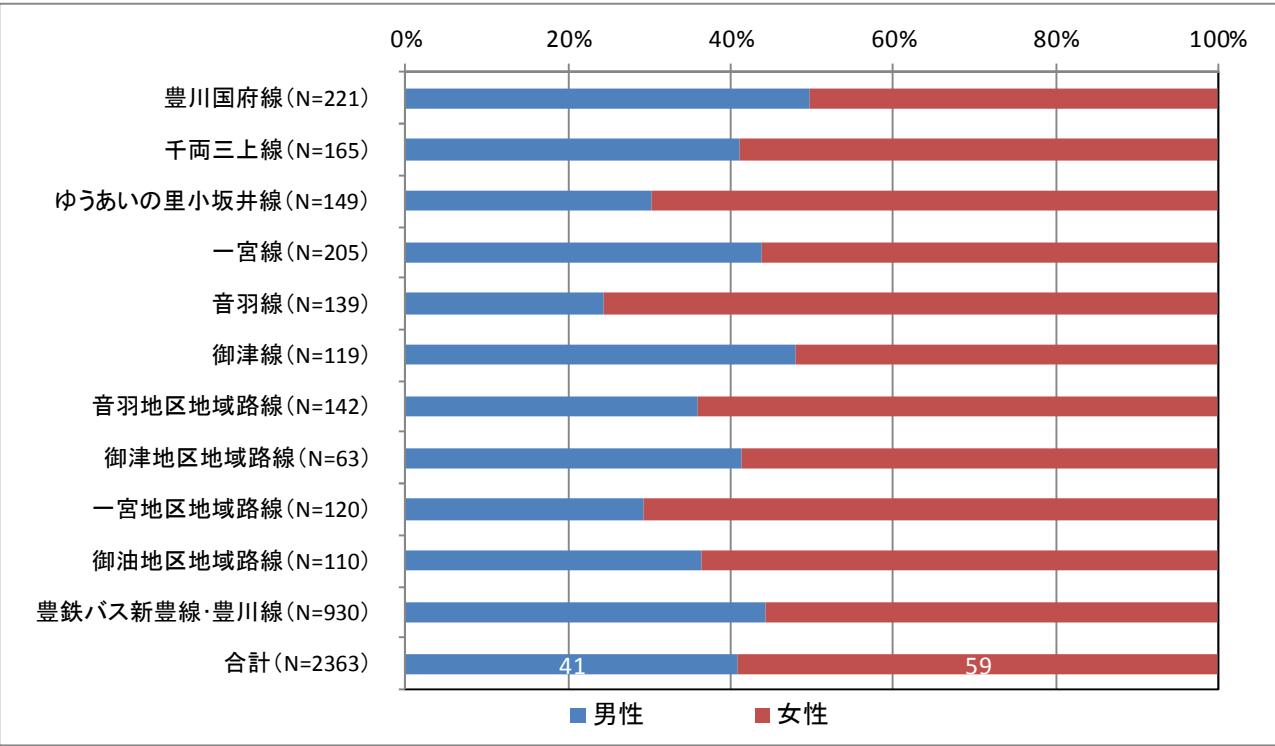
また、豊川市コミュニティバスのOD調査期間中の利用者数に対するOD調査カードの回収率は、全体で99.3%でした。

路線名		10月					合計	前年合計	前年比
		24日 (火)	25日 (水)	26日 (木)	27日 (金)	28日 (土)			
		曇	雨／晴	晴	晴	雨			
豊川市 コミュニティバス	豊川国府線	65	42	48	46	20	221	158	140%
	千両三上線	32	34	31	51	30	178	187	95%
	ゆうあいの里小坂井線	41	29	23	38	22	153	127	120%
	一宮線	42	34	59	39	31	205	194	106%
	音羽線	47	19	29	33	14	142	136	104%
	御津線	28	35	25	25	17	130	122	107%
	音羽地区地域路線	46	18	28	40	22	154	137	112%
	御津地区地域路線	12	19	10	18	6	65	50	130%
	一宮地区地域路線	32	26	26	14	24	122	127	96%
	御油地区地域路線	29	16	16	26	27	114	92	124%
	合計	374	272	295	330	213	1,484	1,330	112%
豊鉄バス	新豊線・豊川線	576	-	-	-	363	939	964	97%
全体合計		950	272	295	330	576	2,423	2,294	106%

2-2. 調査結果

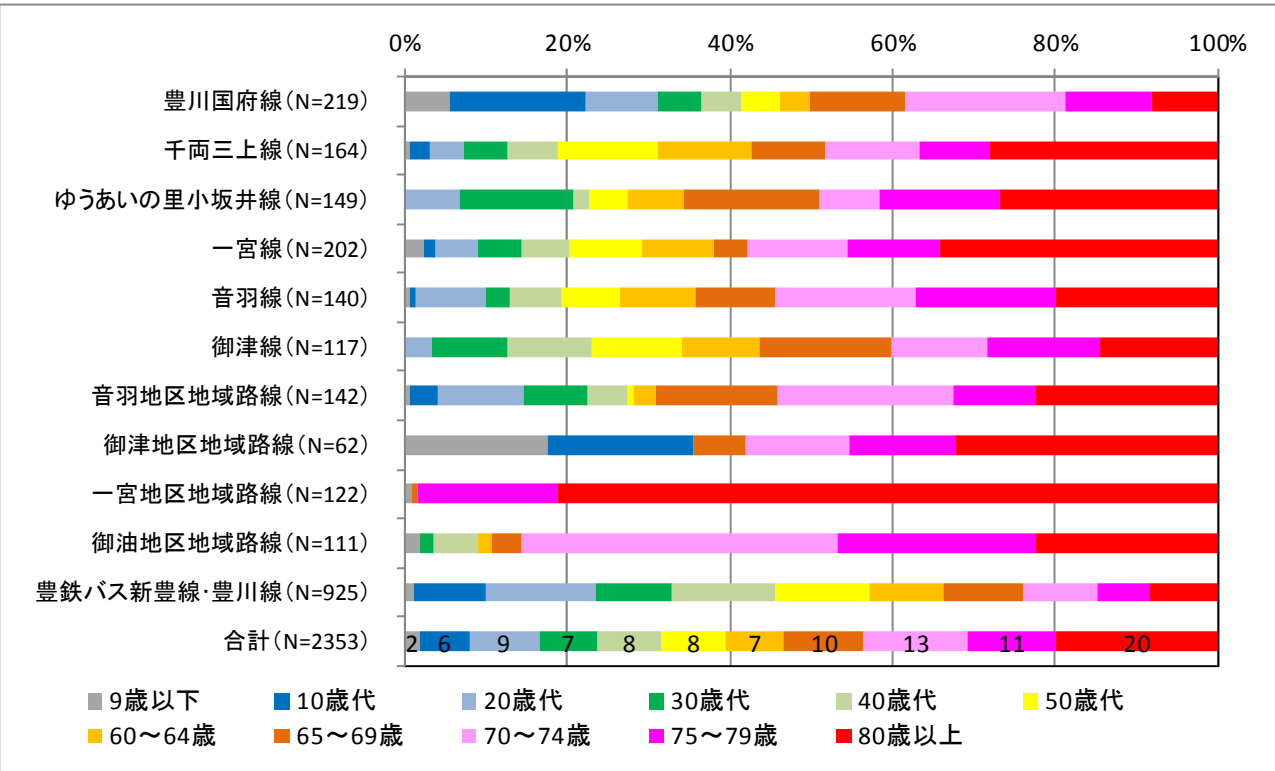
(1) 性別

全体では、女性の利用割合が59%（H28調査時：65%）と多くなっています。



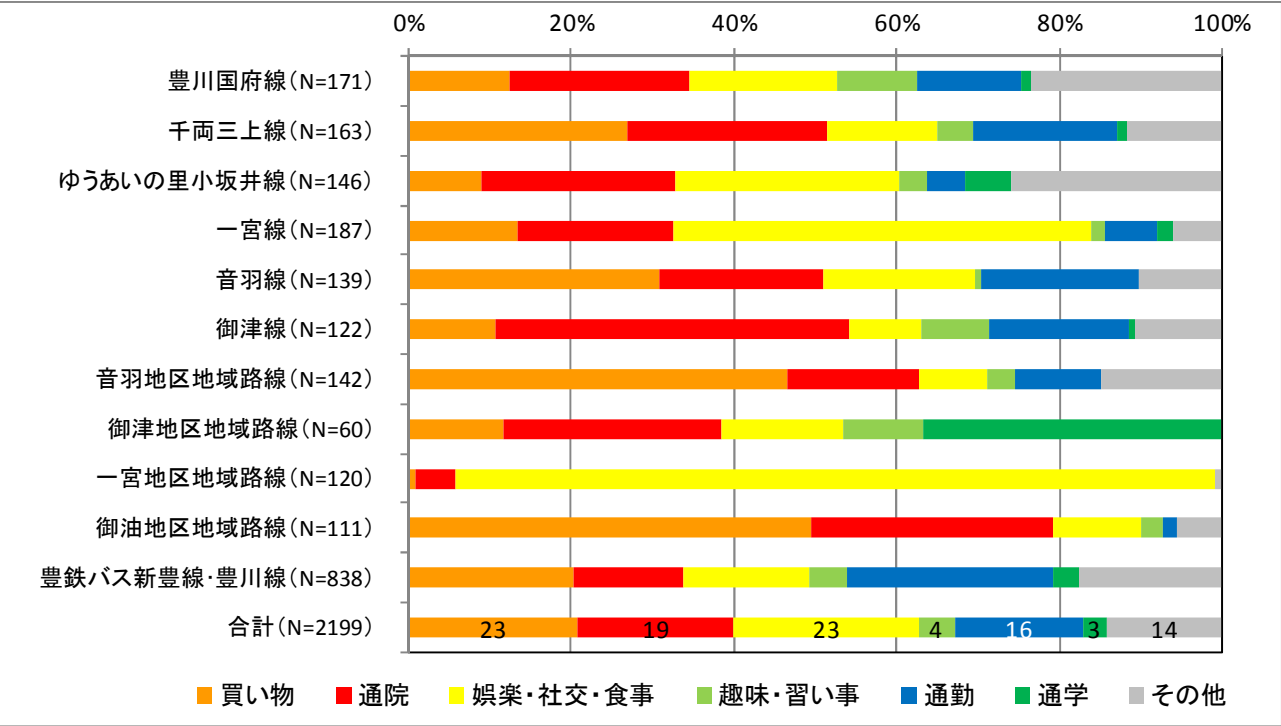
(2) 年齢

全体では、60歳以上の利用割合が60%（H28調査時：59%）を占めています。



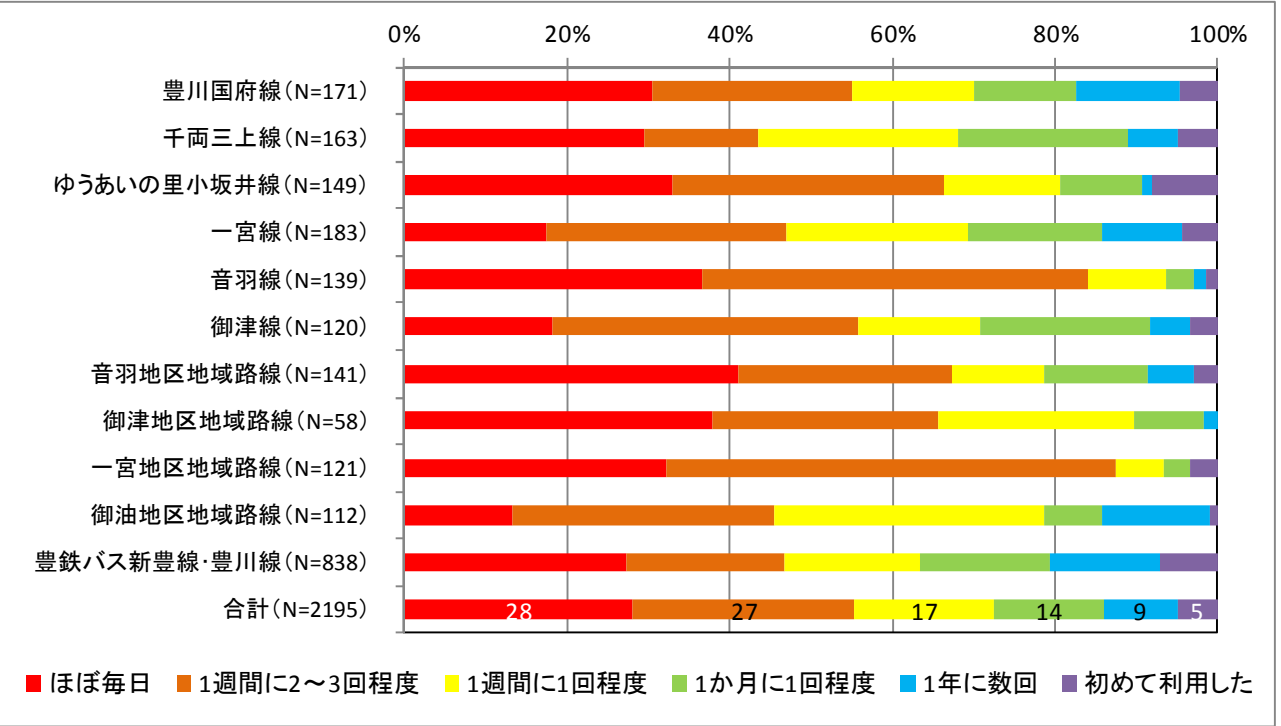
（３）利用目的

全体では、「買い物」目的と「娯楽・社交・食事」目的の利用割合が最も多く、次いで「通院」目的、「通勤」目的の順で多くなっています。（H28 調査時と同じ傾向）



（４）利用頻度

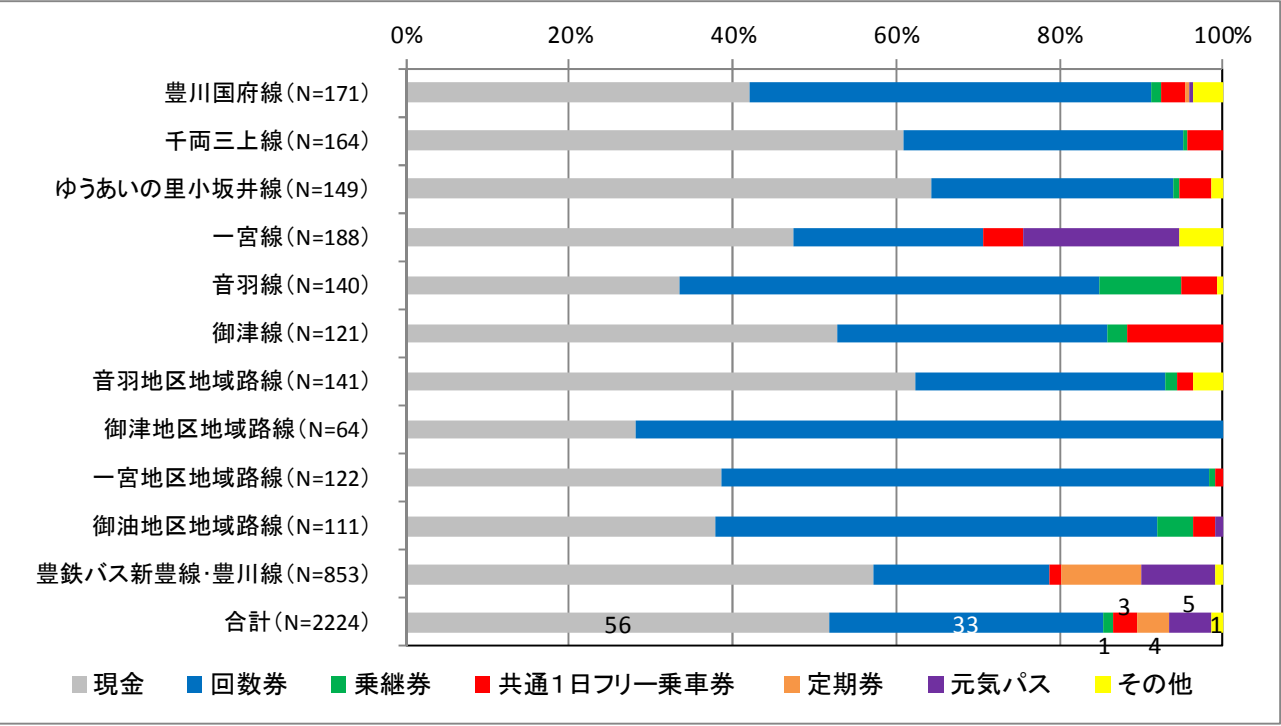
全体では、１週間に１回以上利用する割合が７２％（H28 調査時：７０％）を占めています。



（５）運賃支払いの方法

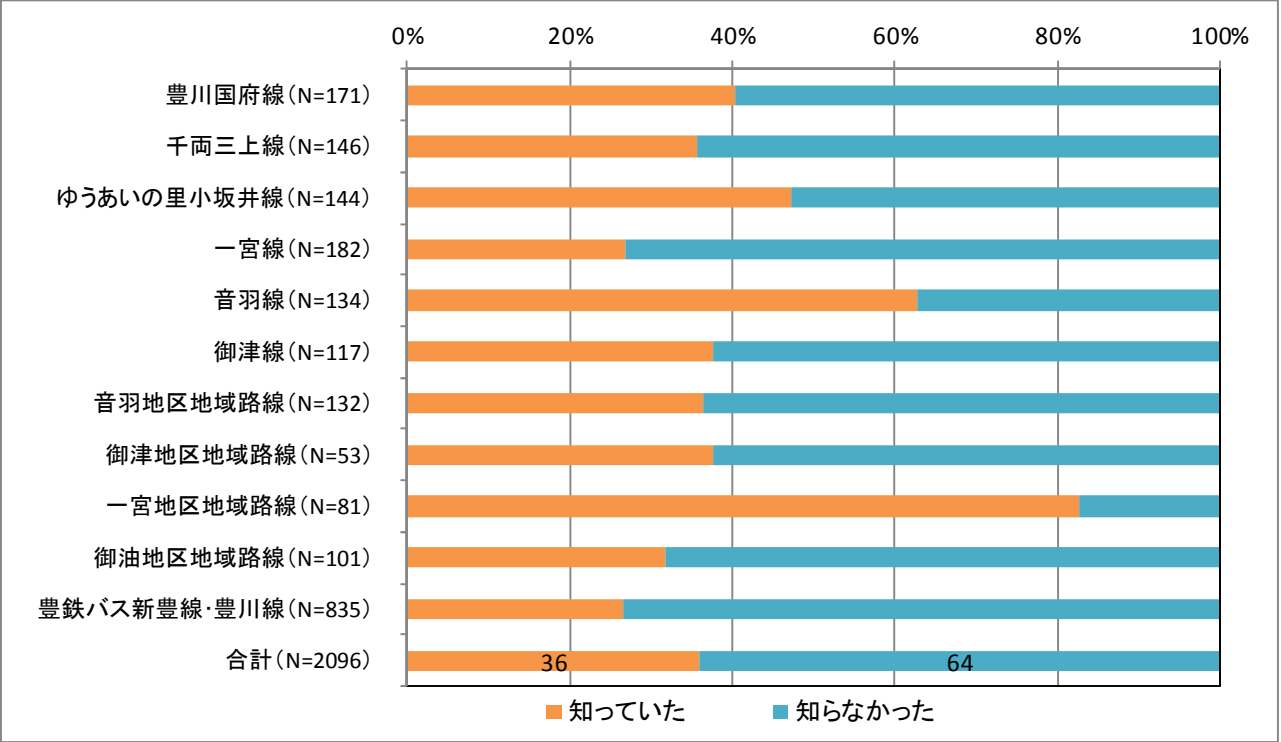
全体では、現金のみの利用割合が５６％（H28 調査時：５６％）と最も多く、次いで回数券のみの利用割合が３３％（H28 調査時：３２％）と多くなっています。

共通１日フリー乗車券の利用割合は３％（H28 調査時：１％）となっています。



（６）共通ゾーン制導入の認知度

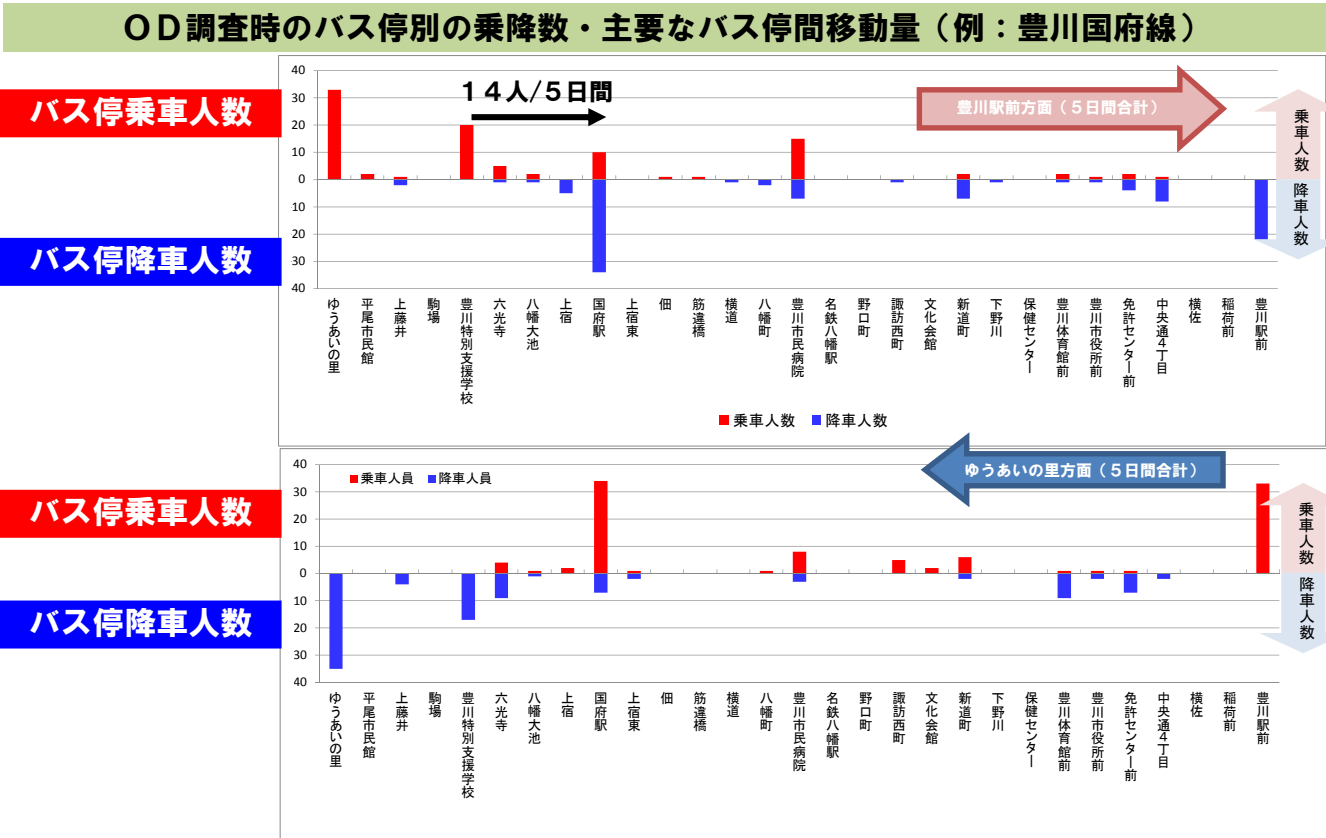
共通ゾーン制導入についての認知度は、全体では「知っていた」が３６％（H28 調査時：３４％）となっており、「知らなかった」よりも少ない割合となっています。



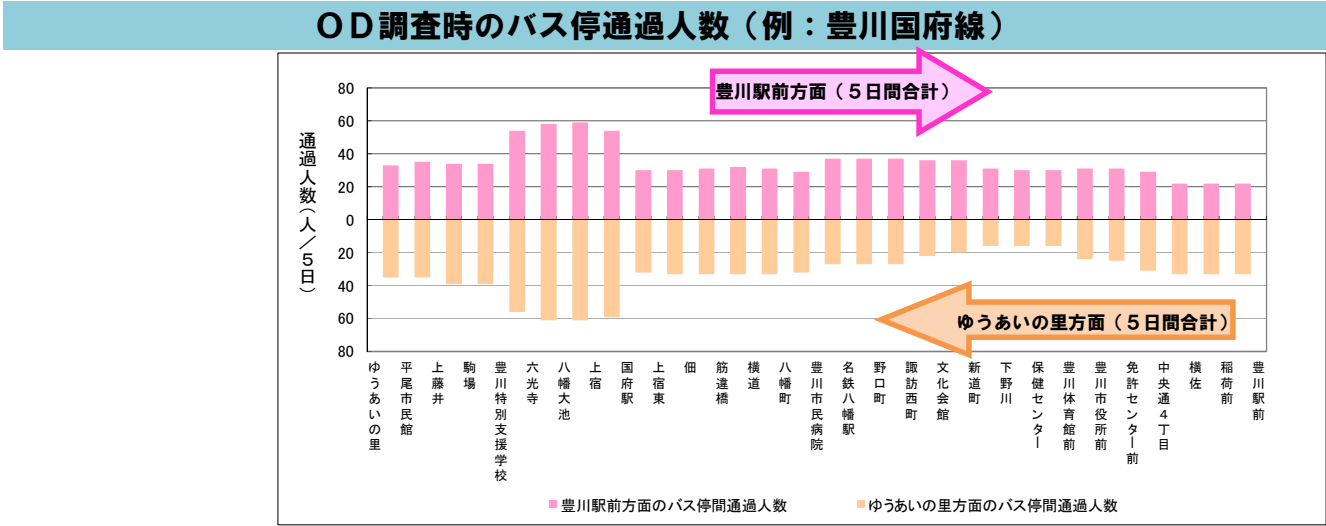
2-3. OD 調査移動数の結果概要

(1) グラフの見方

OD 調査の結果を右頁以降に示します。
ここではグラフの見方について説明いたします。各路線グラフは2種類あります。



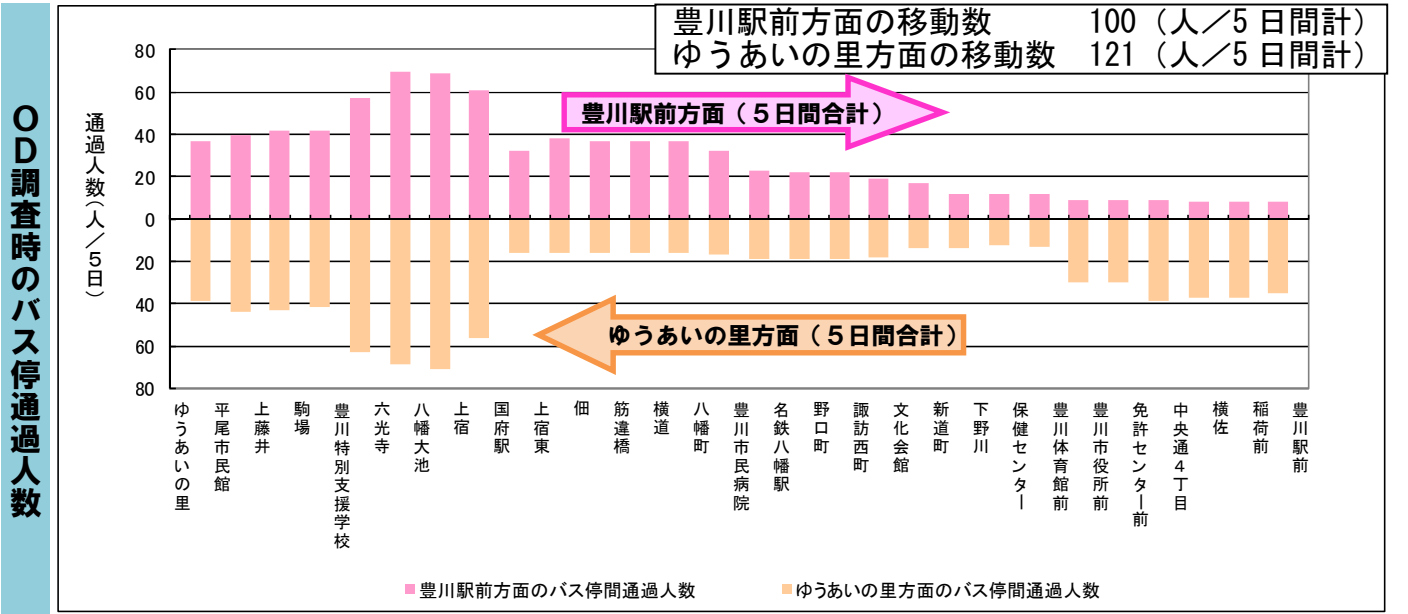
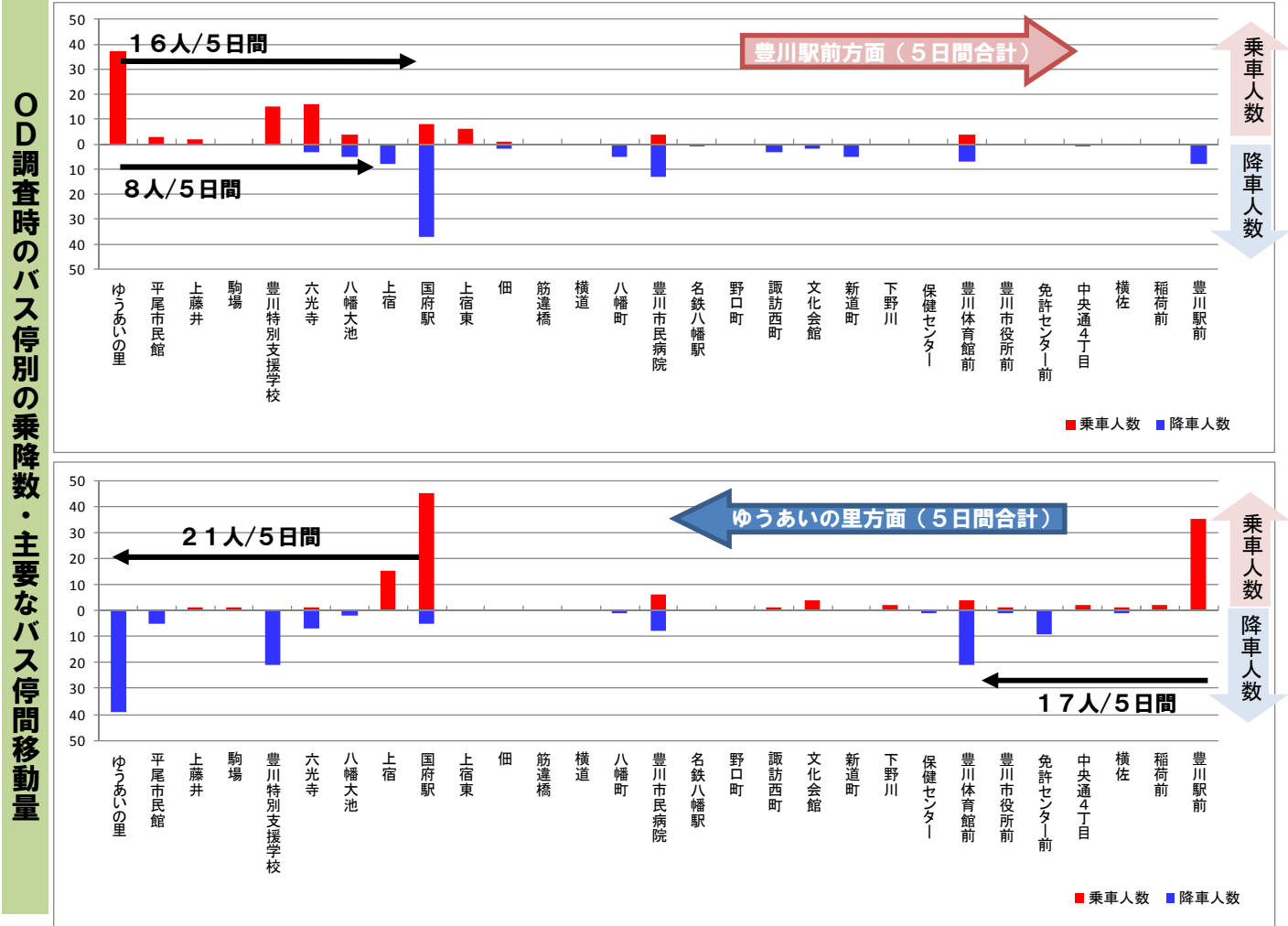
グラフの見方 <<例：豊川国府線>>
○方向別に記載しています。
○各バス停ごとの赤いグラフは乗車人数、青いグラフは降車人数を示しています。
○黒色の横棒及び数値はそのバス停間での移動人数を示します。ただし、紙面の関係で全ての移動を表記できないため、移動数が多いものを挙げています。
例) 豊川国府線では豊川特別支援学校から乗車し国府駅で降車した方が14人/5日です。



グラフの見方 <<例：豊川国府線>>
○ピンク色またはオレンジ色のグラフ縦軸は、各方面への通過人数（人/調査日合計）を示します。

(2) 豊川国府線（5日間：バス停出発時の通過人数を方向別に表示）

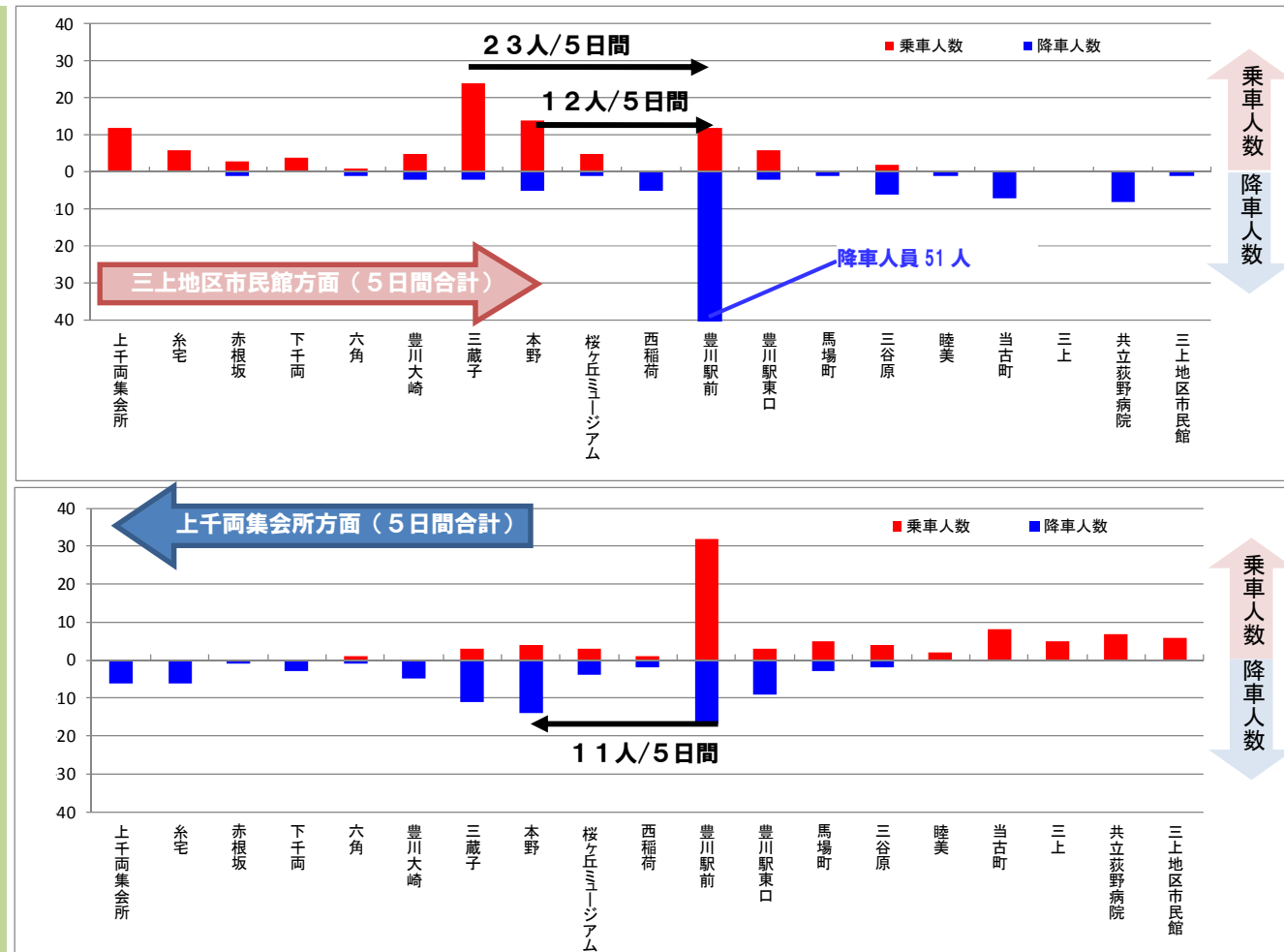
- ・豊川駅前方面は、「ゆうあいの里」から乗車し「国府駅」及び「上宿」で降車する利用が多くなっています。
- ・ゆうあいの里方面は、「国府駅」から乗車し「ゆうあいの里」で降車、「豊川駅前」から乗車し「豊川体育館前」で降車する利用が多くなっています。



(3) 千両三上線（5日間：バス停出発時の通過人数を方向別に表示）

- ・三上地区市民館方面は、「三蔵子」、「本野」から乗車し「豊川駅前」で降車する利用が多くなっています。
- ・上千両集会所方面は、「豊川駅前」から乗車し「本野」で降車する利用が多くなっています。

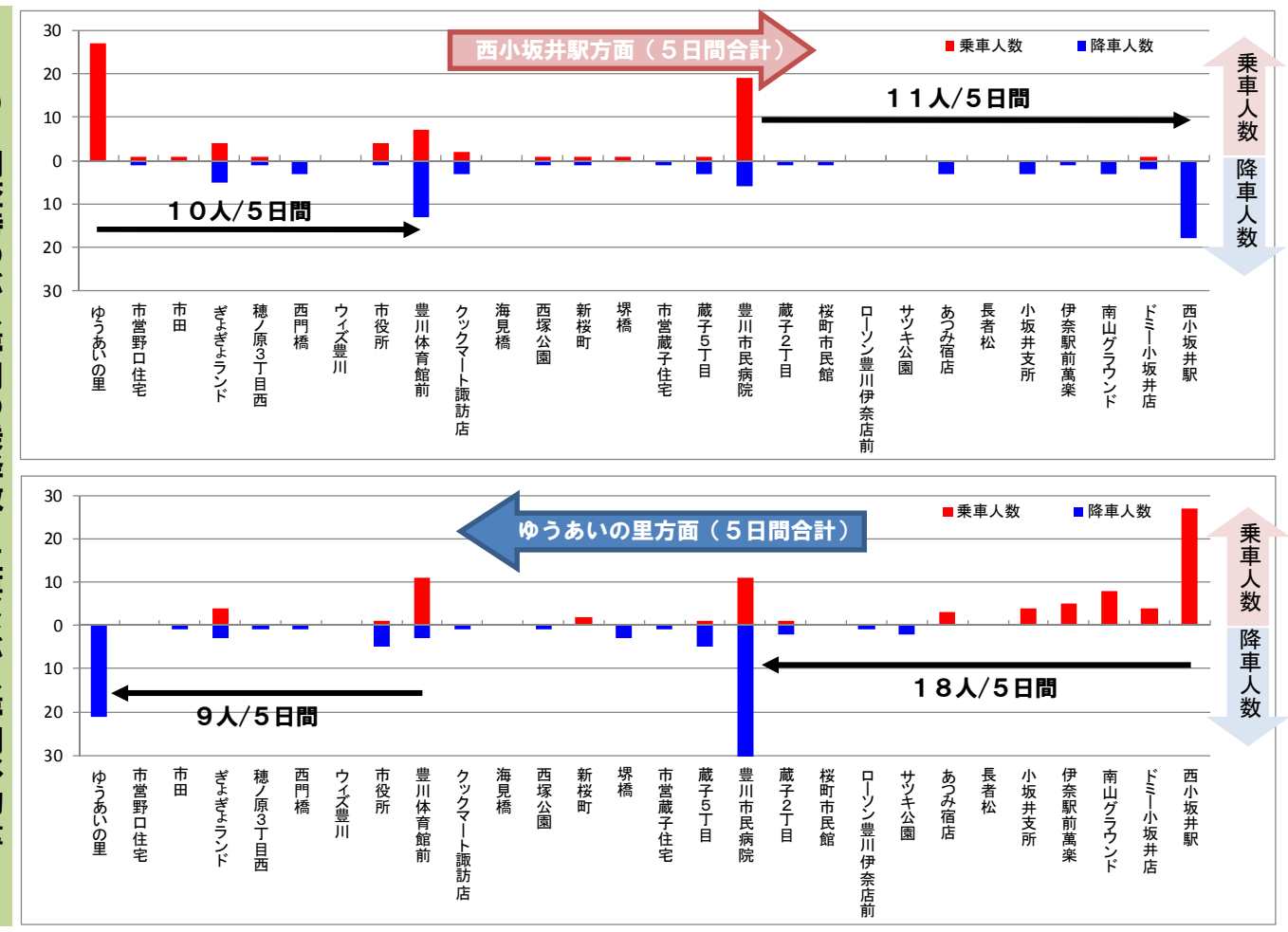
OD調査時のバス停別の乗降数主要なバス停間移動量



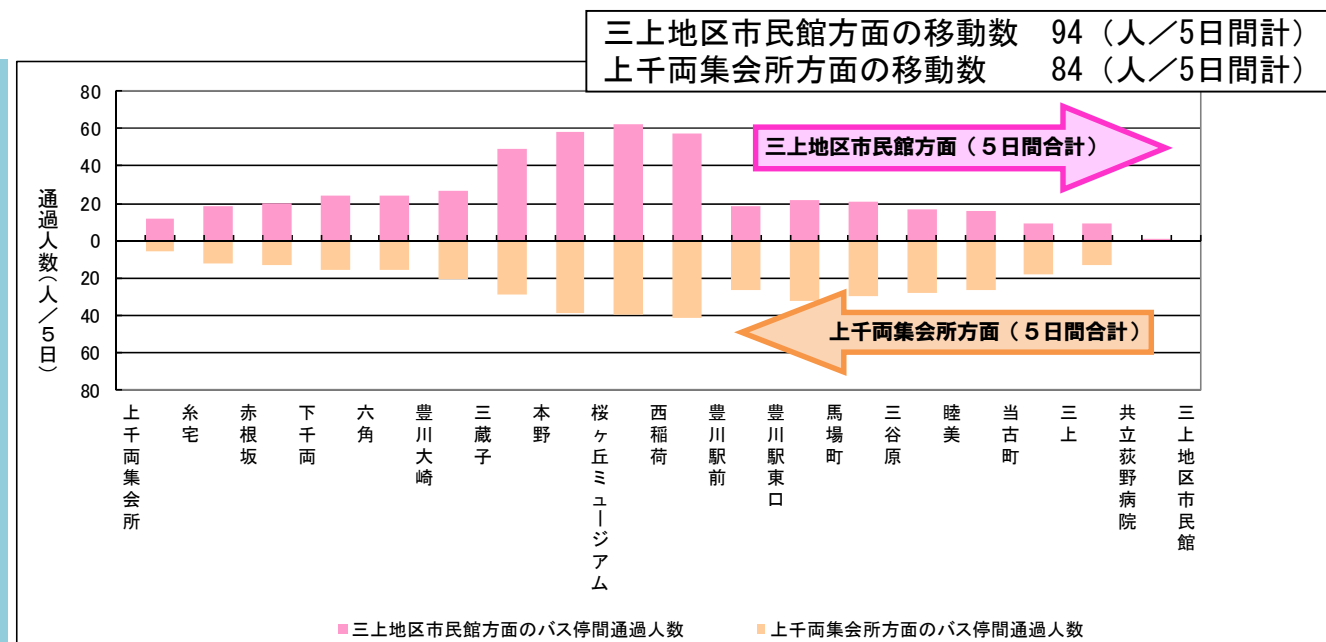
(4) ゆうあいの里小坂井線（5日間：バス停出発時の通過人数を方向別に表示）

- ・西小坂井駅方面は、「豊川市民病院」から乗車し「西小坂井駅」で降車、「ゆうあいの里」から乗車し「豊川体育館前」で降車する利用が多くなっています。
- ・ゆうあいの里方面は、「豊川体育館前」から乗車し「ゆうあいの里」で降車、「西小坂井駅」から乗車し「豊川市民病院」で降車する利用が多くなっています。

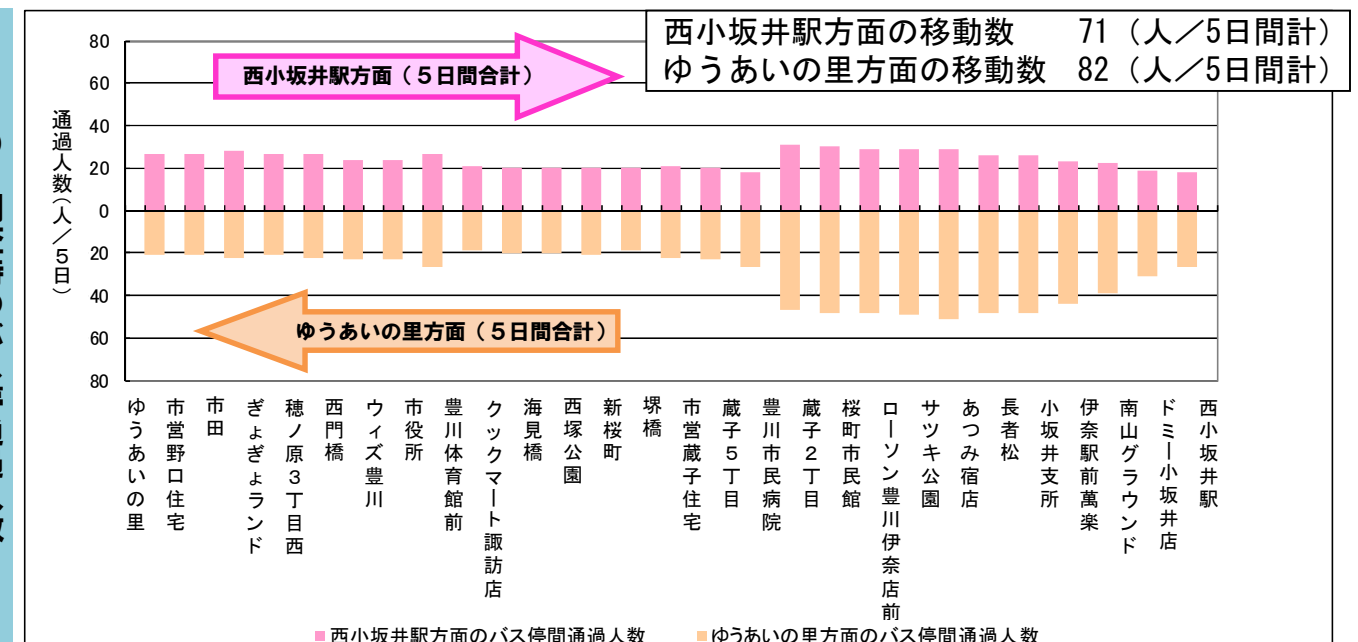
OD調査時のバス停別の乗降数・主要なバス停間移動量



OD調査時のバス停通過人数

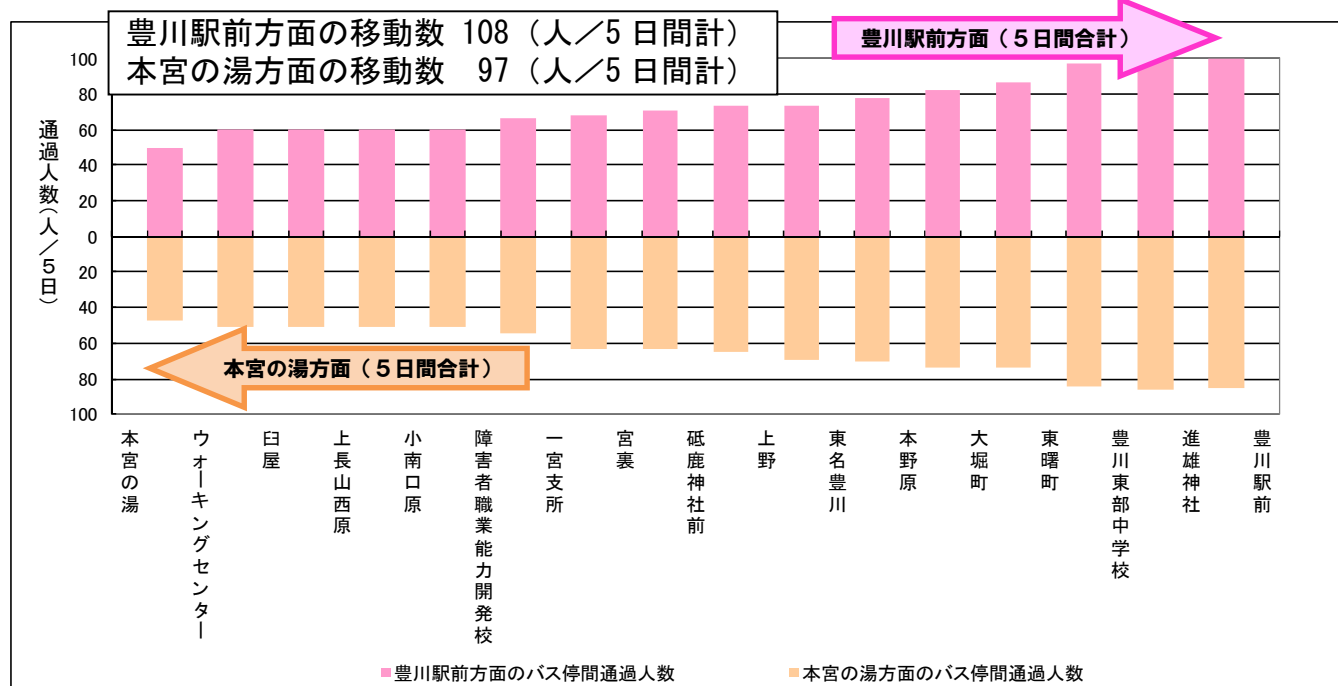
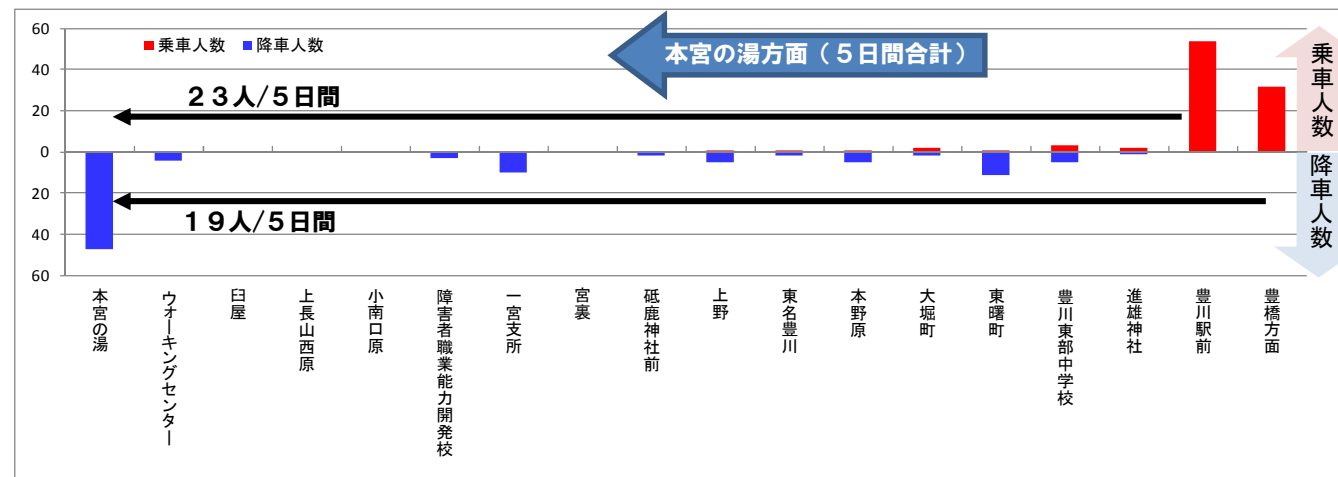
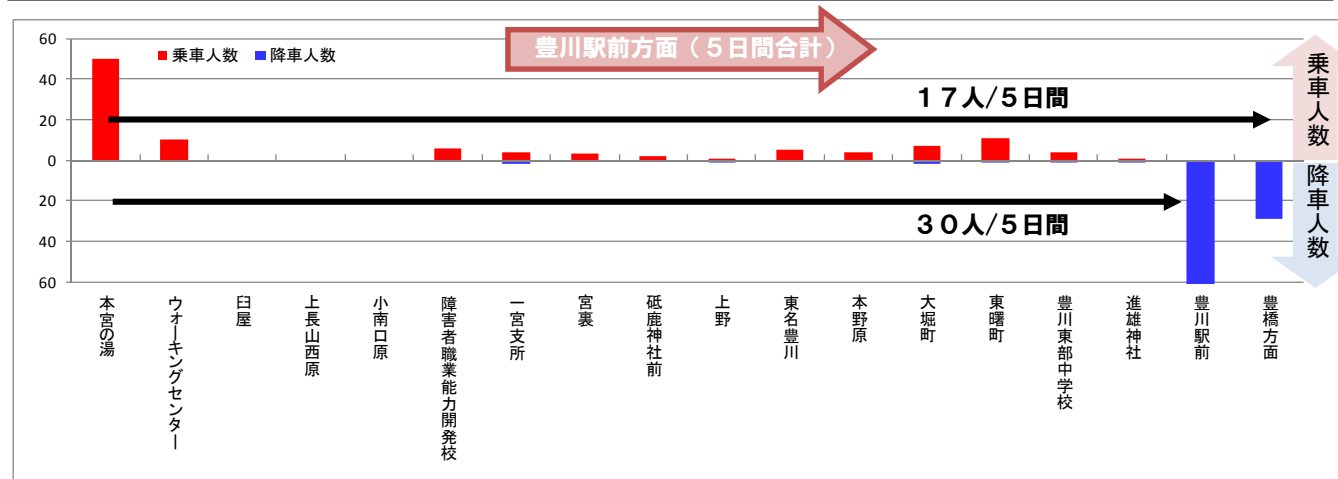


OD調査時のバス停通過人数



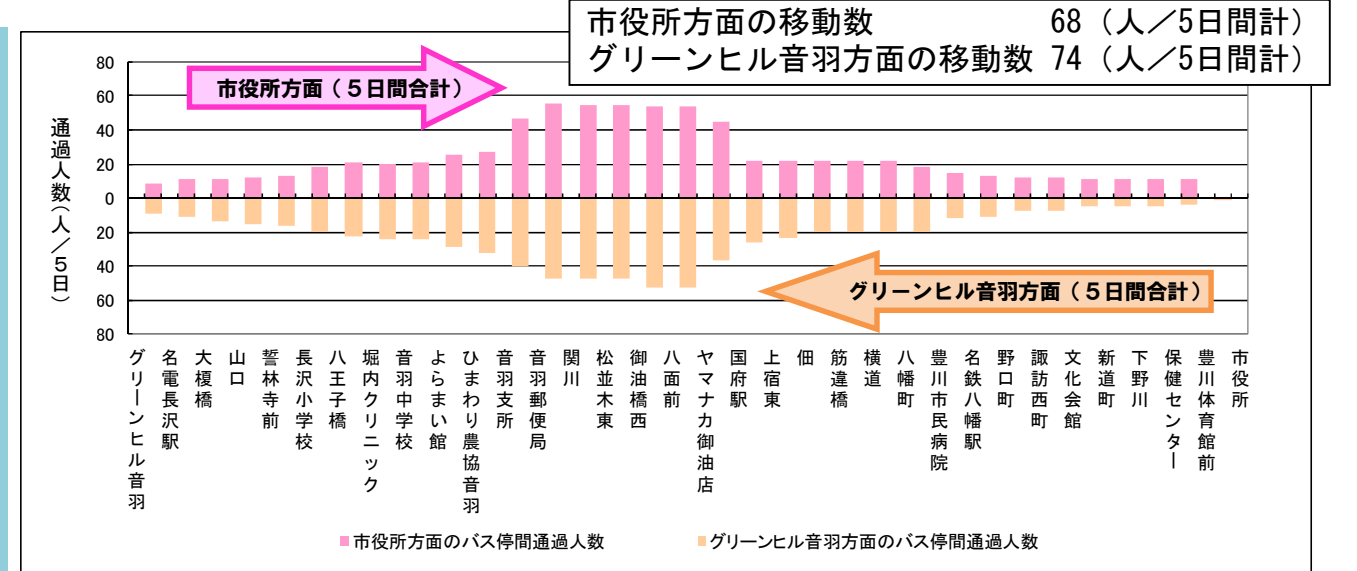
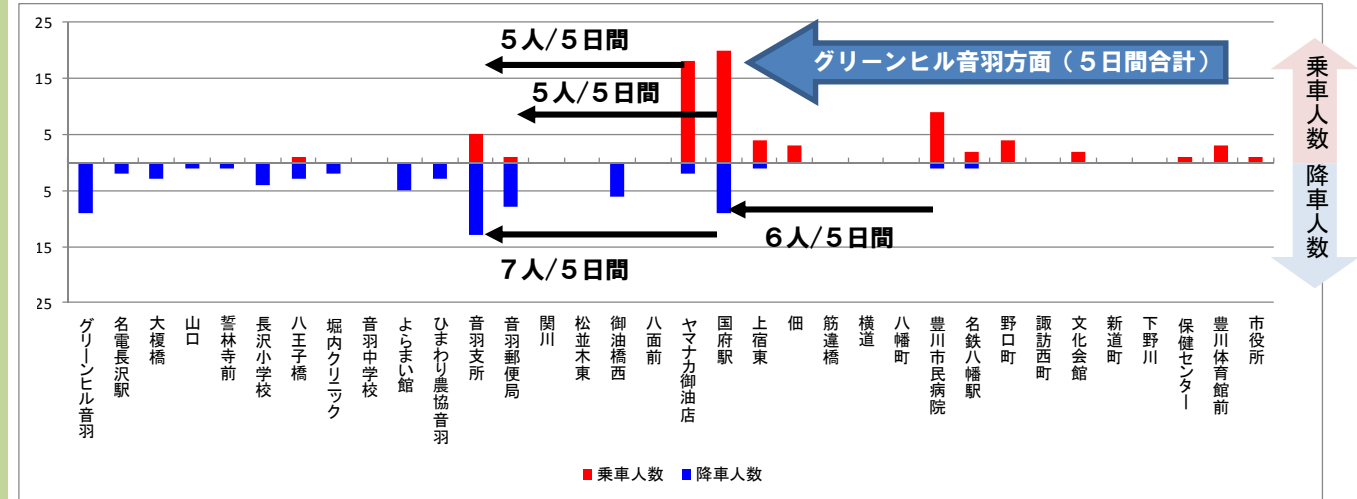
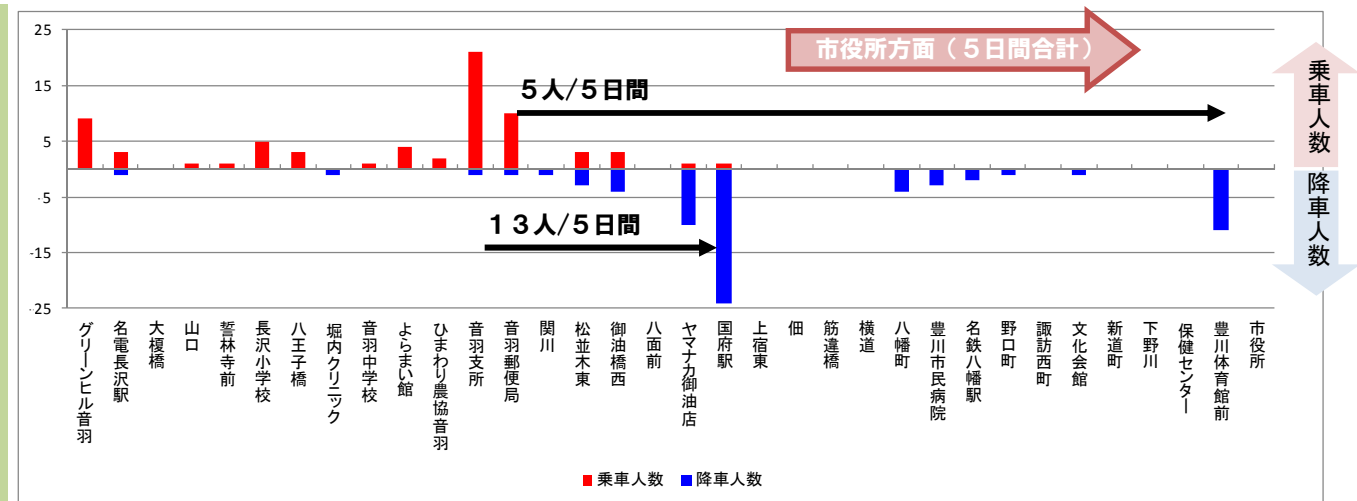
（５）一宮線（５日間：バス停出発時の通過人数を方向別に表示）

- ・豊川駅前方面は、「本宮の湯」から乗車し「豊川駅前」で降車、「本宮の湯」から乗車し「豊橋方面」で降車する利用が多くなっています。
- ・本宮の湯方面は、「豊川駅前」から乗車し「本宮の湯」で降車、「豊橋方面」から乗車し「本宮の湯」で降車する利用が多くなっています。



（６）音羽線（５日間：バス停出発時の通過人数を方向別に表示）

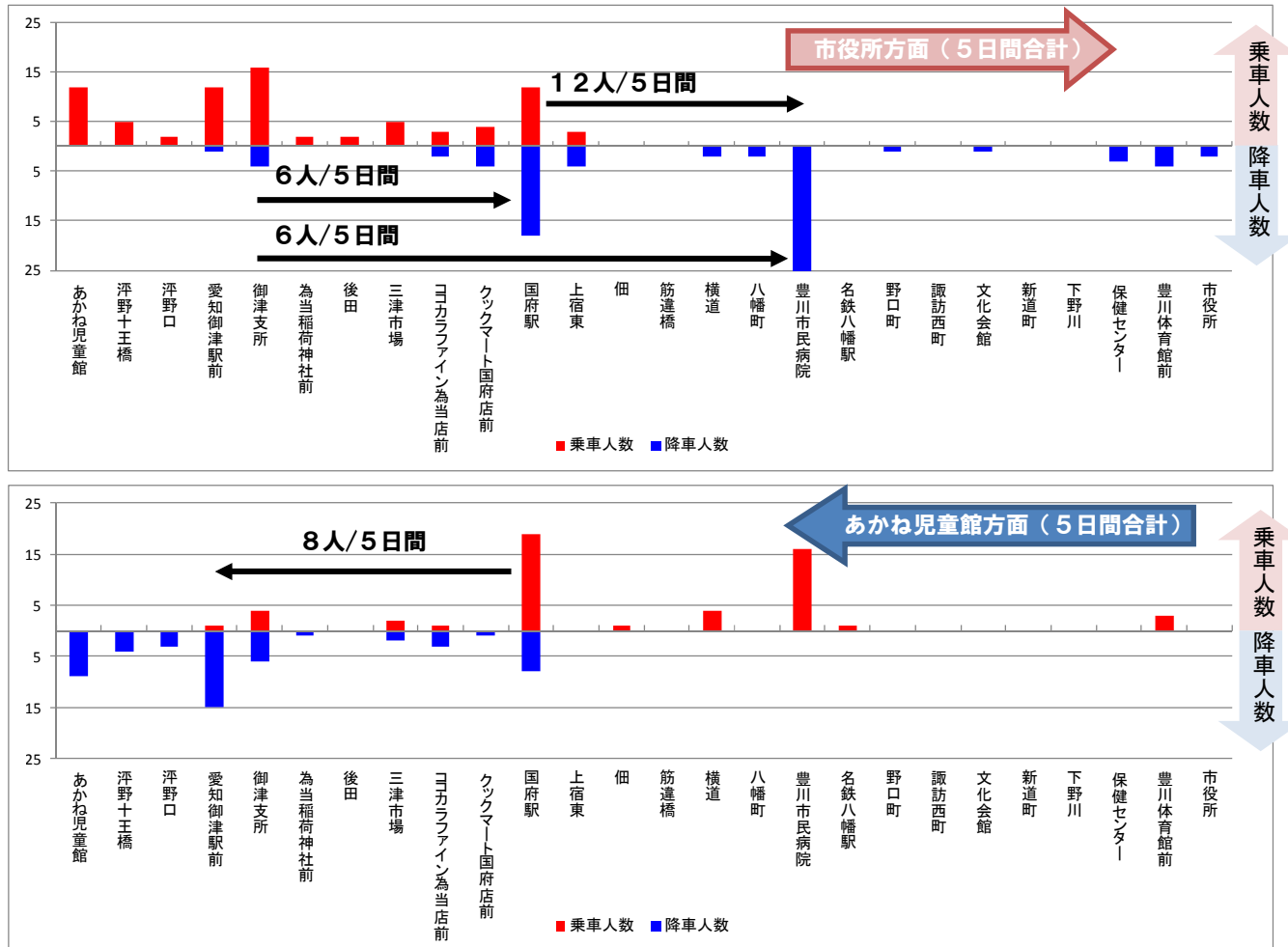
- ・市役所方面は、「音羽支所」から乗車し「国府駅」で降車、「音羽郵便局」から乗車し「豊川体育館前」で降車する利用が多くなっています。
- ・グリーンヒル音羽方面は、「国府駅」、「ヤマナカ御油店」から乗車し「音羽郵便局」、「音羽支所」で降車、「豊川市民病院」から乗車し「国府駅」で降車する利用が多くなっています。



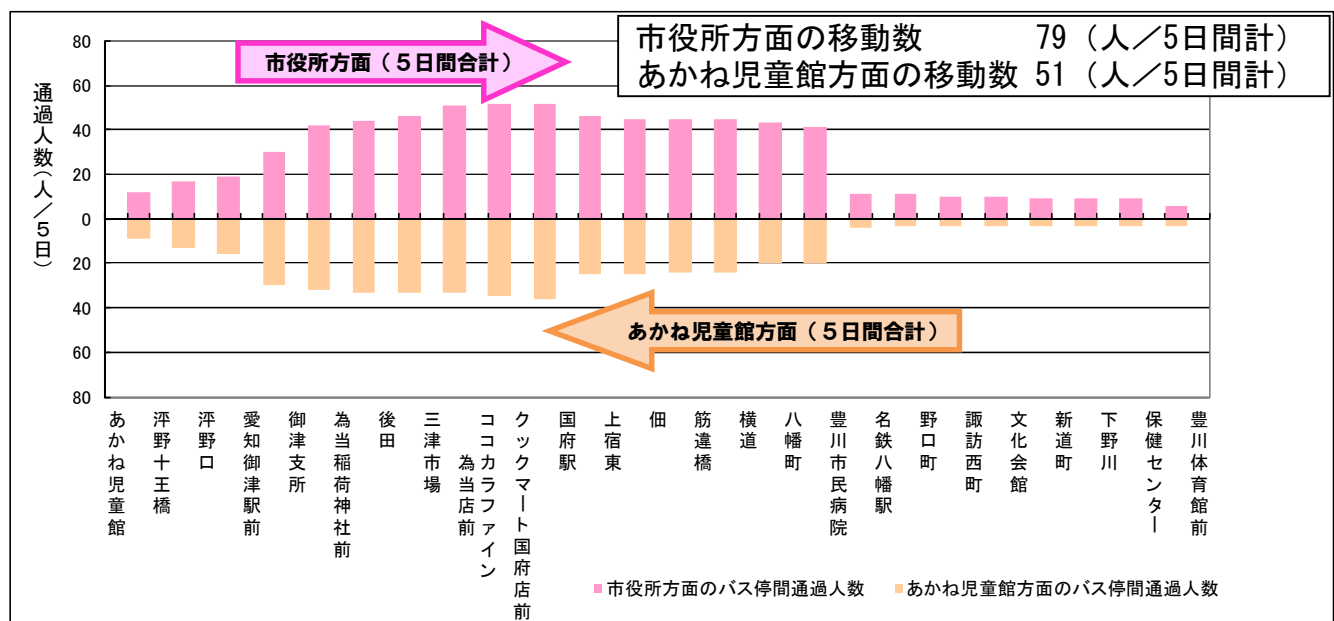
（７）御津線（５日間：バス停出発時の通過人数を方向別に表示）

- ・市役所方面は、「御津支所」から乗車し「国府駅」、「豊川市民病院」で降車、「国府駅」から乗車し「豊川市民病院」で降車する利用が多くなっています。
- ・あかね児童館方面は、「国府駅」から乗車し「愛知御津駅前」で降車する利用が多くなっています。

OD調査時のバス停別の乗降数・主要なバス停間移動量



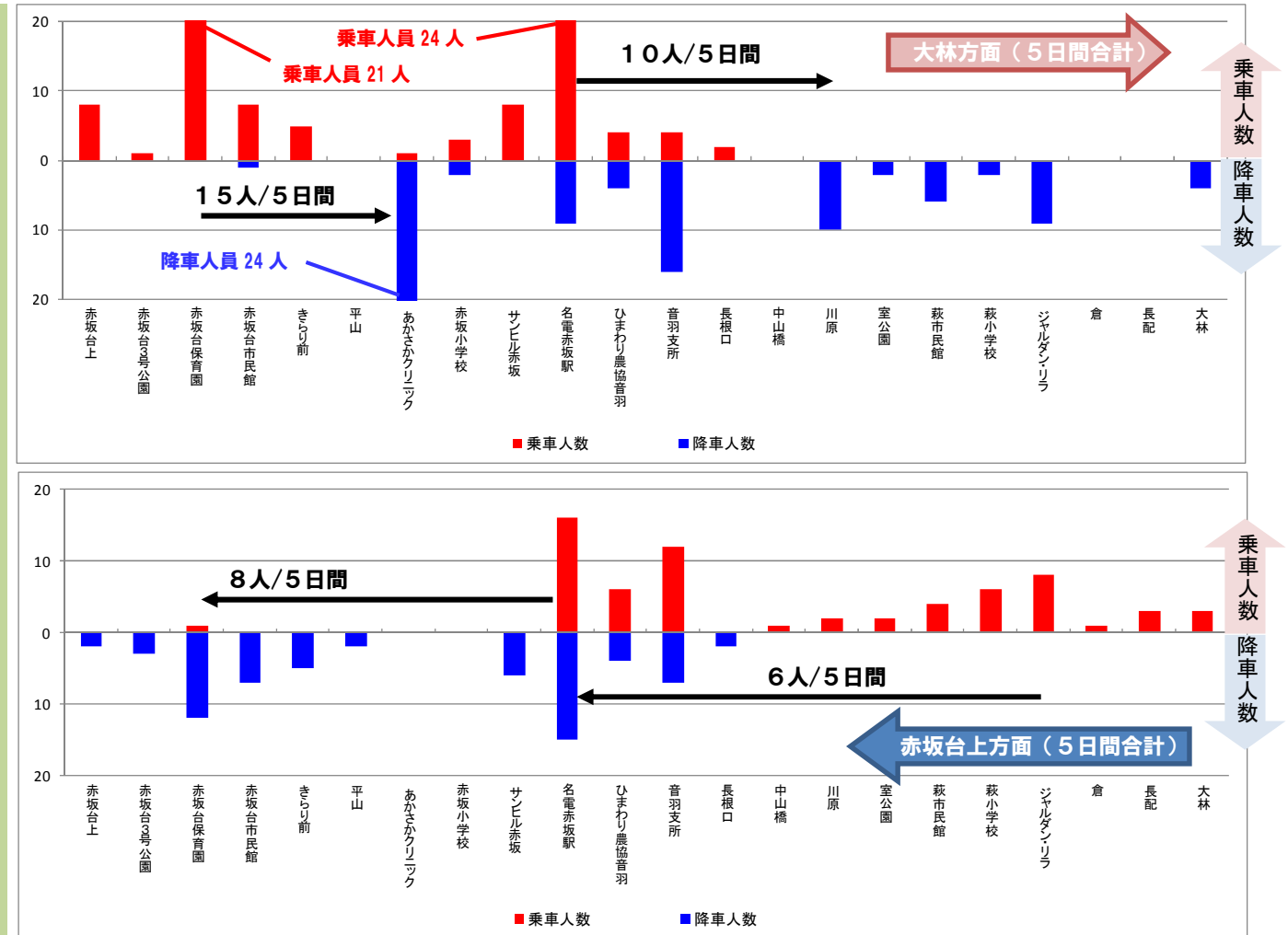
OD調査時のバス停通過人数



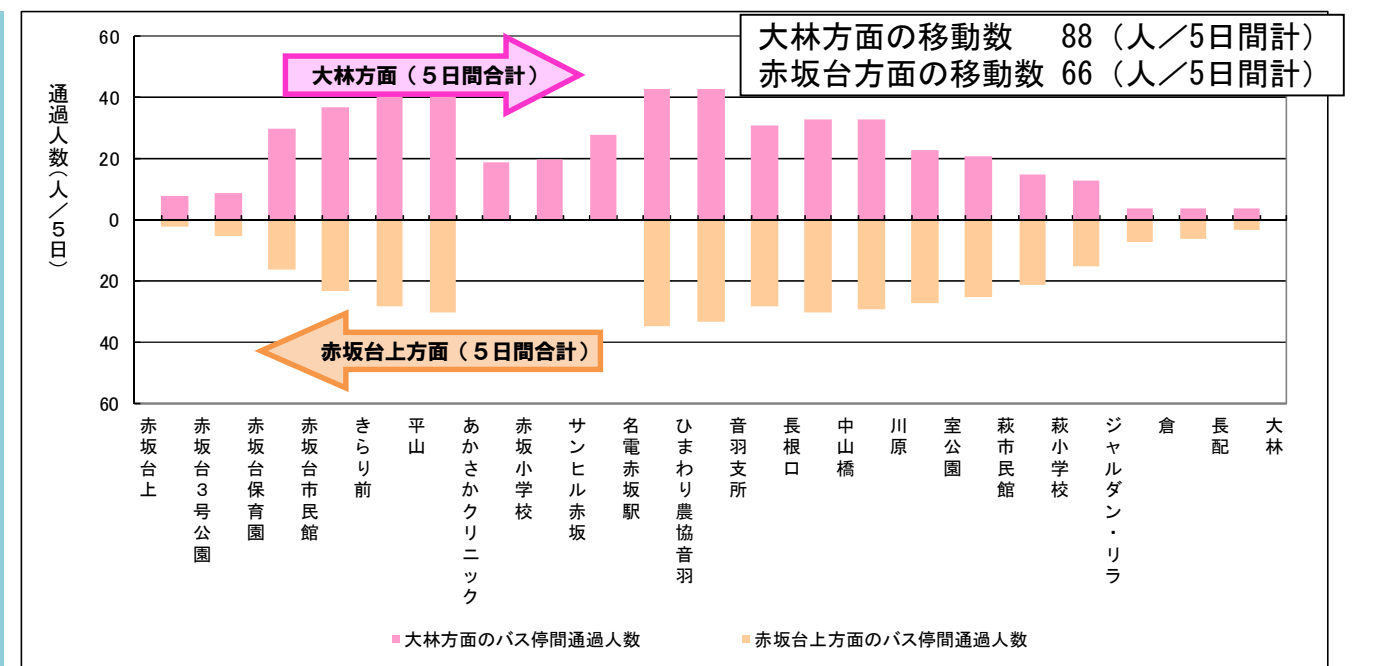
（８）音羽地区地域路線（５日間：バス停出発時の通過人数を方向別に表示）

- ・大林方面の利用は、「赤坂台保育園」から乗車し「あかさかクリニック」で降車、「名電赤坂駅」から乗車し「川原」で降車する利用が多くなっています。
- ・赤坂台上方面の利用は、「名電赤坂駅」から乗車し「赤坂台保育園」で降車、「ジャルダン・リラ」から乗車し「名電赤坂駅」で降車する利用が多くなっています。

OD調査時のバス停別の乗降数・主要なバス停間移動量

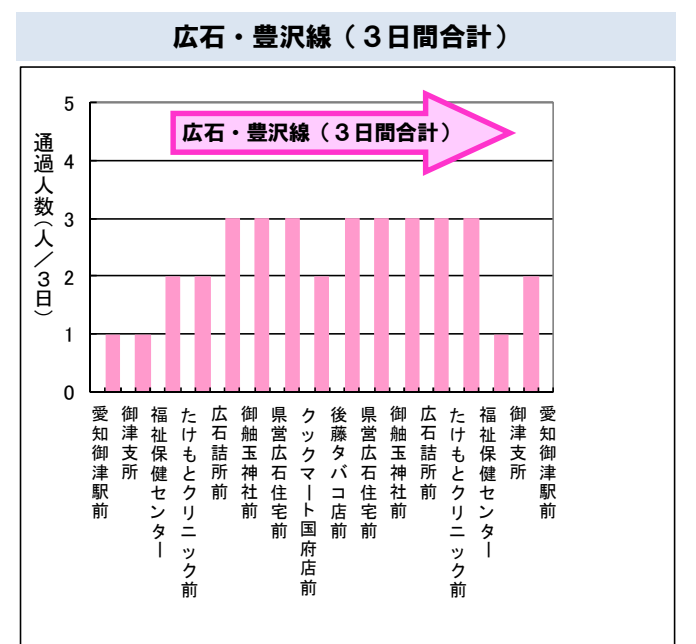
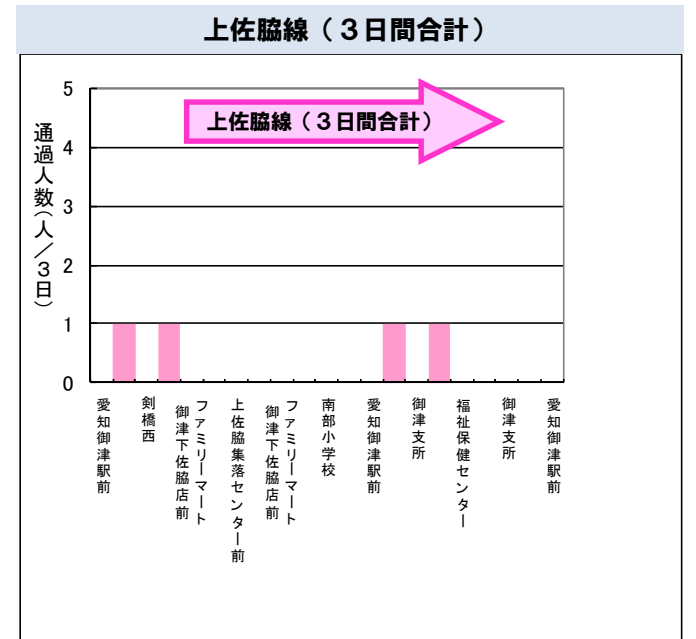
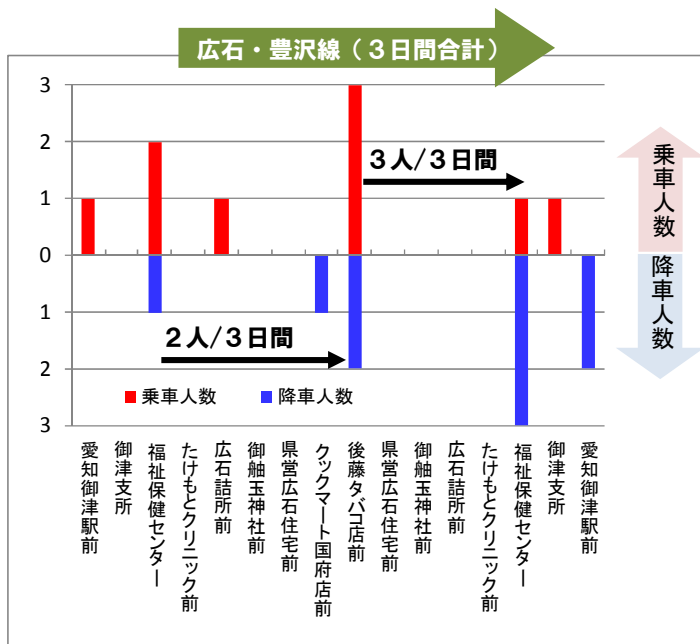
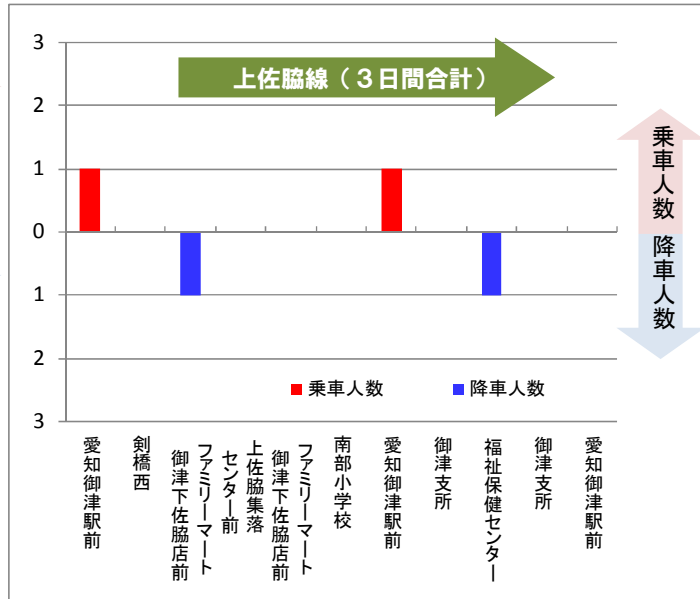


OD調査時のバス停通過人数



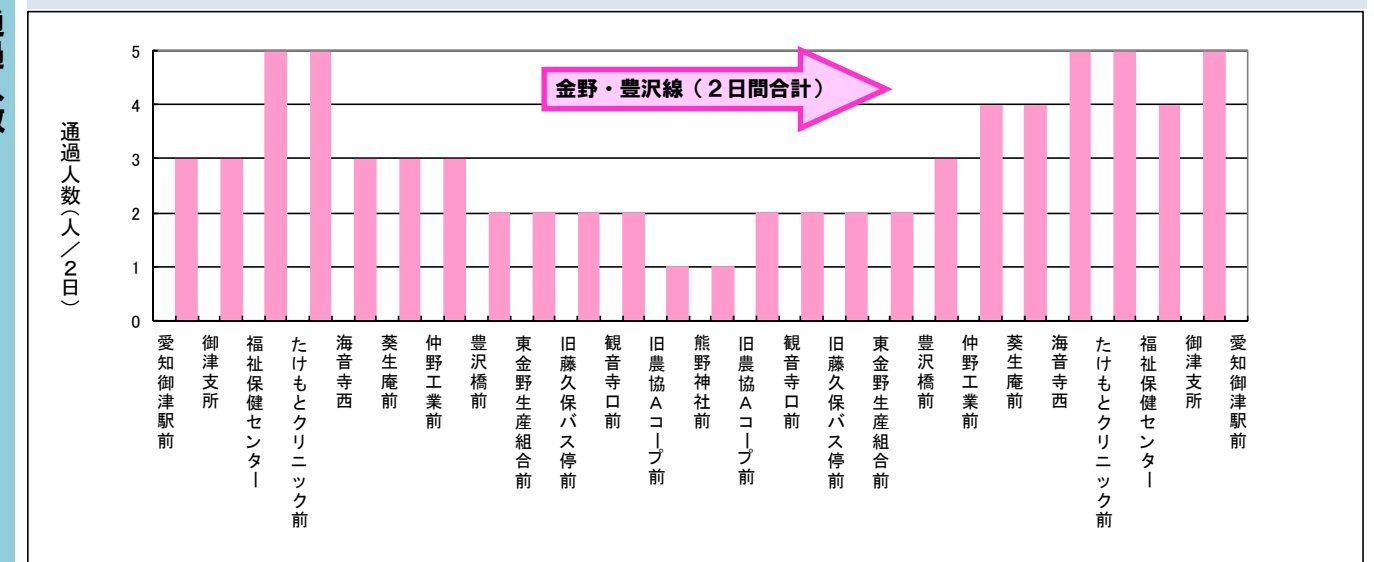
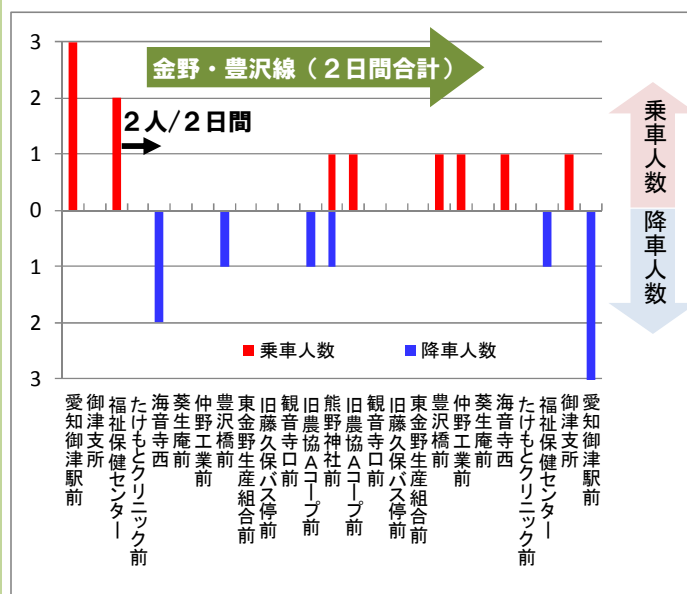
① 金野・北部小線、及び火・木・土曜日運行路線

- 1) 金野・北部小線移動数 22 (人／4日間計)
- 2) 上佐脇線の移動数 2 (人／3日間計)
- 3) 新田・御馬線の移動数 4 (人／3日間計)
- 4) 広石・豊沢線の移動数 9 (人／3日間計)



- ・赤根・大草線は16人、金野・豊沢線は11人の利用のため、目立って利用が多い区間はみられません。
- ・下佐脇線の利用者は1人でした。

- OD調査時のバス停別の乗降数・主要なバス停間移動量

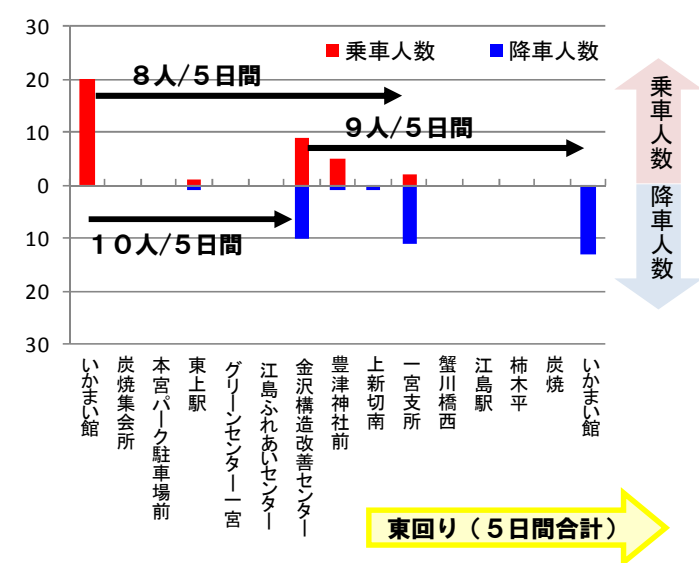


(10) 一宮地区地域路線 (5日間: バス停出発時の通過人数を方向別に表示)

- ・一宮地区地域路線は、各路線ともに午前中は「いかまい館」への移動、午後は「いかまい館」からの移動が多くなっています。
- ・東回りは、「金沢構造改善センター前」から乗車し「いかまい館」で降車、「いかまい館」から乗車し「金沢構造改善センター前」、「一宮支所」で降車する利用が多くなっています。
- ・中回りは、「十部公会堂前」、「旧二部公会堂前」から乗車し「いかまい館」で降車、「いかまい館」から乗車し「十部公会堂前」、「旧二部公会堂前」で降車する利用が多くなっています。
- ・西回りは、「馬酔木西」、「一宮支所」から乗車し「いかまい館」で降車、「いかまい館」から乗車し「馬酔木西」、「篠田集落センター」、で降車する利用が多くなっています。

東回りの移動数 37 (人/5日間計)
 中回りの移動数 32 (人/5日間計)
 西回りの移動数 53 (人/5日間計)

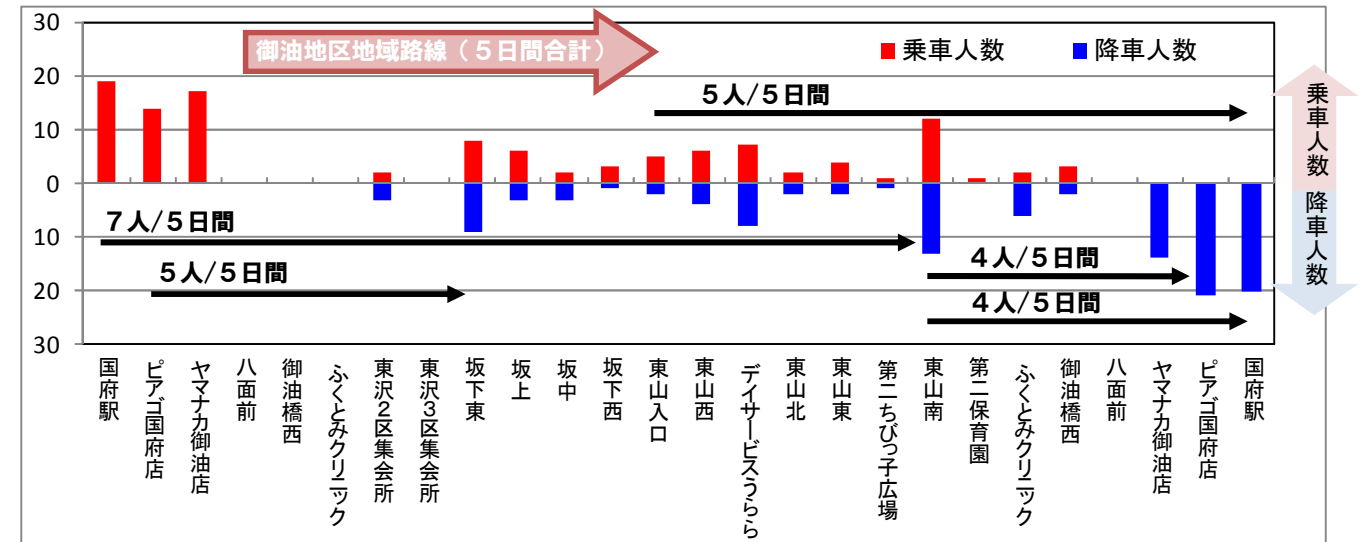
OD調査時のバス停別の乗降数・
 主要なバス停間移動量



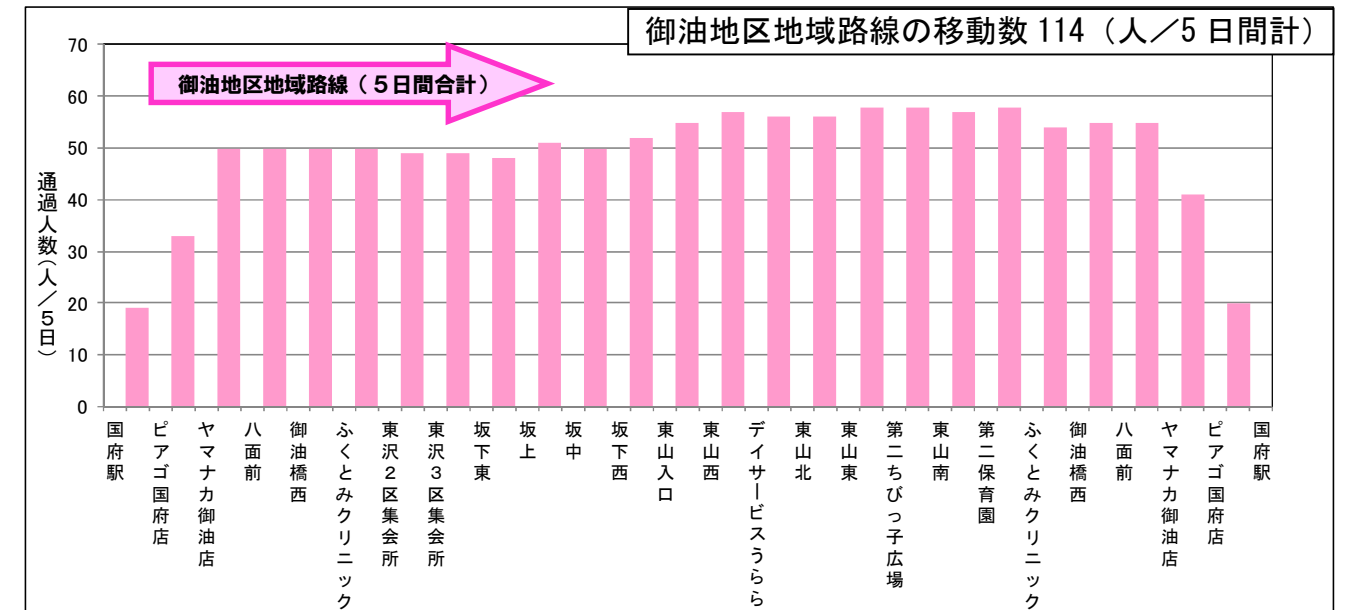
(11) 御油地区地域路線 (5日間: バス停出発時の通過人数を方向別に表示)

- ・利用の多い区間は、「東山入口」、「東山南」で乗車し「国府駅」、「ピアゴ国府店」で降車、「国府駅」、「ピアゴ国府店」で乗車し「坂下東」、「東山南」で降車する利用が多くなっており、住宅地内を移動する利用はほとんどみられません。

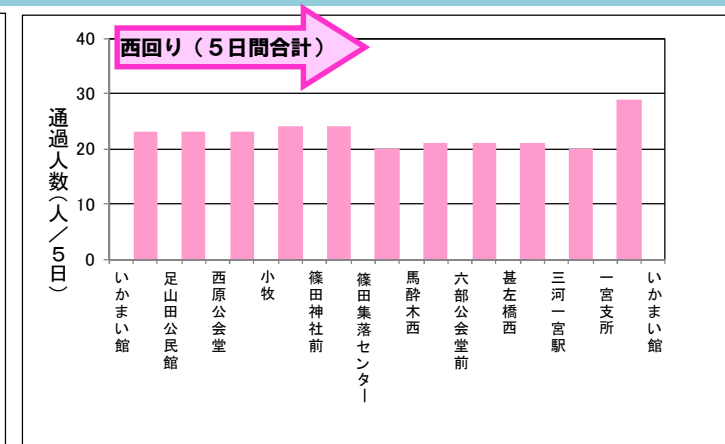
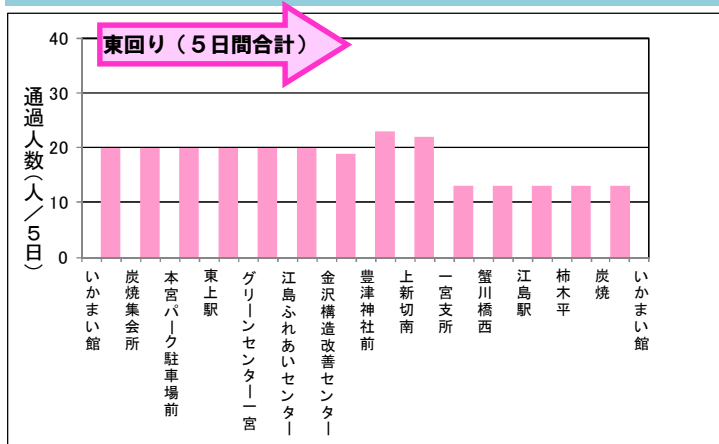
OD調査時のバス停別の乗降数・主要なバス停間移動量



OD調査時のバス停通過人数 (御油地区地域路線)



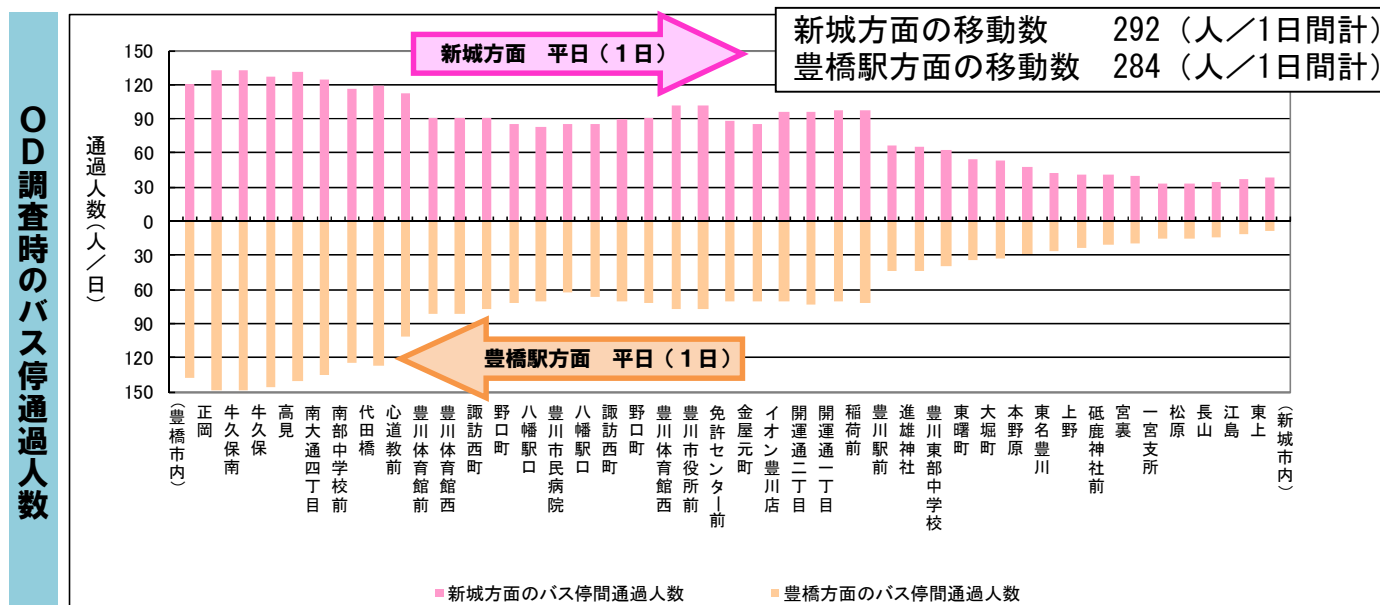
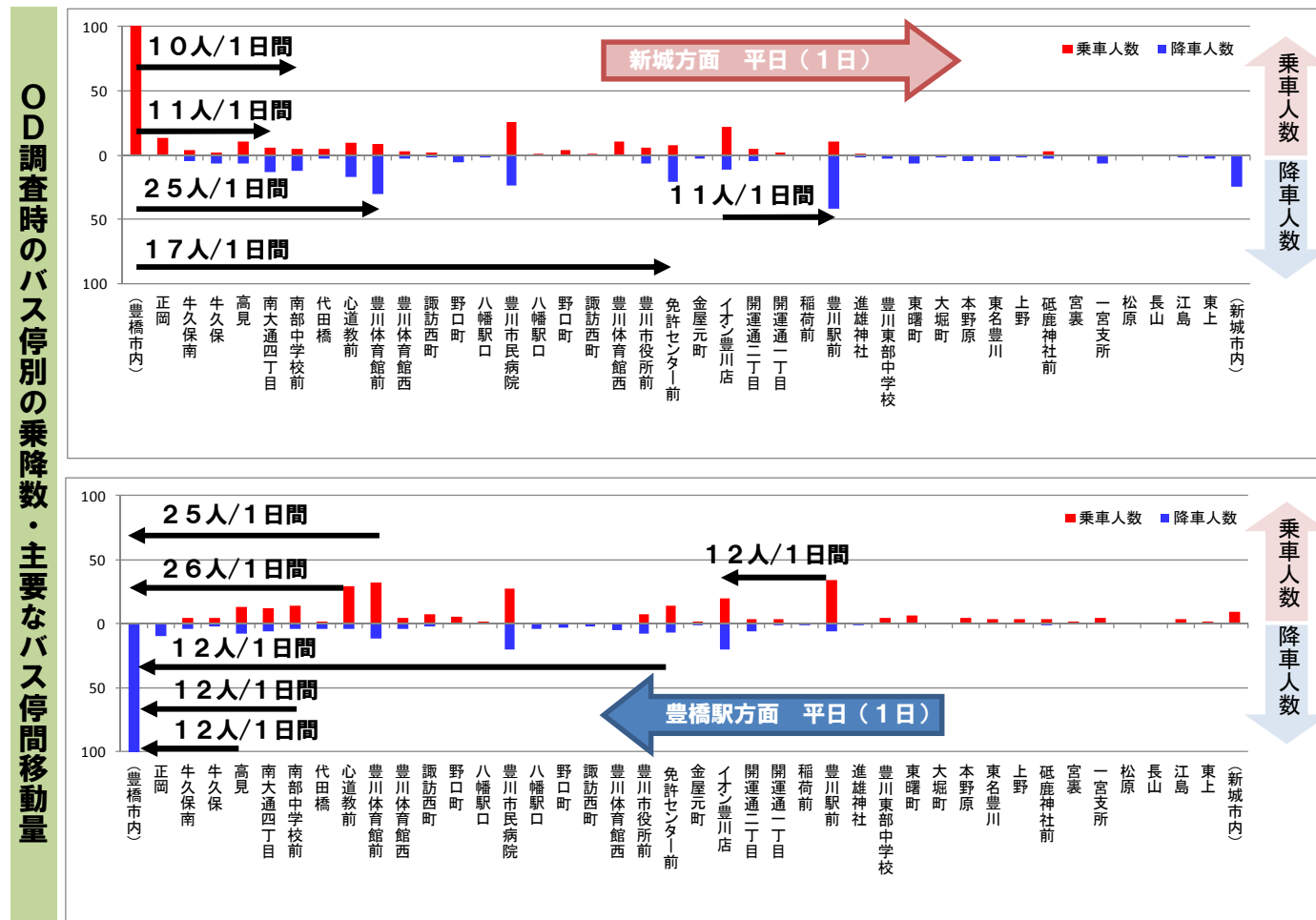
OD調査時のバス停通過人数 (一宮地区地域路線)



(12) 豊鉄バス新豊線・豊川線

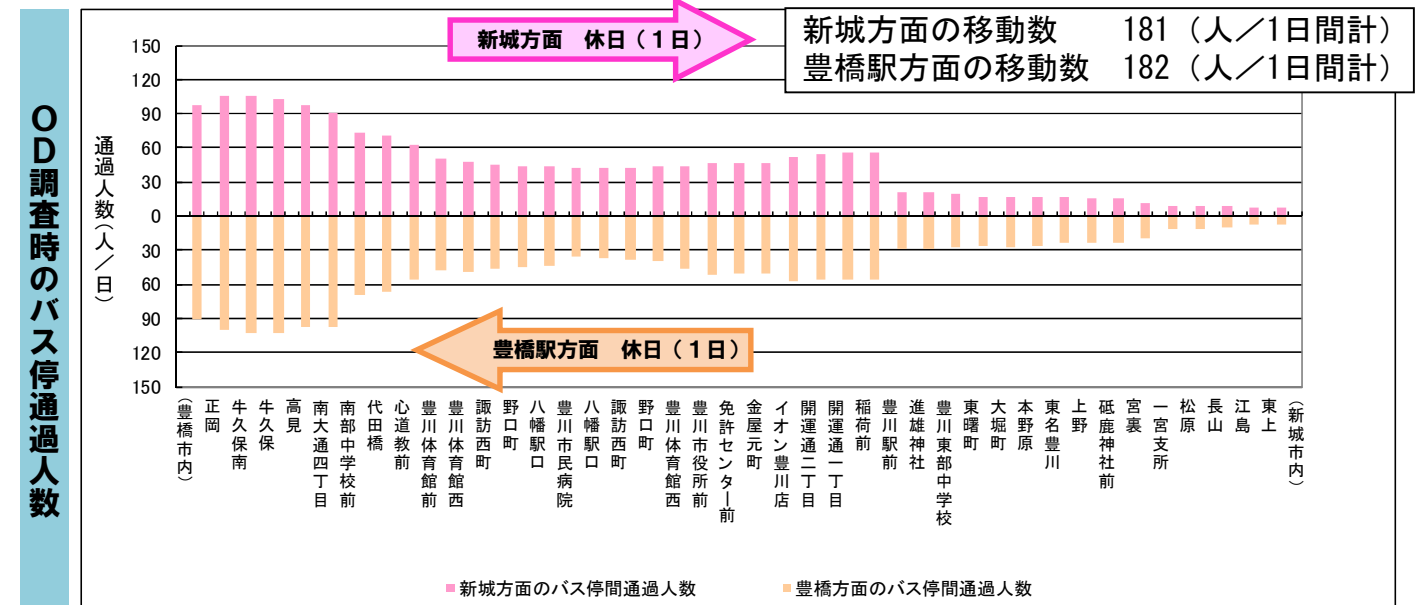
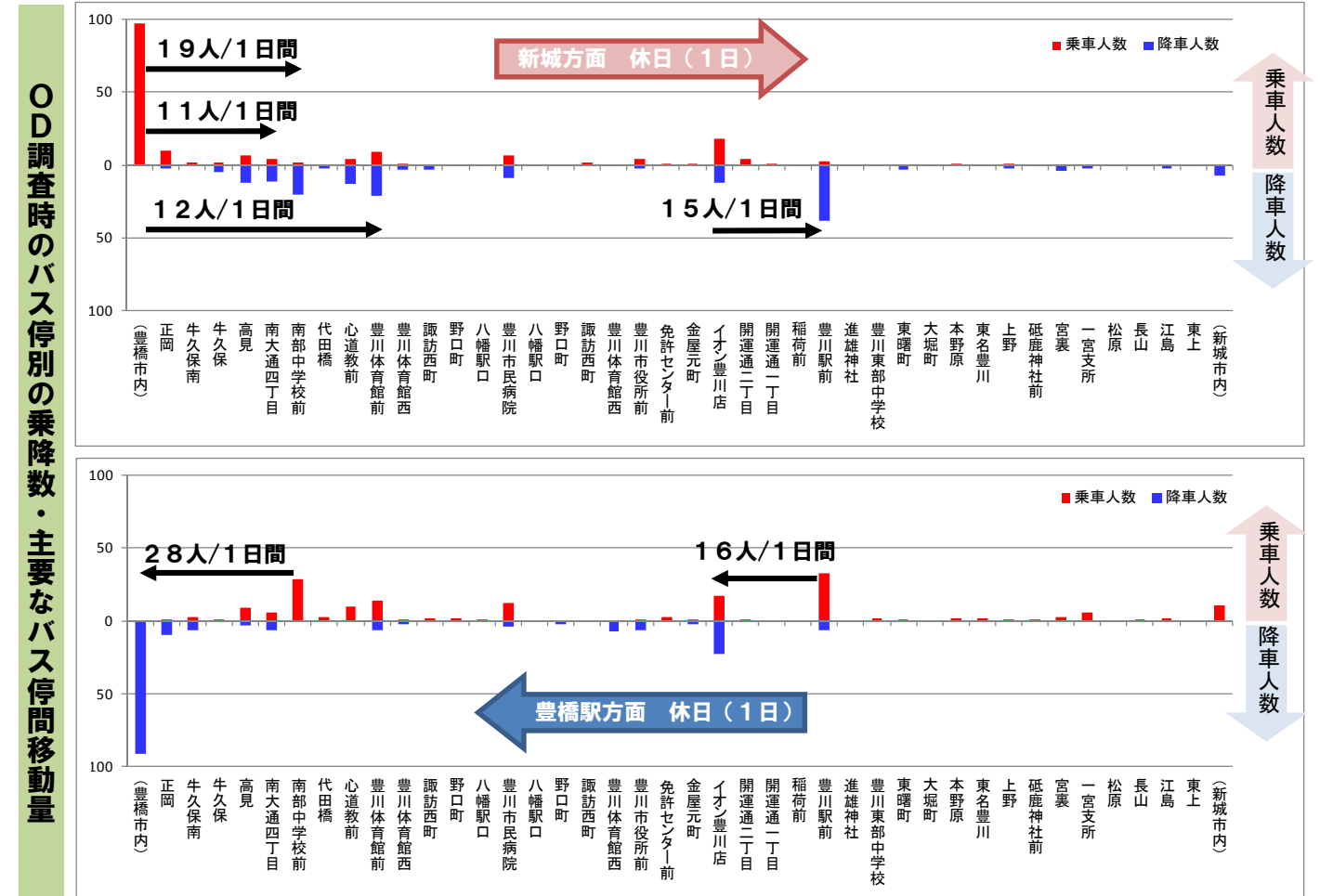
① 平日調査（バス停出発時の通過人数を方向別に表示）

- ・新城方面は、「豊川市外」から乗車し「南大通四丁目」、「南部中学校前」、「豊川体育館前」、「免許センター前」で降車する利用が多くなっています。
- ・豊橋方面は、「免許センター前」、「豊川体育館前」、「心道教前」、「南部中学校前」、「高見」から乗車し「豊川市外」で降車する利用が多くなっています。
- ・豊川市内では「イオン豊川店」と「豊川駅前」の間の利用が多くなっています。



② 休日調査（バス停出発時の通過人数を方向別に表示）

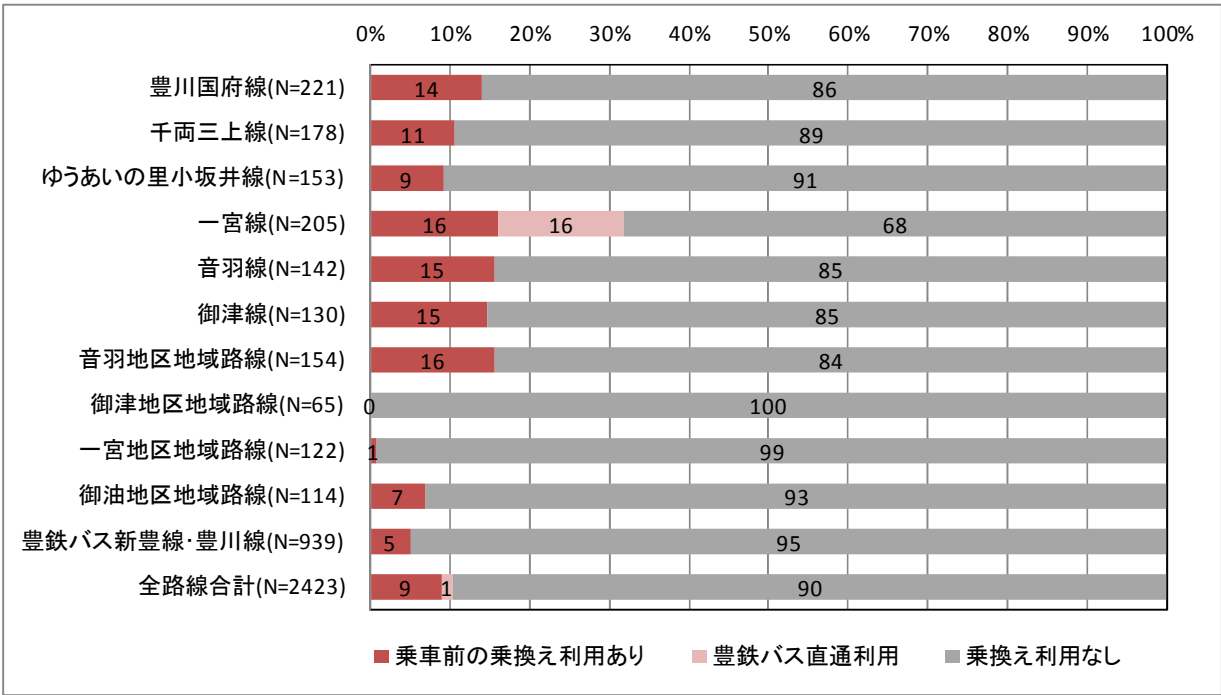
- ・新城方面は、「豊川市外」から乗車し「南大通四丁目」、「南部中学校前」、「豊川体育館前」で降車する利用が多くなっています。
- ・豊橋方面は、「南部中学校前」から乗車し「豊川市外」で降車する利用が多くなっています。
- ・豊川市内では「イオン豊川店」と「豊川駅前」の間の利用が多くなっています。



2-4. 乗継の状況

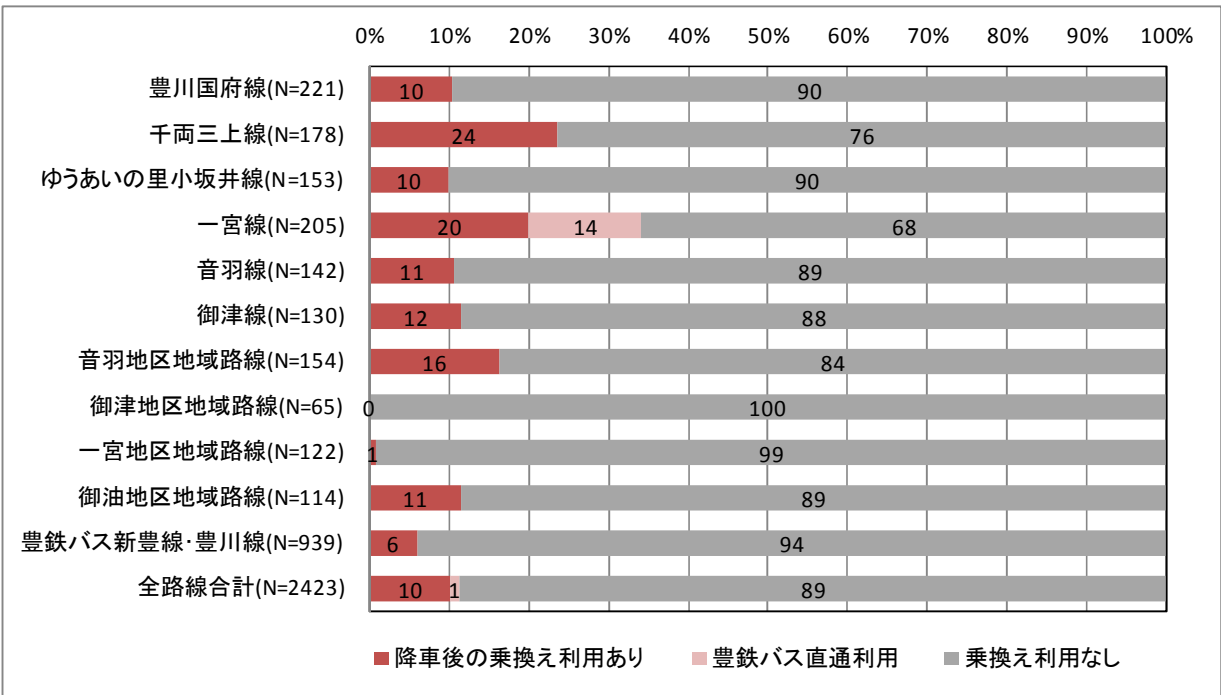
(1) 乗車前の乗継有無

- 乗車前に乗継いだ利用者は全体の9%（H28 調査時：9%）という結果となっています。
- 乗車前に乗継いで利用する割合が10%を超える路線は、一宮線、音羽地区地域路線、音羽線、御津線、豊川国府線、千両三上線の順で多くなっています。



(2) 降車後の乗継有無

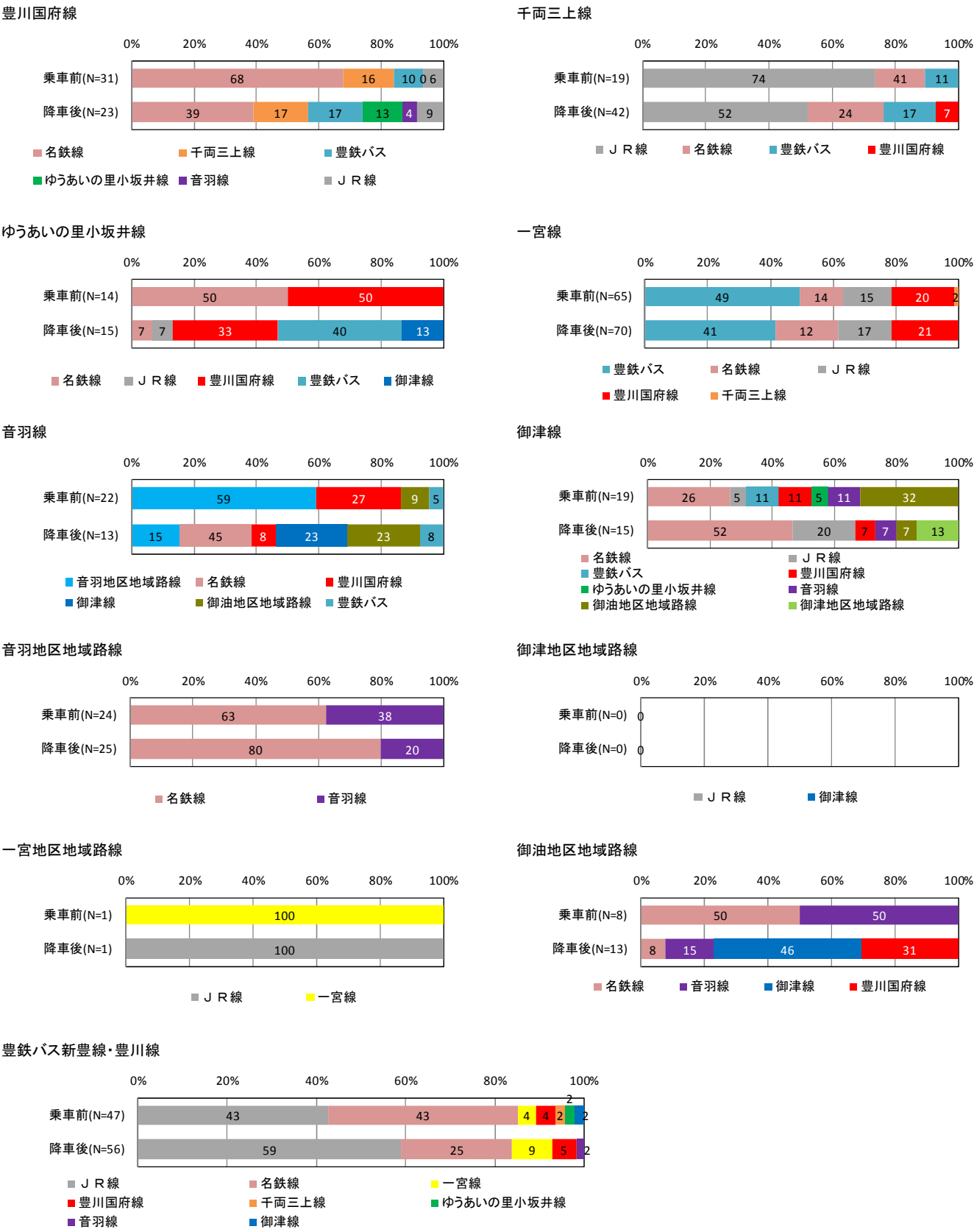
- 降車後に乗継ぐ利用者は全体の10%（H28 調査時：9%）という結果となっています。
- 降車後に乗継いで利用する割合が10%を超える路線は、千両三上線、一宮線、音羽地区地域路線、御津線、音羽線、御油地区地域路線、豊川国府線の順で多くなっています。



※ 豊鉄バス新豊線・豊川線では、豊川市外（豊橋市内・新城市内）での鉄道乗継は、乗継利用として集計せず、豊川市内での乗継のみを集計

(3) 各路線別の乗継状況

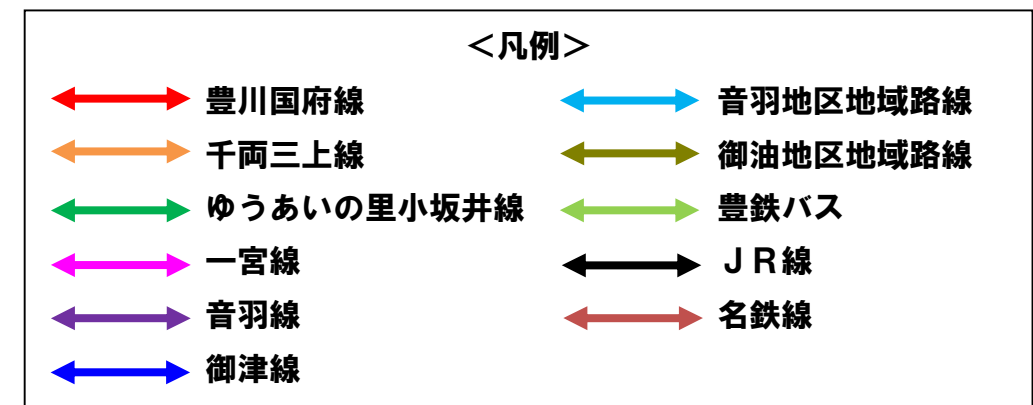
- 鉄道と接続する路線では、JR線、名鉄線との乗継割合の多さが目立っています。
- バス路線相互の乗継では、豊川国府線と千両三上線及びゆうあいの里小坂井線、音羽線と音羽地区地域路線との乗継割合の多さが目立っています。
- 平成28年10月の路線・運賃体系の変更によって、豊川市コミュニティバスの基幹路線では、豊鉄バスとの乗継がみられるようになっています。



(4) 主な乗継の状況

バス同士で10人以上の乗継利用は、平成28年10月の路線・運賃体系の変更直後の調査時点では、音羽支所バス停での音羽線と音羽地区地域路線、豊川駅前バス停での千両三上線と豊川国府線が該当していました。今回の調査では、さらに豊川市民病院バス停での豊鉄バスと豊川市コミュニティバス及び豊川市コミュニティバス相互、国府駅バス停での御油地区地域路線と御津線、豊川駅前バス停での一宮線と豊川国府線が10人以上の乗継利用となっています。

一方、鉄道駅との乗継利用が多い移動は、豊川駅前バス停での千両三上線・一宮線とＪＲ線・名鉄線、国府駅バス停での豊川国府線・御津線と名鉄線、名電赤坂駅バス停での音羽地区地域路線と名鉄線の乗継となっています。



① バス同士の乗継の場合

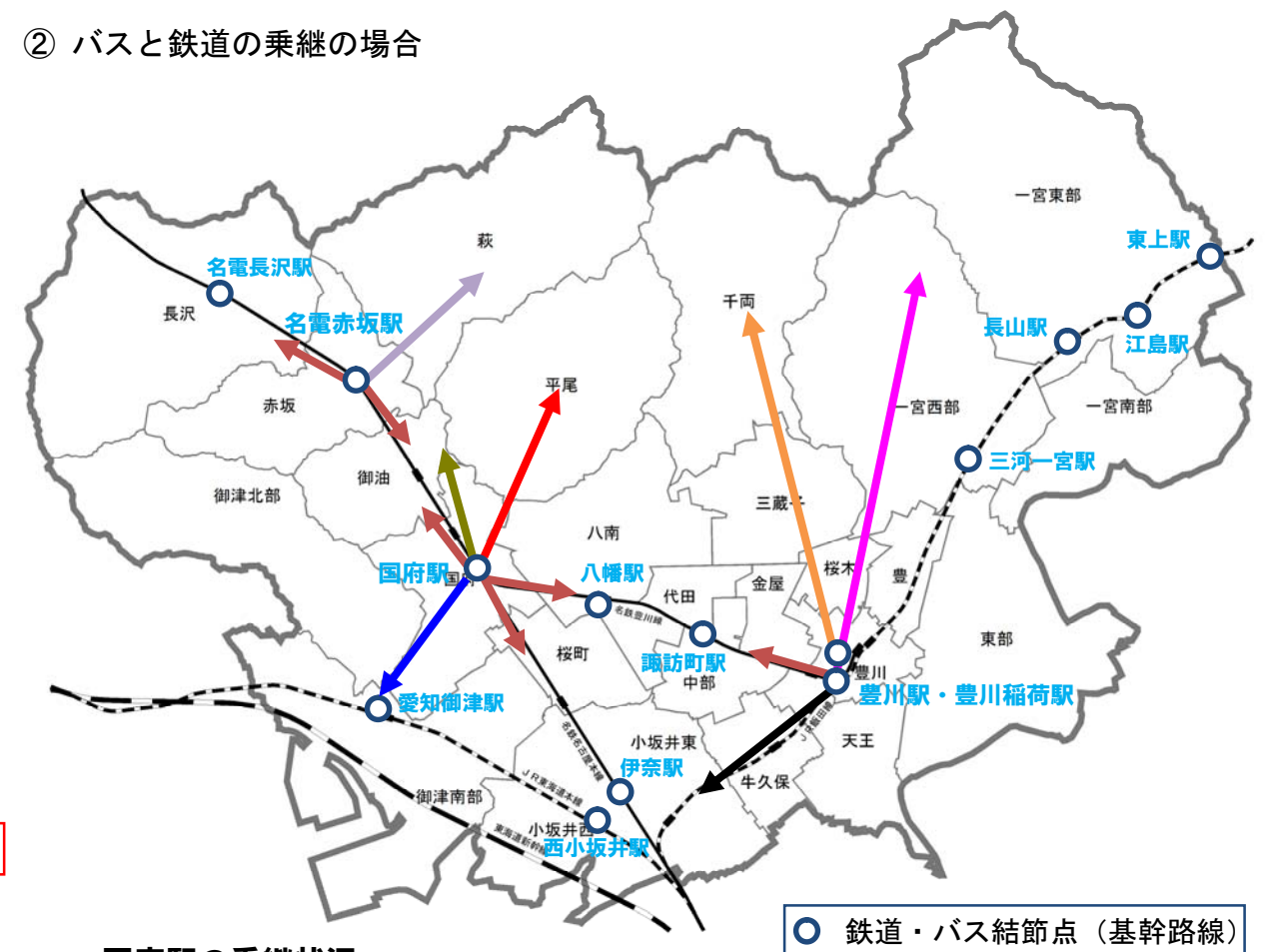


乗換前	乗換後	人数：調査期間計	
		H28	H29
音羽地区 地域路線	⇔ 名鉄線 (名電赤坂駅)	33	35
音羽地区 地域路線	⇔ 音羽線 (音羽支所)	26	29

乗換前	乗換後	人数：調査期間計	
		H28	H29
豊川市コミュニティバス	⇔ ゆうあいの里小坂井線	3	7
豊川市コミュニティバス	⇔ 豊鉄バス	5	0

乗換前		乗換後	人数：調査期間計	
			H28	H29
豊鉄バス	⇔	豊川市コミュニティバス	4	20
豊川市コミュニティバス	⇔	豊川市コミュニティバス	4	11
名鉄線	⇔	豊川市コミュニティバス	2	4

② バスと鉄道の乗継の場合



乗換前	乗換後	人数：調査期間計	
		H28	H29
豊川国府線	⇔ 名鉄線	25	26
御津線	⇔ 名鉄線	11	10
音羽線	⇔ 名鉄線	9	2
御油地区地域路線	⇔ 名鉄線	7	4
御油地区地域路線	⇔ 豊川市 コミュニティバス	15	23
音羽線	⇔ 御津線	6	6
豊川国府線	⇔ 御津線	7	3
豊川国府線	⇔ 音羽線	0	7

乗換前	乗換後	人数：調査期間計	
		H28	H29
千両三上線 ⇔	J R 線	37	35
千両三上線 ⇔	名鉄線	10	13
千両三上線 ⇔	豊川国府線	17	12
千両三上線 ⇔	豊鉄バス	12	9
一宮線 ⇔	J R 線	19	22
一宮線 ⇔	名鉄線	25	23
一宮線 ⇔	豊川国府線	9	28

3. 【報告事項（3）】平成28年10月の路線・運賃体系変更後の効果の検証について

平成28年10月の路線・運賃体系変更後の豊川市コミュニティバスの利用者数は、平成29年1月までは前年同月と比べて減少していましたが、平成29年2月以降からは、前年同月と比べて増加しています。

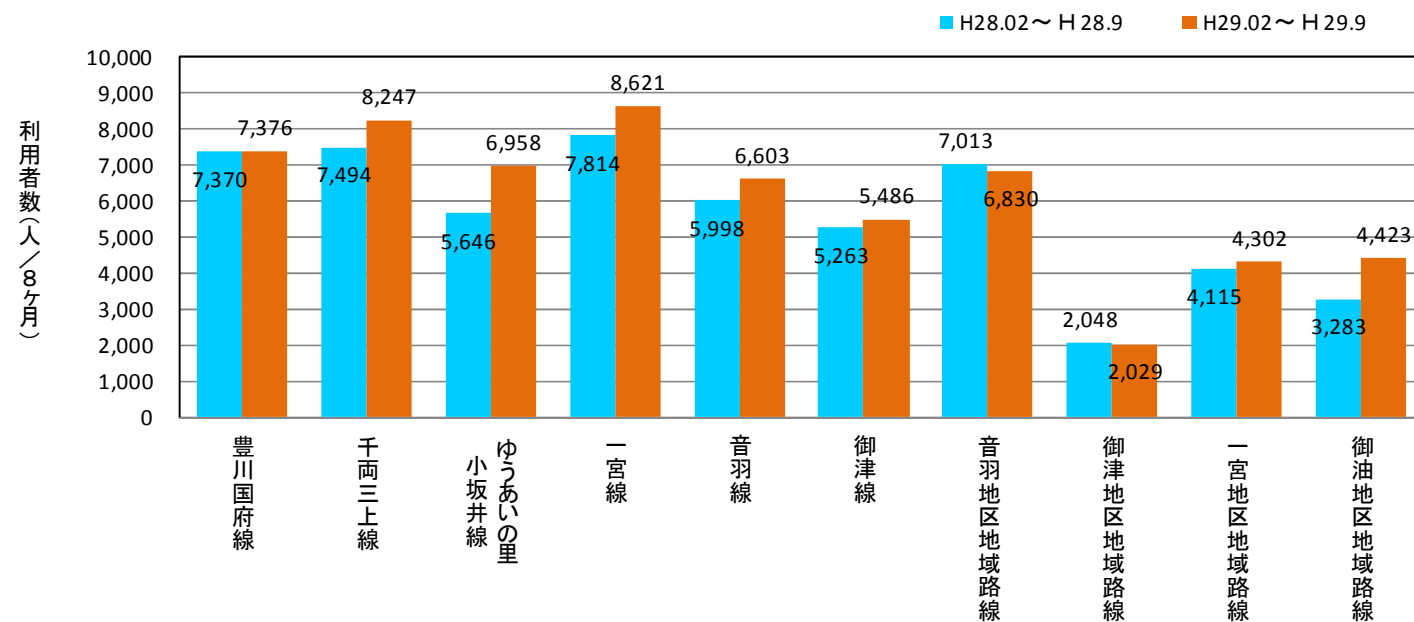
そこで、路線・運賃体系変更前後の利用者動向については、変更が利用者に浸透し始めたと考えられる平成29年2月～9月と変更前は平成28年2月～9月を比較することとしました。

また、豊鉄バス新豊線・豊川線の利用者数について、OD調査の結果を元に比較を行いました。

（1）路線別の利用者数の変化

① 豊川市コミュニティバス

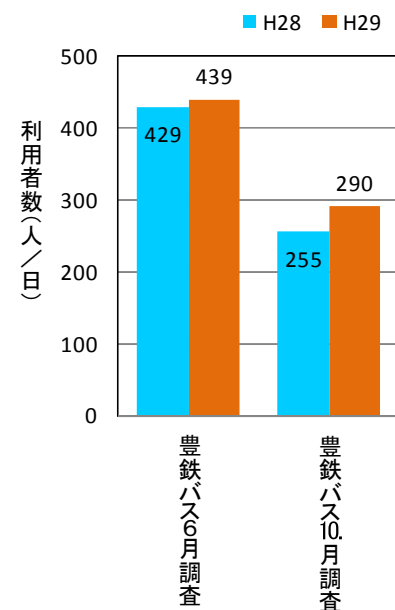
基幹路線・地域路線の計10路線のうち、変更後の利用者は音羽地区地域路線と御津地区地域路線を除く8路線で変更前を上回っています。



② 豊鉄バス新豊線・豊川線

6月（豊鉄バス調査実施）と10月のそれぞれのOD調査結果より、豊川市内のバス停での乗車利用者数を比較すると、いずれの調査時点においても、変更後の利用者が変更前を上回っています。

※6月調査：2日間実施された結果の合計を1/2にした値
10月調査：平日の調査結果



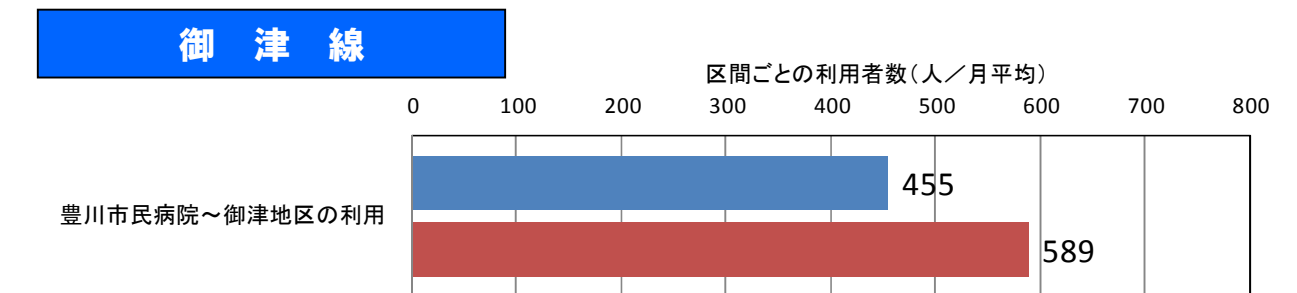
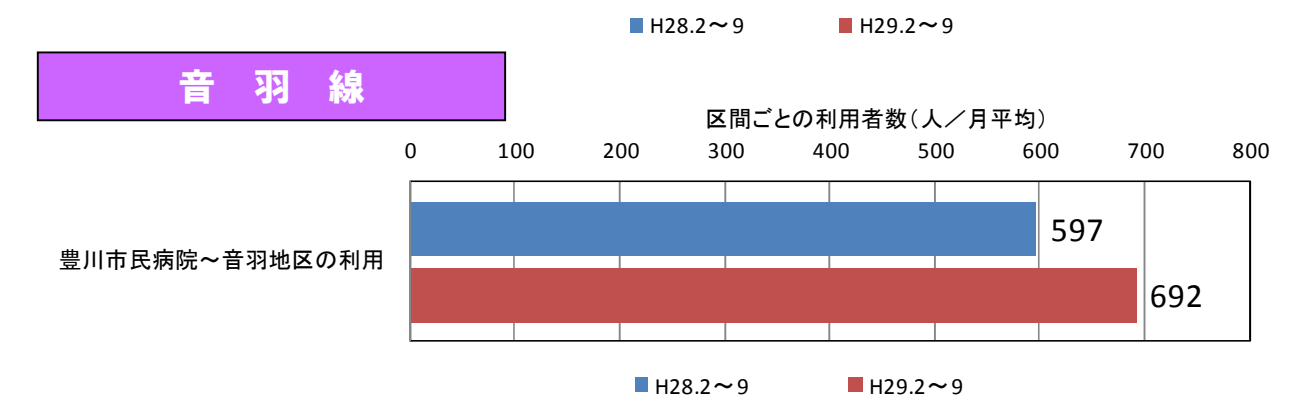
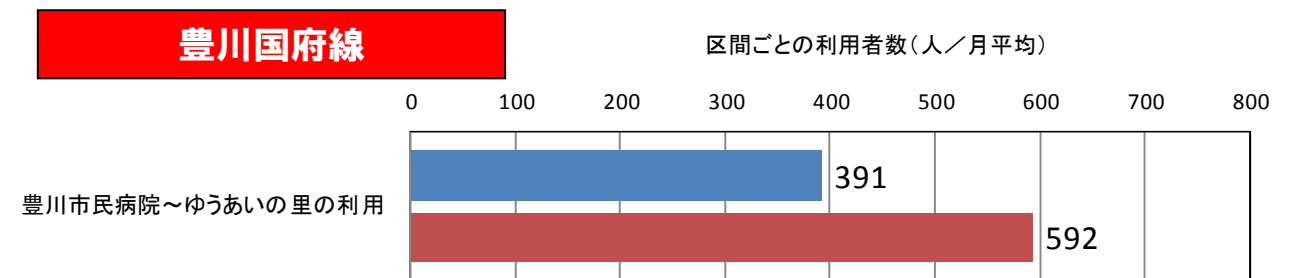
（2）豊川国府線・音羽線・御津線の利用者数の変化

ここでは、平成28年10月の変更において、路線の変更度合いが大きい豊川国府線・音羽線・御津線を中心に変化を整理しています。

① 利用実績でみる主要区間別の利用者数

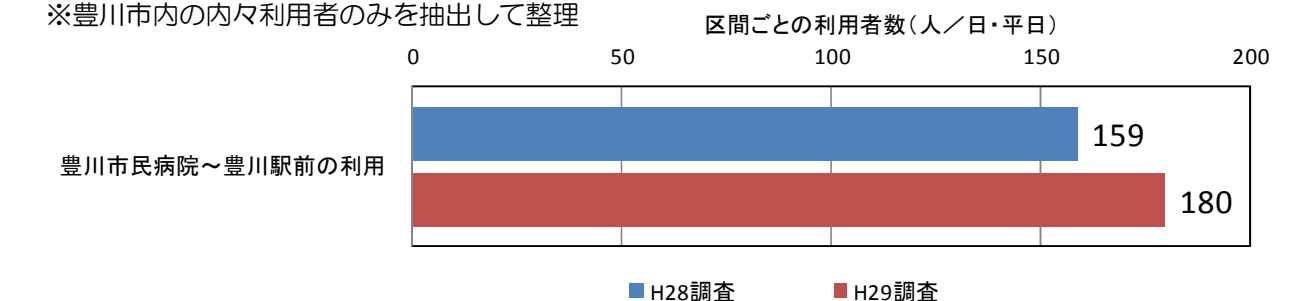
変更により増便を行った豊川市民病院より西側の区間では、豊川国府線・音羽線・御津線のいずれの路線においても利用者数は変更前を上回っています。

一方、豊鉄バス新豊線・豊川線では、豊川市コミュニティバスが減便を図った区間、及び共通ゾーン導入区間が含まれる豊川市民病院～豊川駅前の利用者数は、昨年度の調査結果を上回っています。



豊鉄バス新豊線・豊川線（平日：10月実施のOD調査結果より整理）

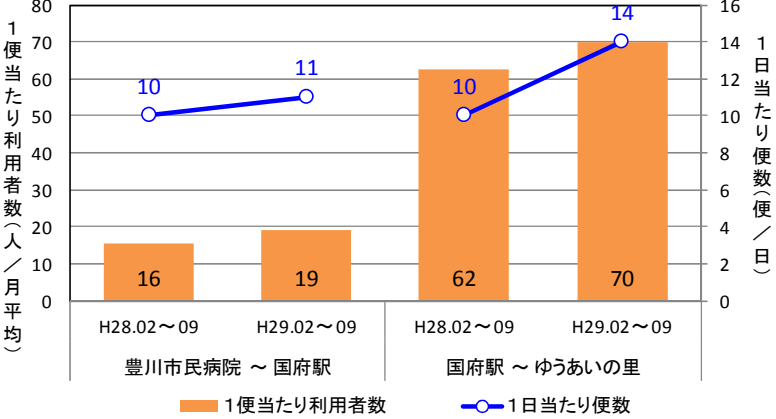
※豊川市内の内々利用者のみを抽出して整理



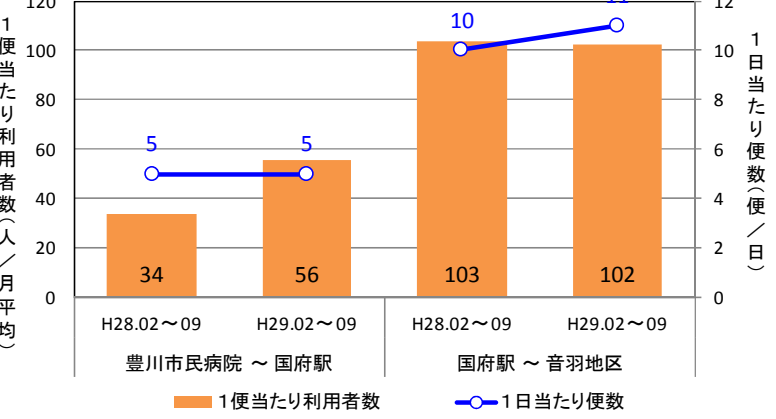
② 1 便当たりの利用者数

路線体系変更後に豊川市民病院より西側の区間では運行本数を増便しましたが、1 便当たりの利用者は音羽線の国府駅～音羽地区を除いて、変更前を上回っています。

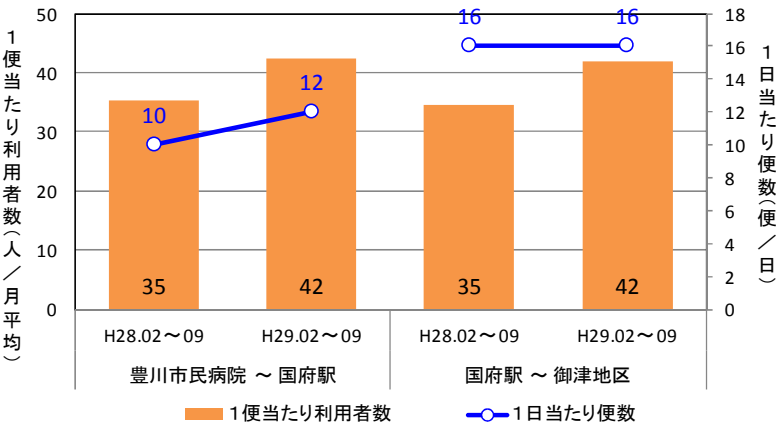
豊川国府線



音羽線



御津線

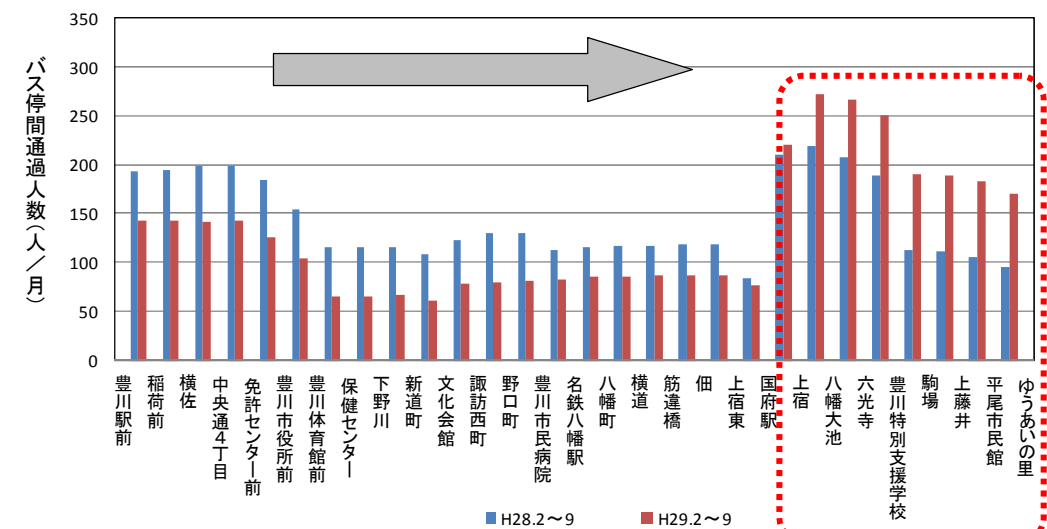
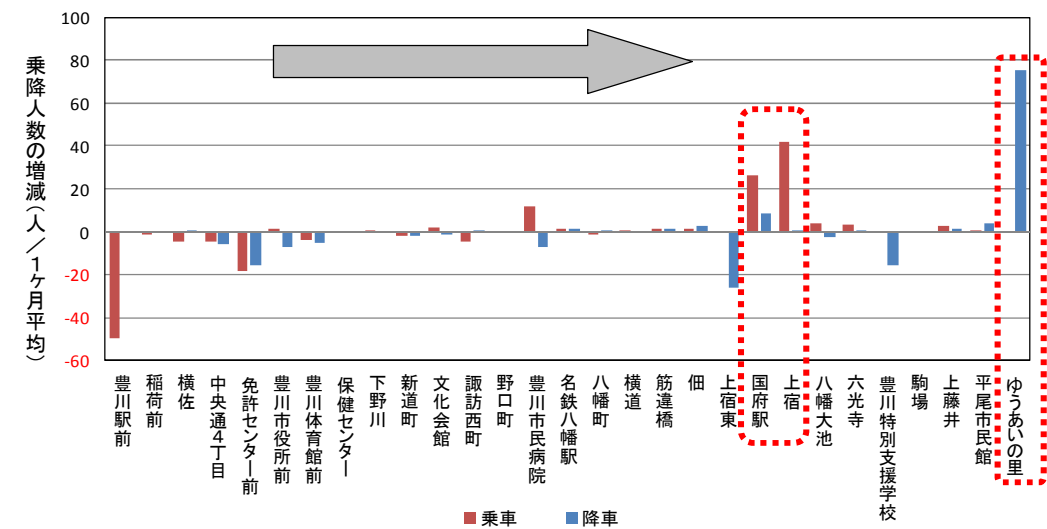
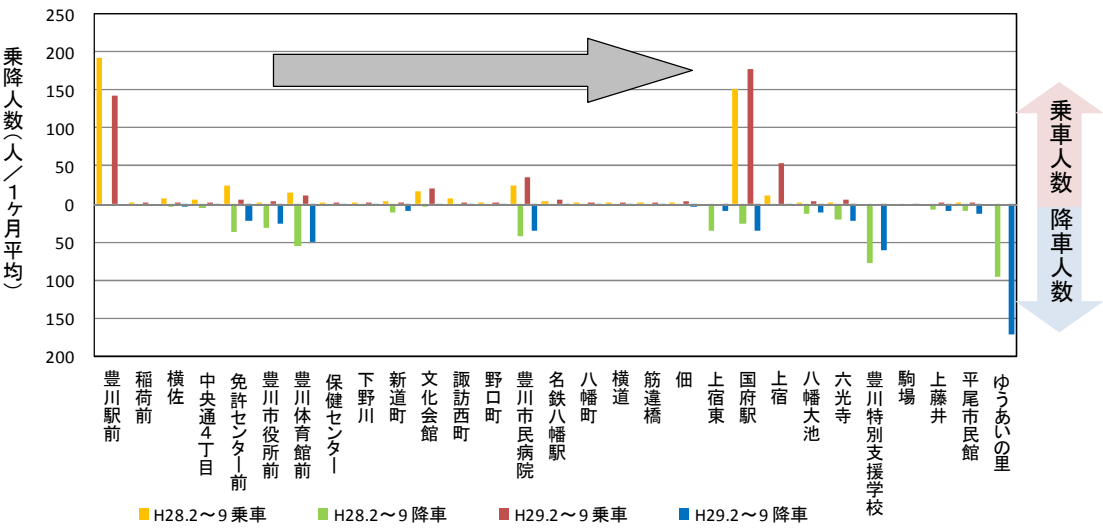


(3) バス停別利用者数及びバス停間通過人数の比較

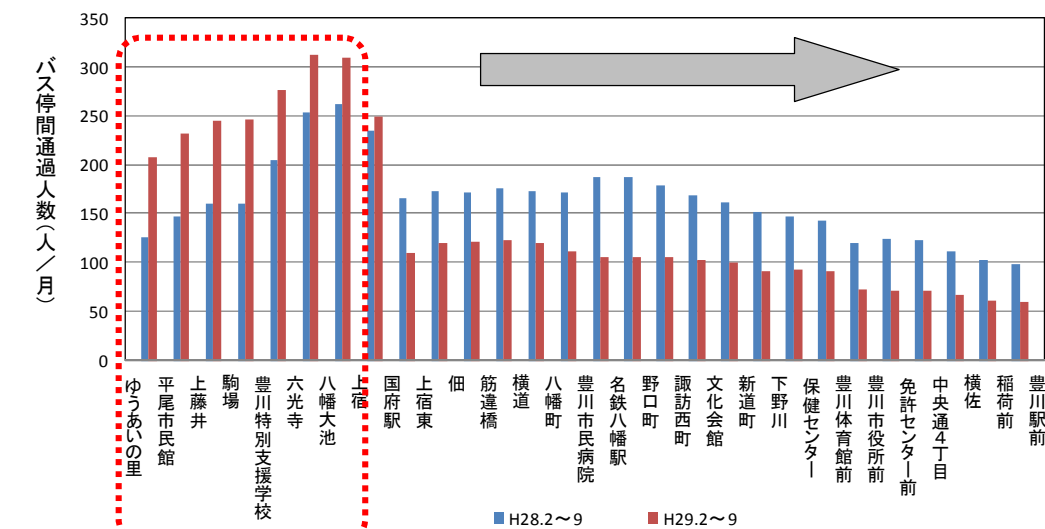
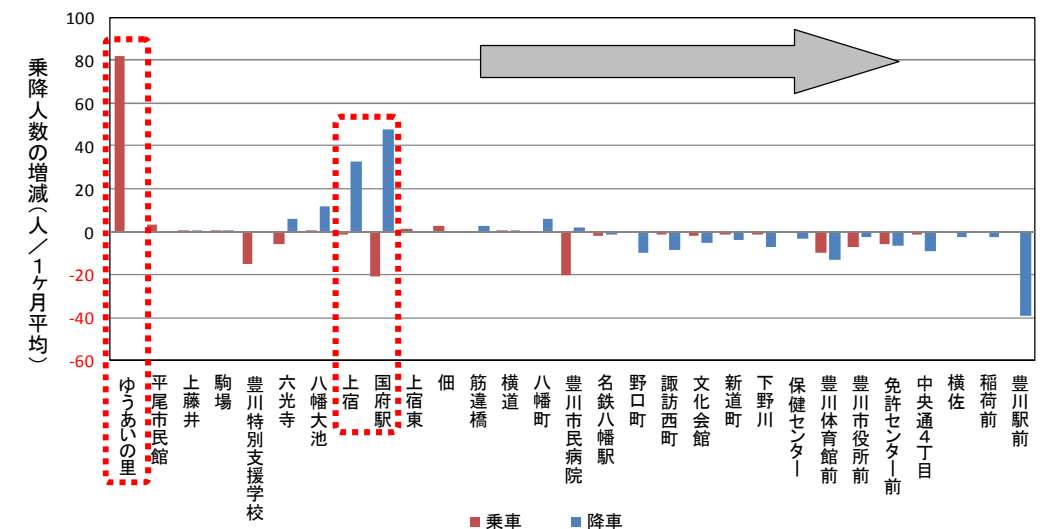
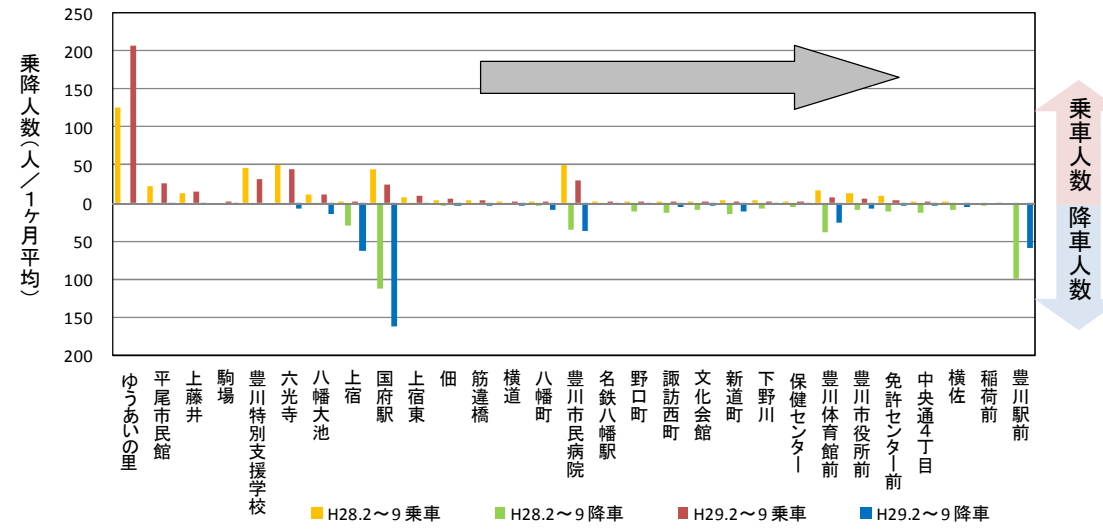
① 豊川国府線

ゆうあいの里方面行き、豊川駅前方面行きとも、バス停の乗降客数は国府駅、上宿、ゆうあいの里で増加が目立ち、バス停間通過人数は上宿～ゆうあいの里間で増加が目立っています。

ゆうあいの里方面行き



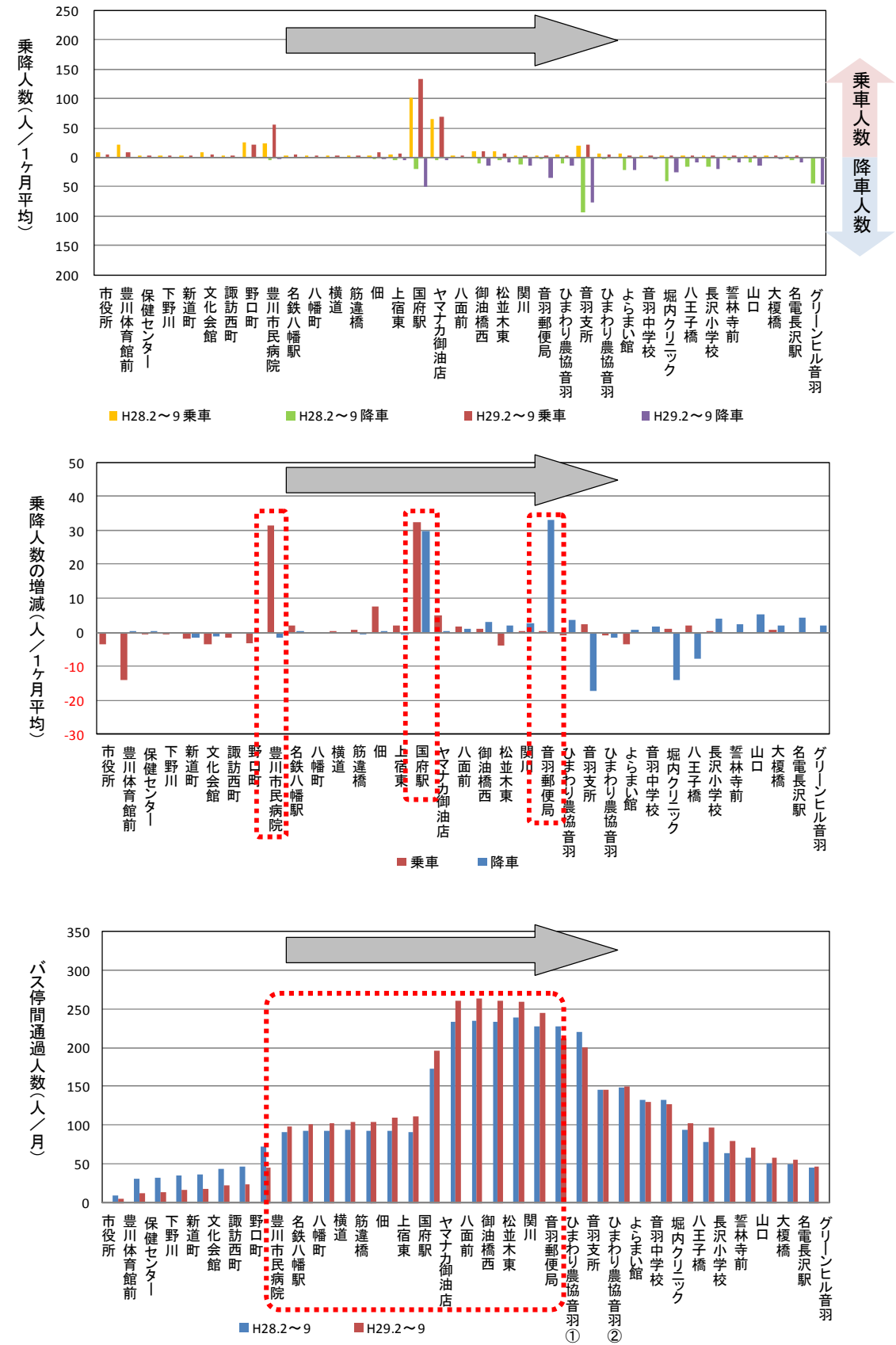
豊川駅前方面行き



② 音羽線

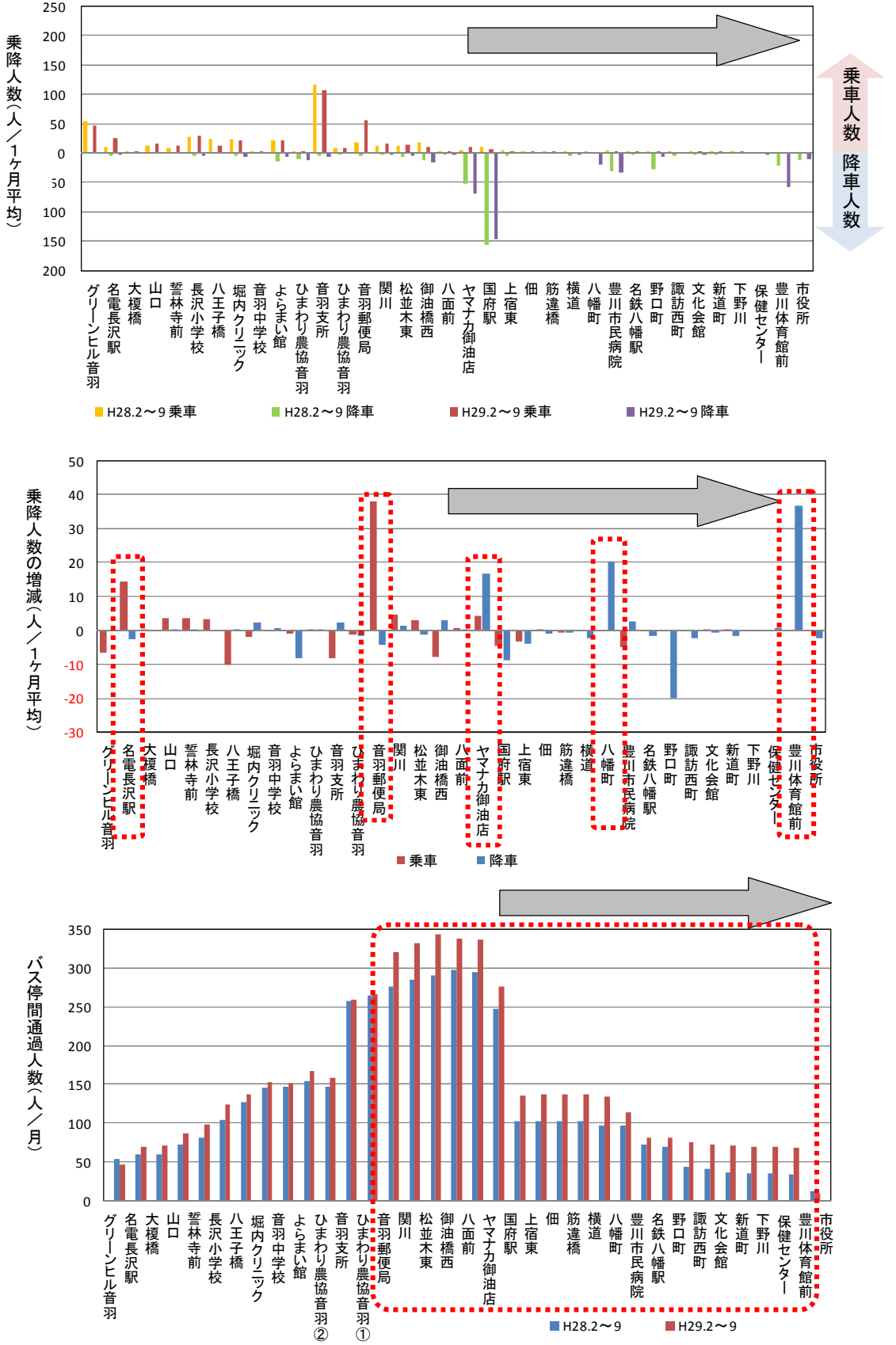
音羽地区方面行きのバス停の乗降客数は豊川市民病院、国府駅、音羽郵便局で増加が目立ち、バス停間通過人数は音羽郵便局～豊川市民病院間で増加が目立っています。

音羽地区方面行き



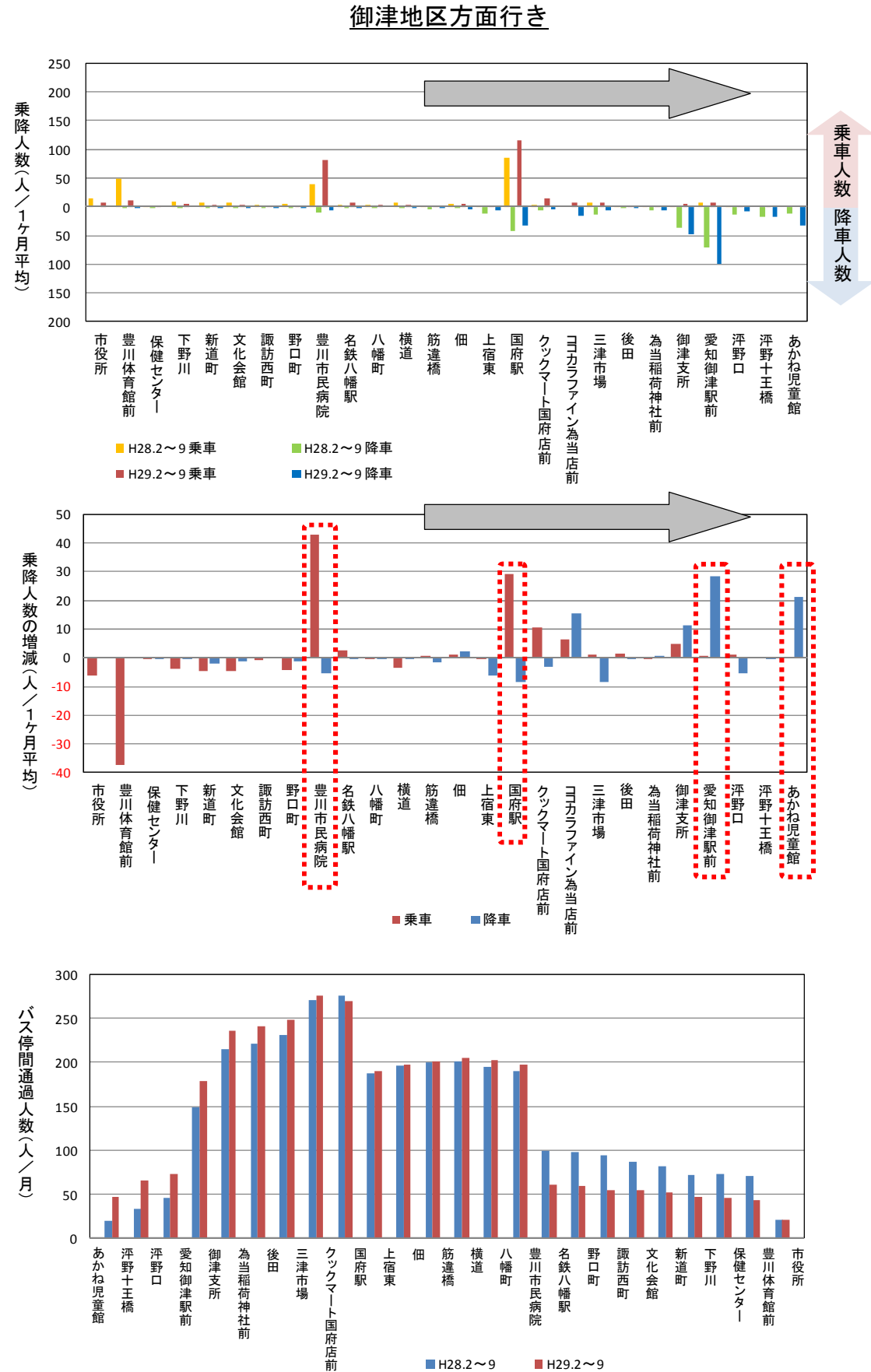
豊川市民病院・市役所方面行きのバス停の乗降客数は名電長沢駅、音羽郵便局、ヤマナカ御油店、八幡町、豊川体育館前で増加が目立ち、バス停間通過人数は音羽郵便局～豊川体育館前間で増加が目立っています。

豊川市民病院・市役所方面行き

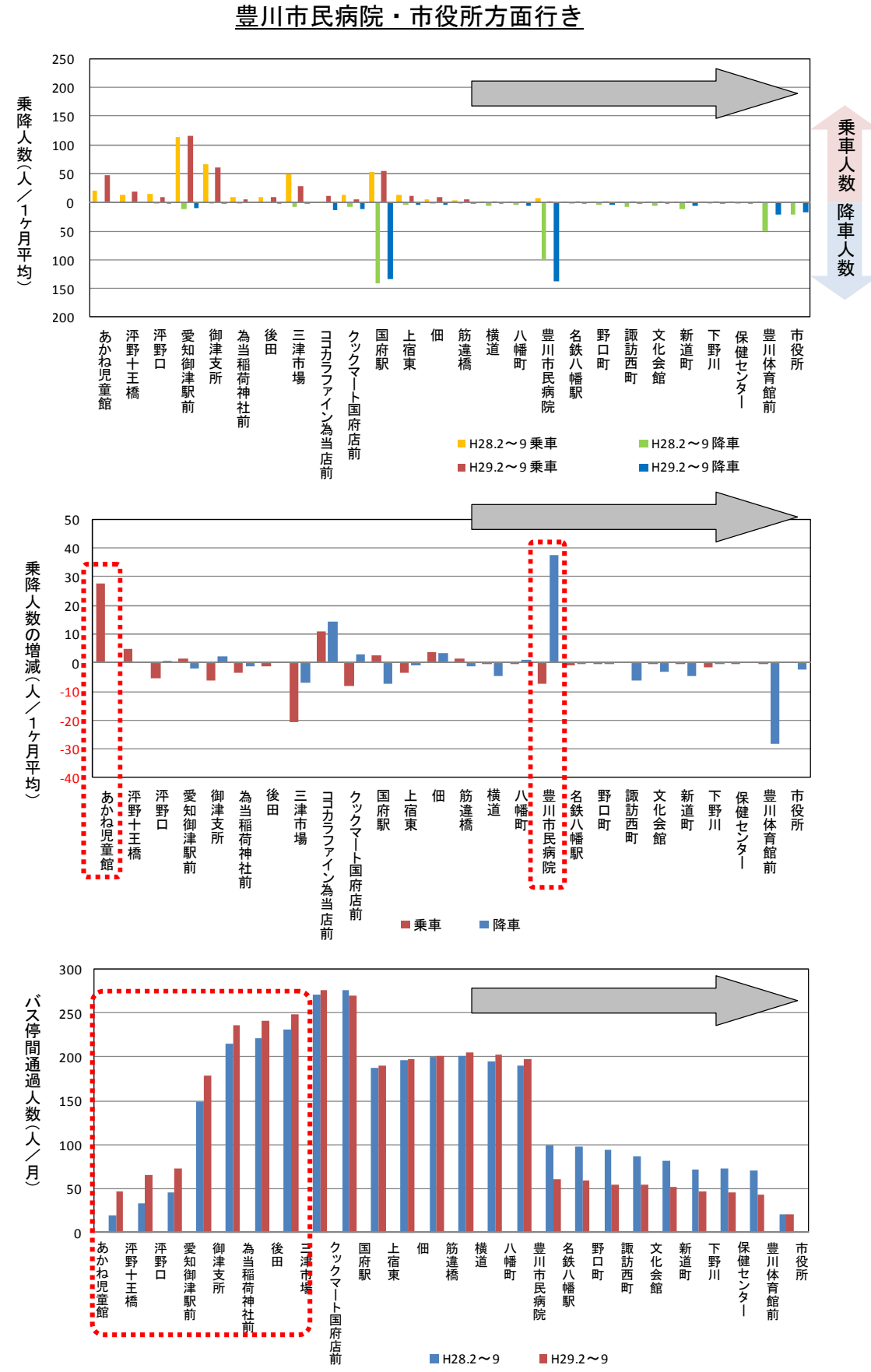


③ 御津線

御津地区方面行きのバス停の利用者数は豊川市民病院、国府駅、愛知御津駅前、あかね児童館で増加が目立ち、バス停間通過人数は国府駅～あかね児童館間で増加が目立っています。



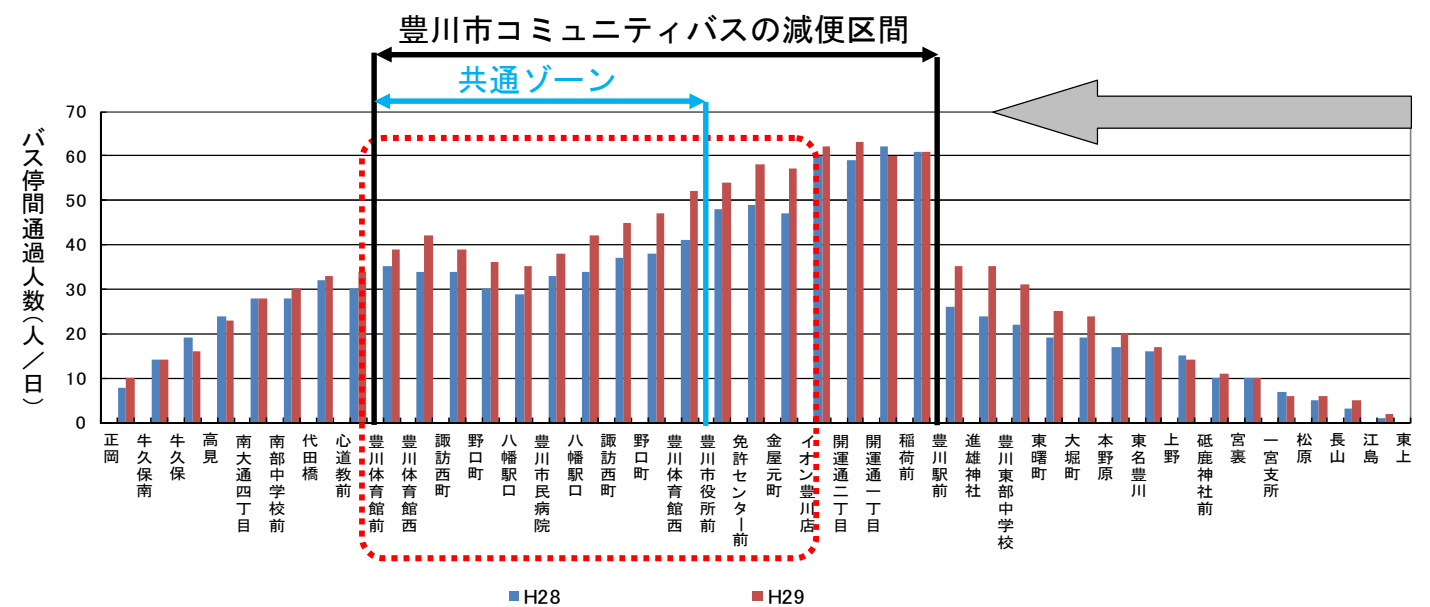
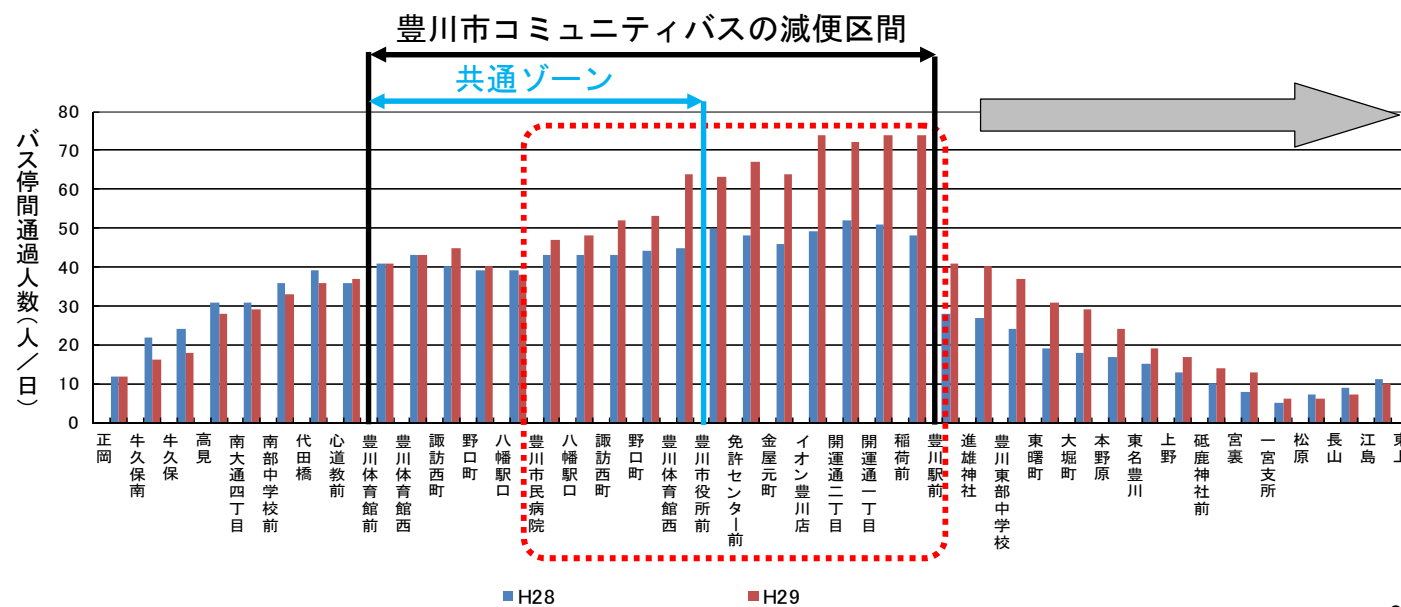
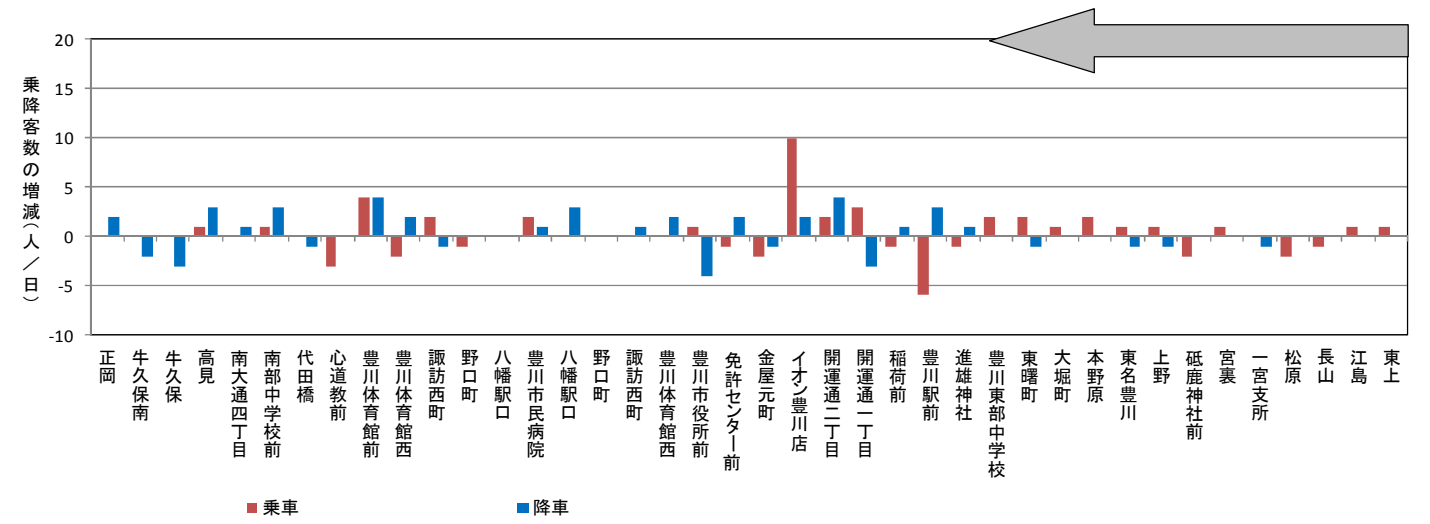
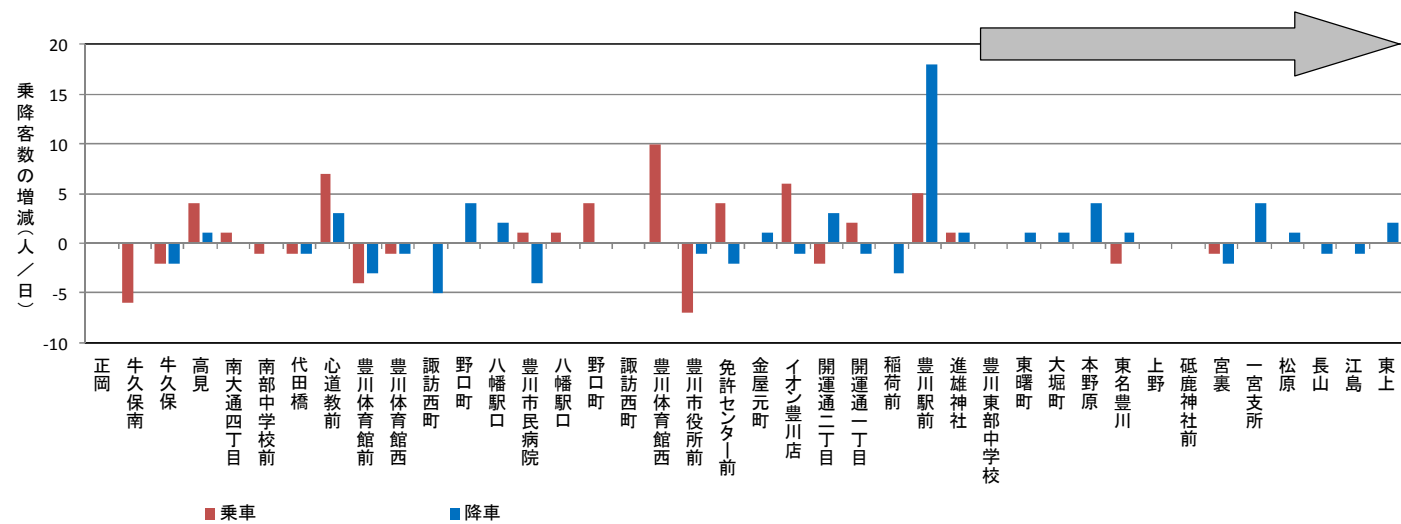
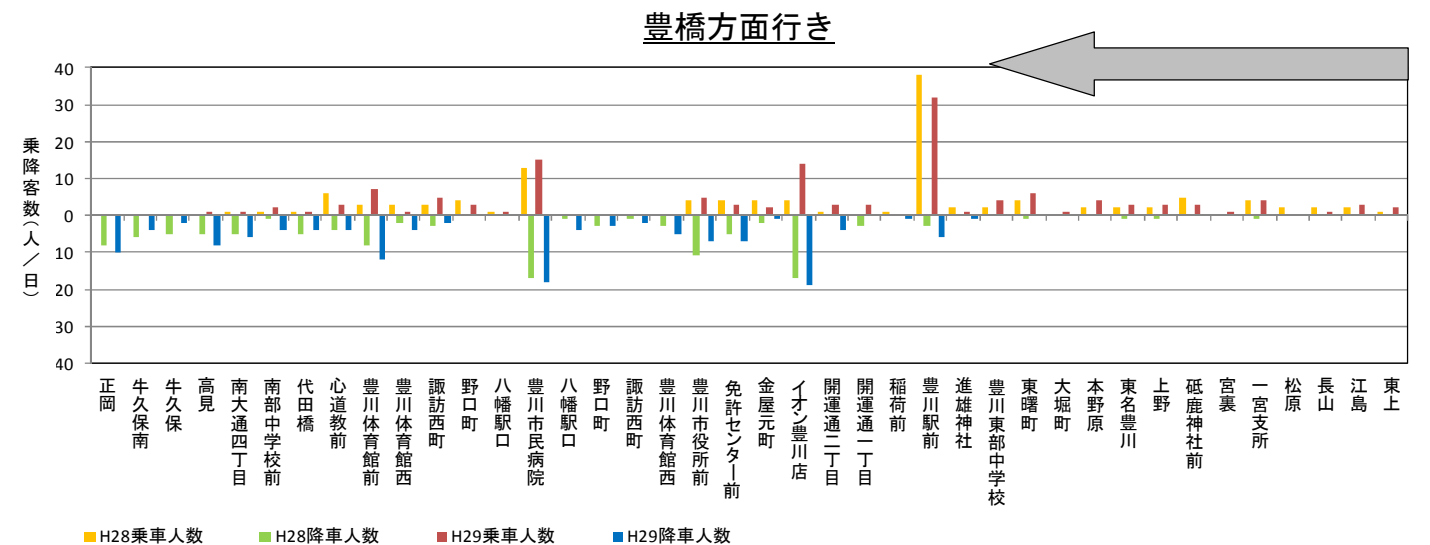
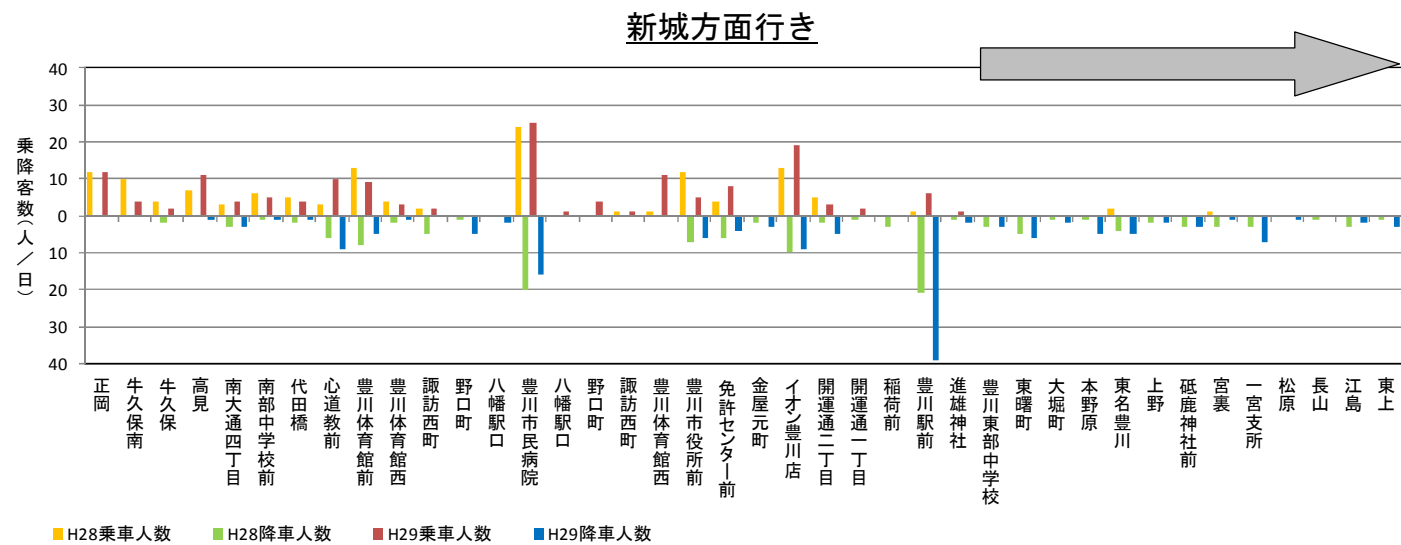
豊川市民病院・市役所方面行きのバス停の利用者数はあかね児童館、豊川市民病院で増加が目立ち、バス停間通過人数はあかね児童館～三津市場間で増加が目立っています。



（４）豊鉄バス新豊線・豊川線のバス停別利用者数及びバス停間通過人数の比較

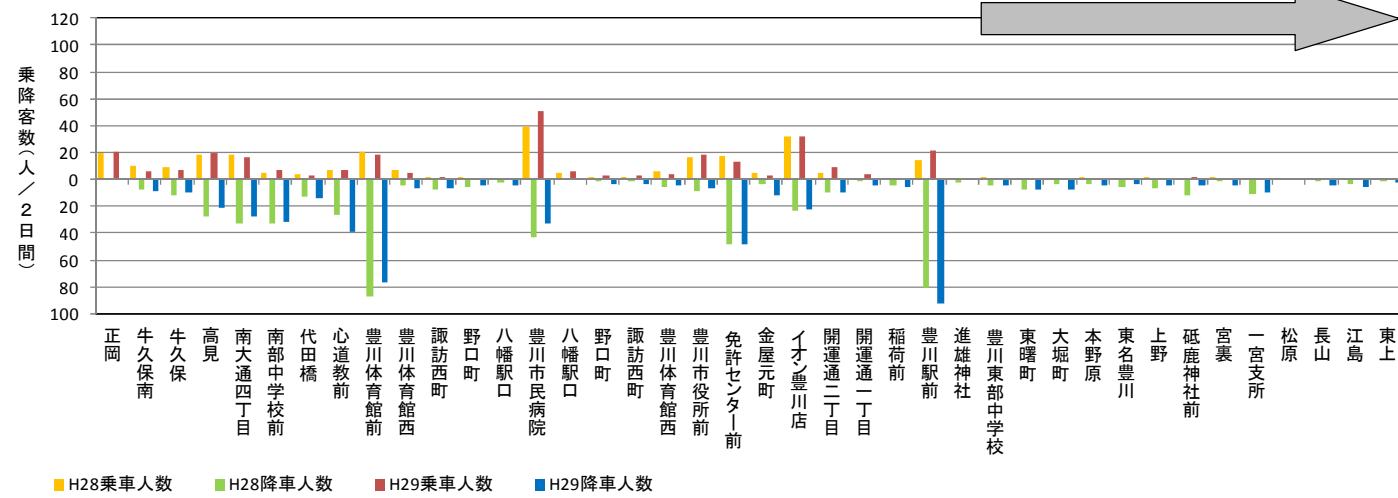
バス停間通過人数に着目すると、豊鉄バス新豊線・豊川線では豊川市コミュニティバスの減便を行った豊川体育館前・豊川市民病院～豊川駅前方面において、平成２８年度に比べて平成２９年度の方が上回っています。

① １０月のＯＤ調査結果（豊川市の内々利用者ＯＤのみ抽出 ※平日調査結果）

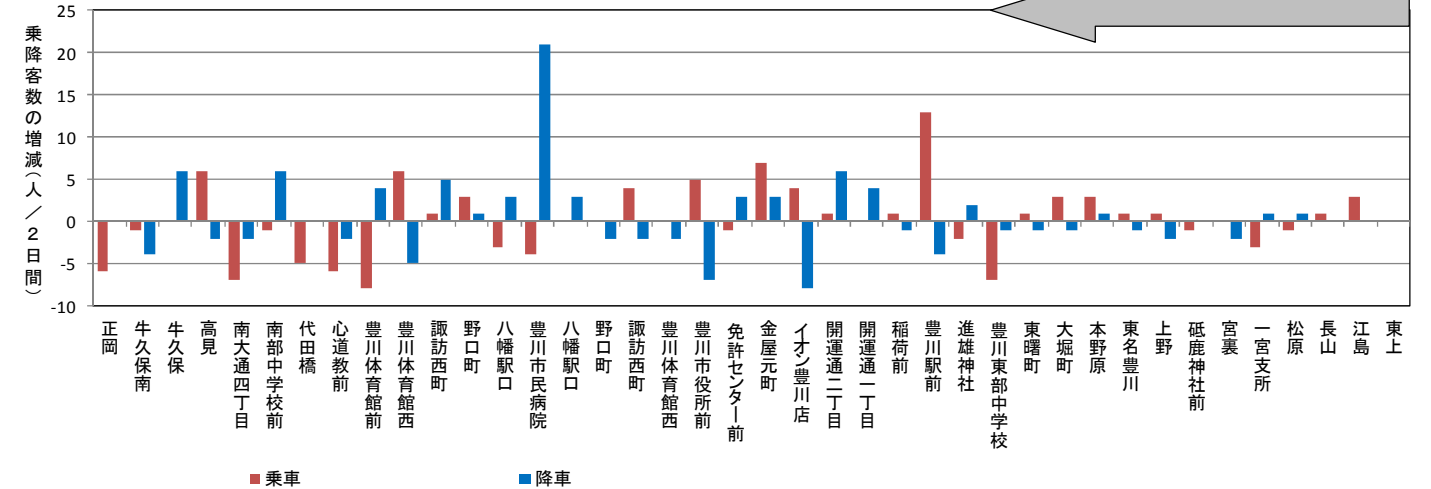
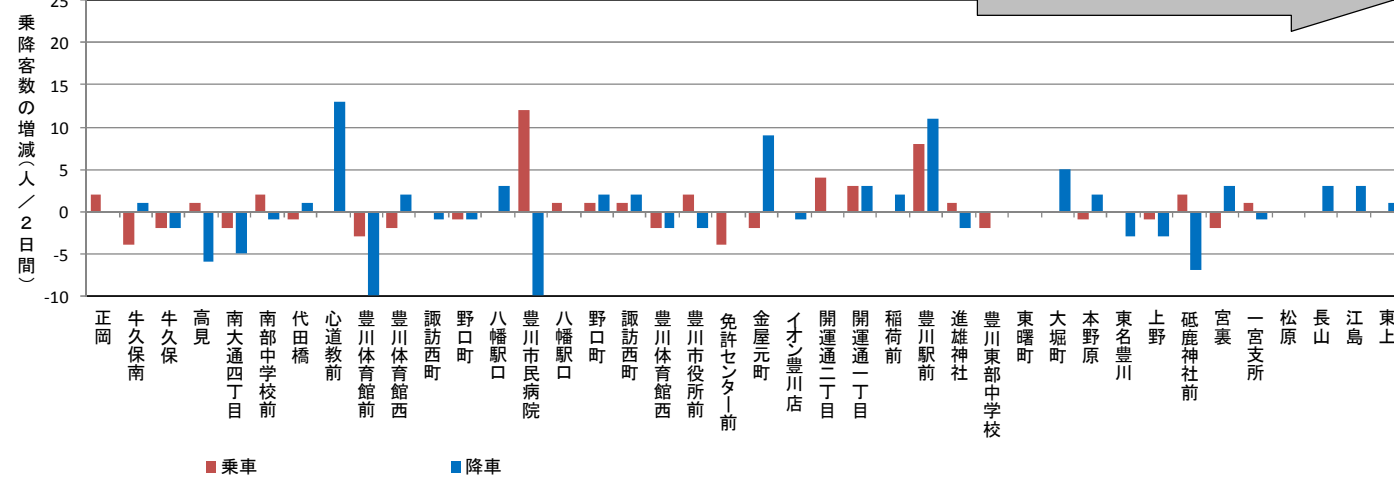
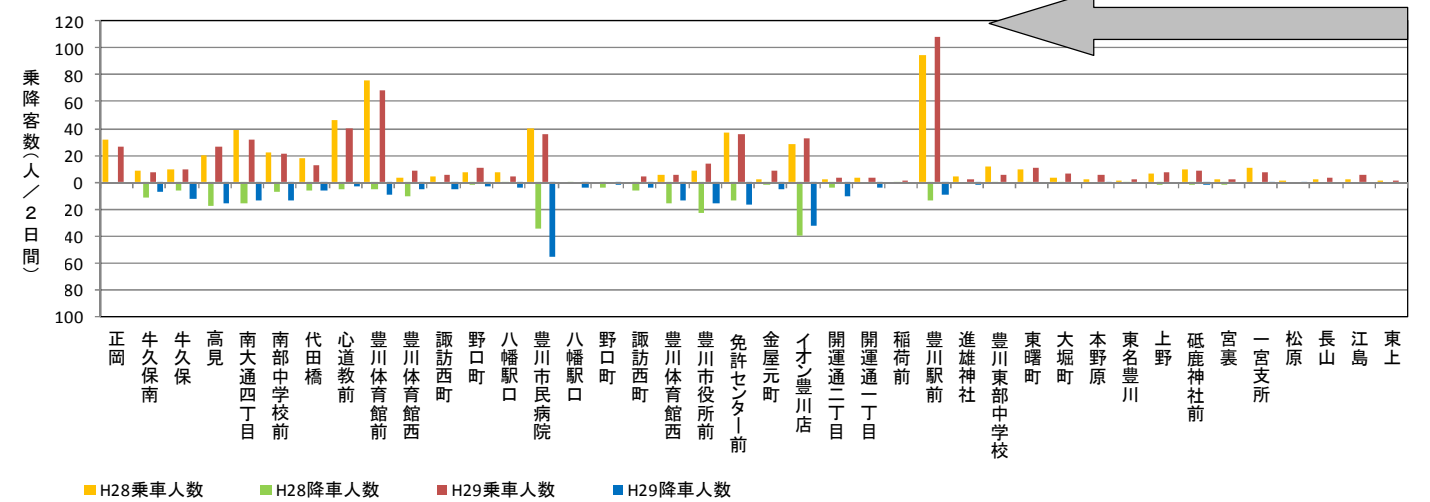


② 6月のOD調査結果（豊川市外からの利用者ODも含む ※2日間調査の合計）

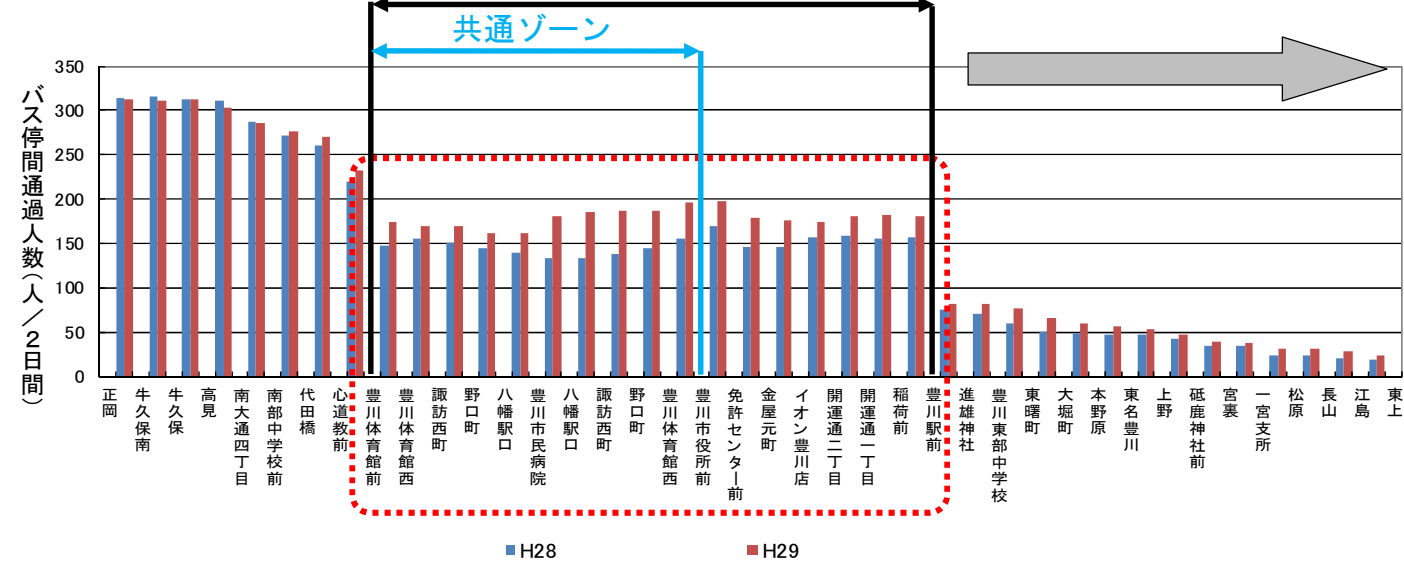
新城方面行き



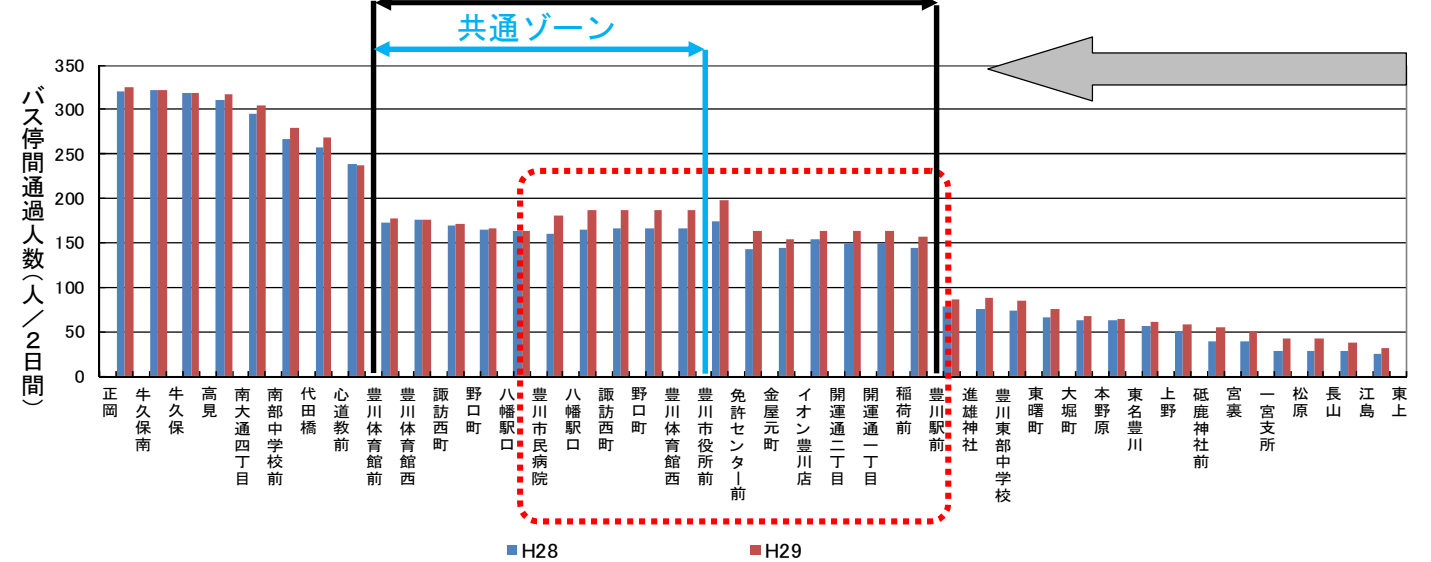
豊橋方面行き



豊川市コミュニティバスの減便区間



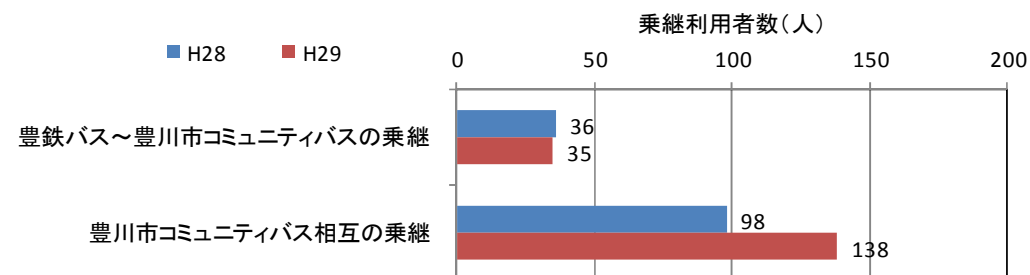
豊川市コミュニティバスの減便区間



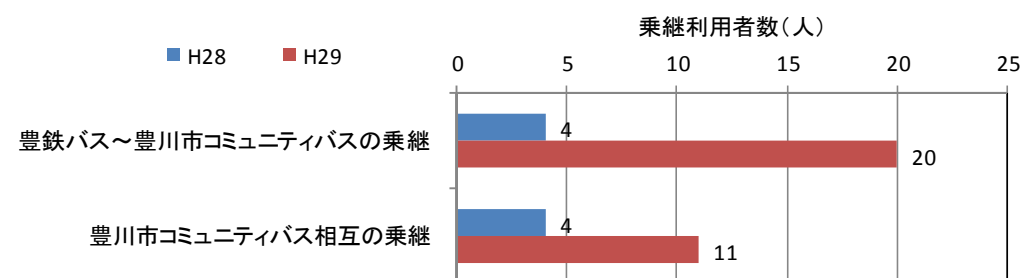
（５）乗継利用の変化の状況

市内の路線全体でみた場合、豊鉄バスと豊川市コミュニティバスとの乗継利用者に大きな変化はみられませんが、路線体系変更後に新たな交通結節点となった豊川市民病院バス停では、豊鉄バスと豊川市コミュニティバスとの乗継利用者は増加しており、乗継利用が浸透しつつあるものと考えられます。

○Ｄ調査期間（５日間）のバスの乗継利用の変化



○Ｄ調査期間（５日間）の豊川市民病院バス停における乗継利用の変化



（６）運賃体系の変更に関する認知度と効果の検証

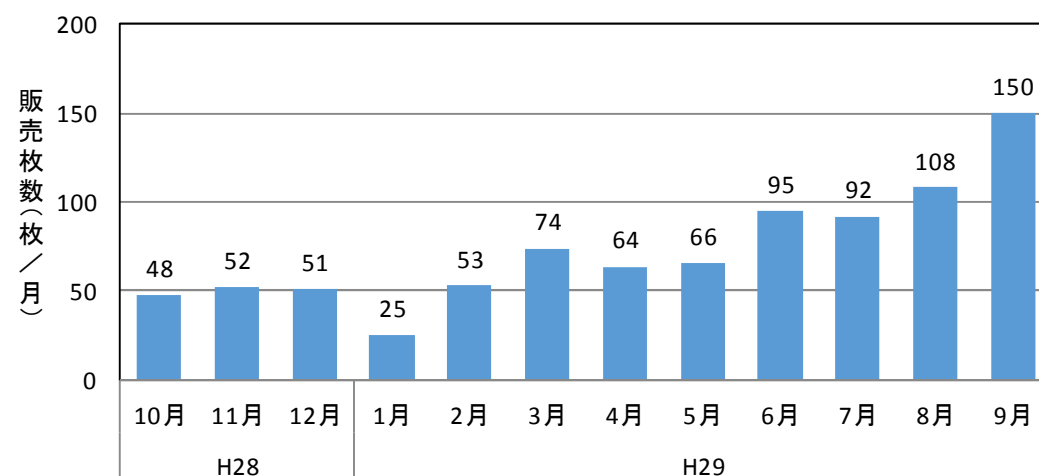
① 共通ゾーンの認知度

共通ゾーンの認知度は平成２８年度と平成２９年度で進展がみられませんでした。なお、利用頻度が低い方ほど「知らない」割合が大きいことから、認知度向上に向けてＰＲの継続が必要であると考えられます。

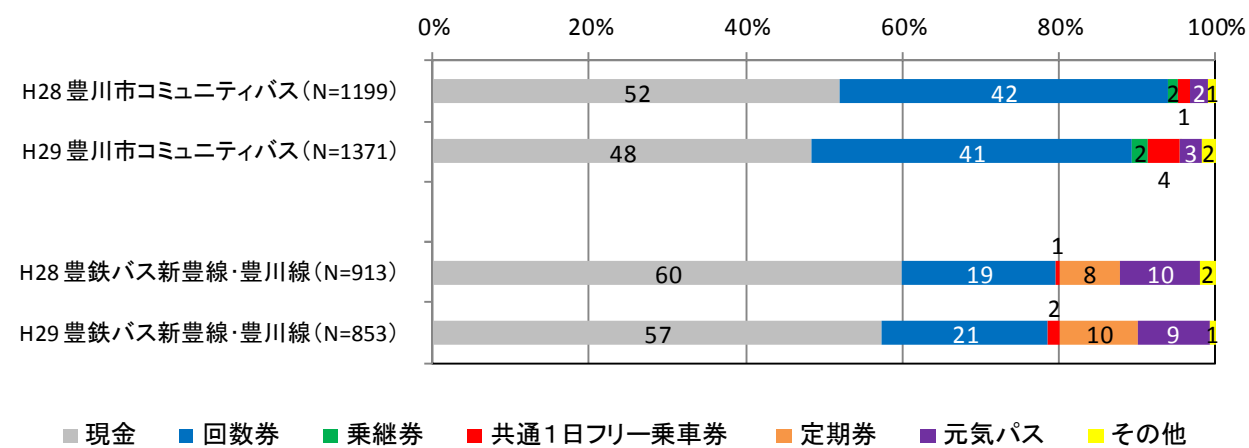
② 共通１日フリー乗車券の利用割合

共通１日フリー乗車券の販売枚数は増加傾向にあり、平成２９年度の共通１日フリー乗車券の利用割合は平成２８年度よりやや増加しました。しかし、豊鉄バスと豊川市コミュニティバスとの乗継利用者の共通１日フリー乗車券の利用割合は３７％となっていることから、共通１日フリー乗車券利用のお得感のＰＲの継続が必要であると考えられます。

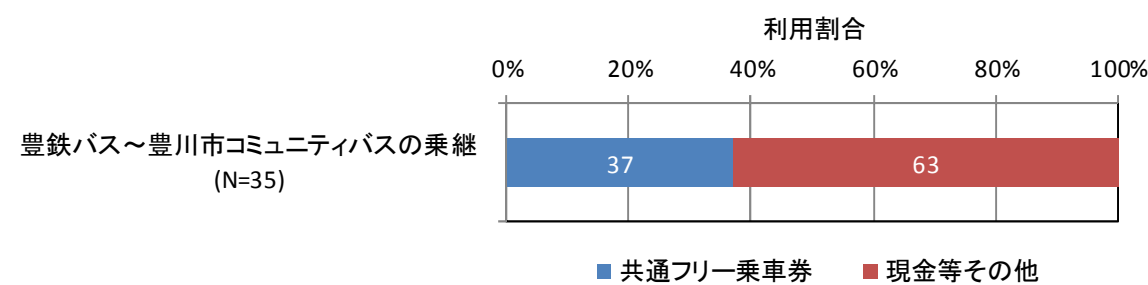
共通１日フリー乗車券の販売枚数の推移



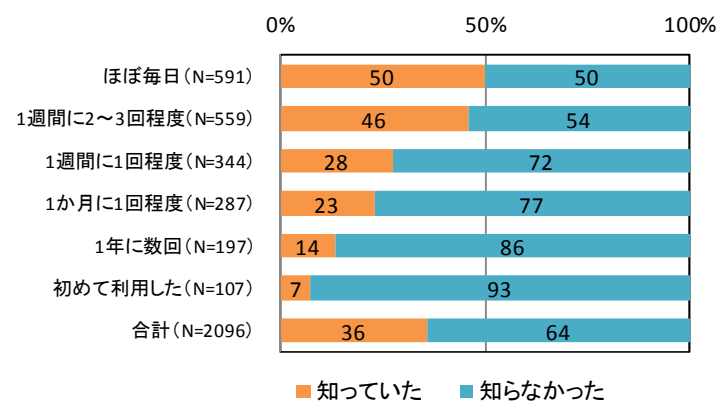
平成２８年度と平成２９年度の運賃支払い方法の比較



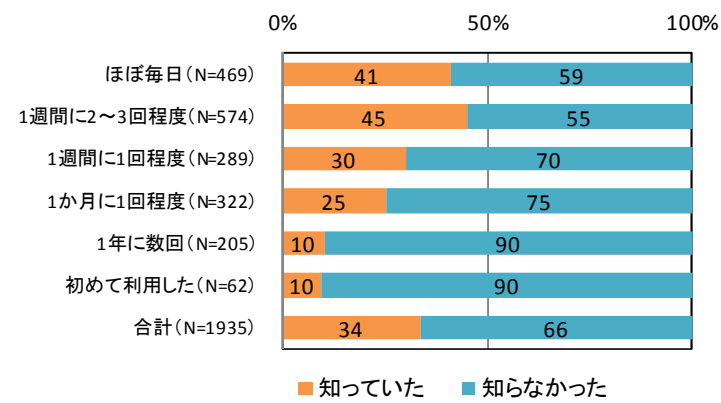
豊鉄バスと豊川市コミュニティバスとの乗継利用者の共通１日フリー乗車券の利用割合



平成２９年度調査



平成２８年度調査



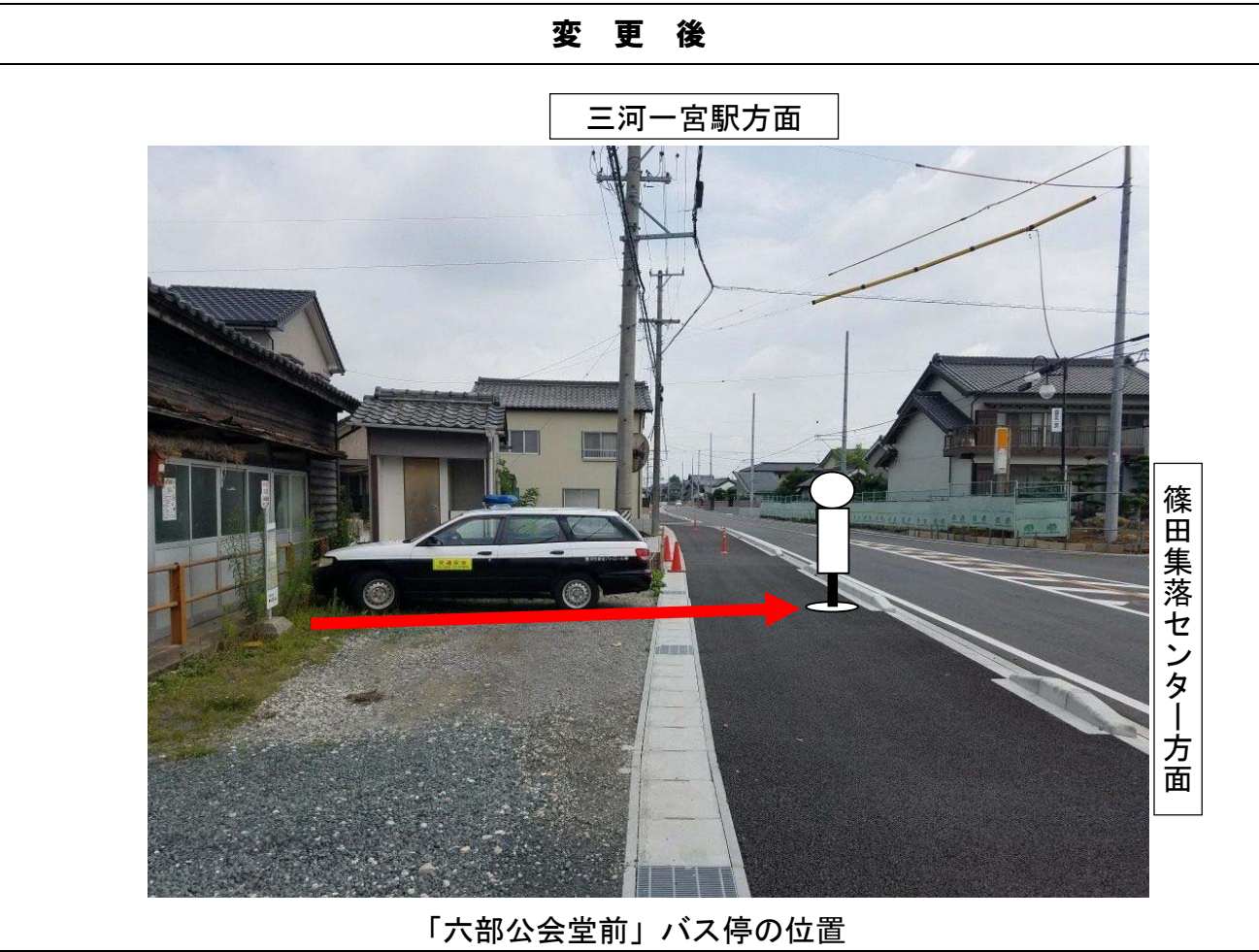
4. 【報告事項（4）】豊川市コミュニティバスのバス停位置及び運行ルートの変更について

4-1. 一宮地区地域路線（本宮線のんほい号）「六部公会堂前」バス停位置の変更

一宮地区地域路線（本宮線のんほい号）西回りの「六部公会堂前」バス停について、六部公会堂の建物を取り壊して土地を売却することとなったため、バス停位置を六部公会堂敷地内から歩道（県道）へ移設しました。

移設位置につきましては、公安委員会、運行事業者、道路管理者（県）、近隣地権者との協議を終え、合意を得ています。運行ダイヤの変更はありません。

なお、位置の変更は、平成29年9月8日（金）に実施済みです。

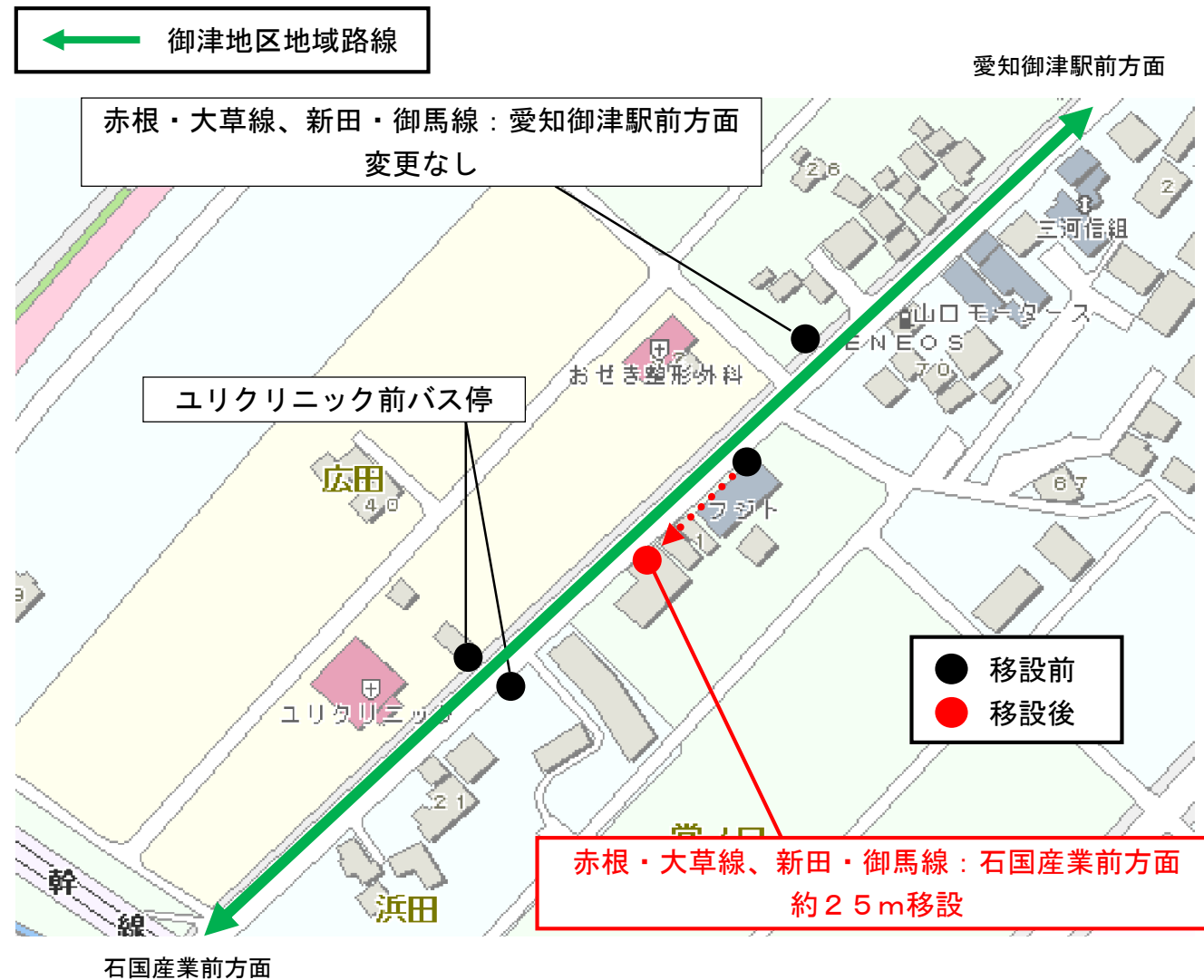


4-2. 御津地区地域路線（ハートフル号）「御津交番前」バス停位置の変更

御津地区地域路線（ハートフル号）赤根・大草線及び新田・御馬線の「御津交番前」バス停について、バス停前の建物が取り壊されるため、バス停位置を南西側へ約25m移設しました。

移設位置につきましては、公安委員会、運行事業者、道路管理者（市）、近隣地権者との協議を終え、合意を得ています。運行ダイヤの変更はありません。

なお、位置の変更は、平成29年10月12日（木）に実施済みです。

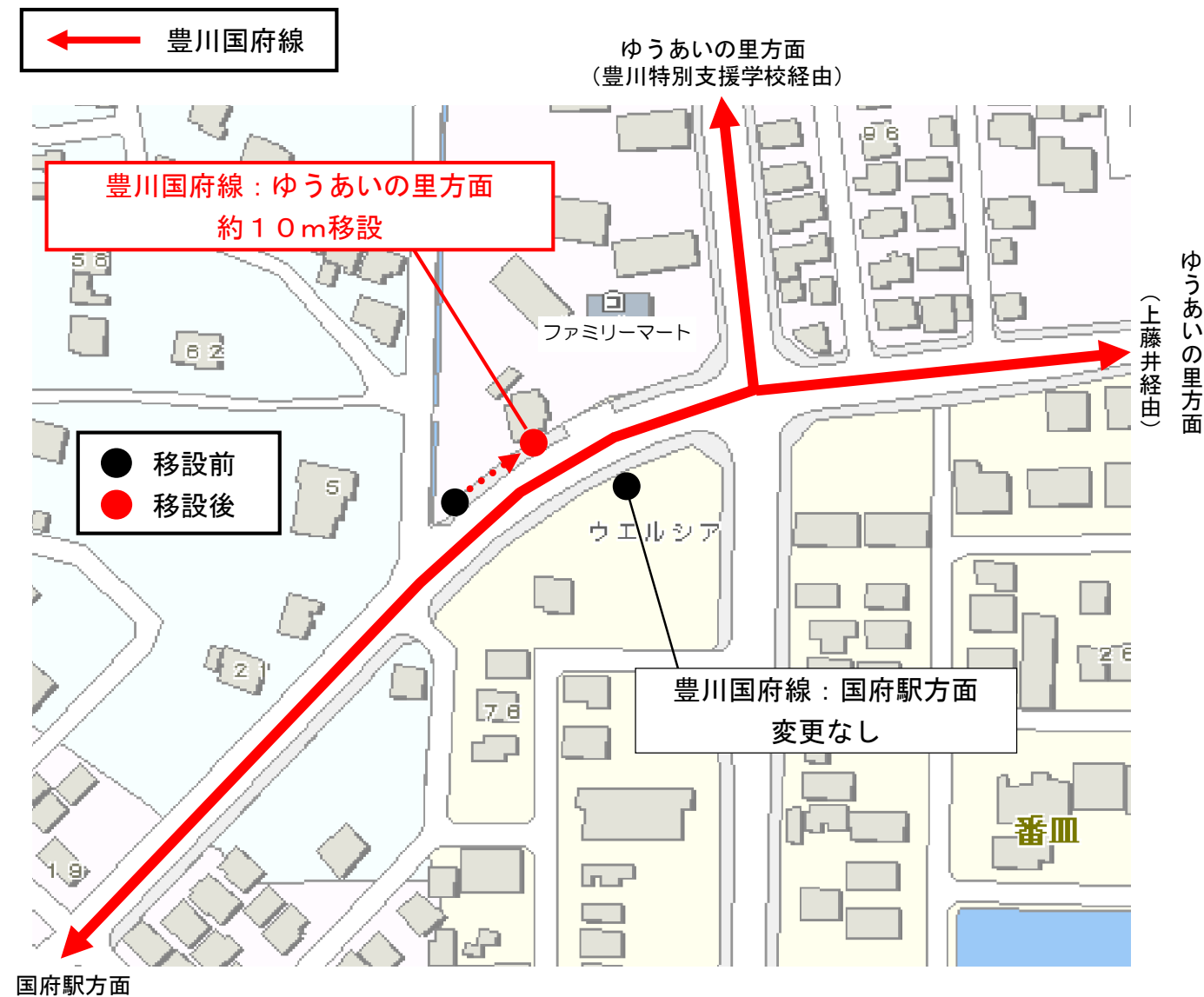


4-3. 豊川国府線「六光寺」バス停位置の変更

豊川国府線の「六光寺」バス停（ゆうあいの里方面）について、バス停脇に土地区画整理事業に伴う仮設道路が建設されるため、バス停位置を北東側へ約10m移設しました。

移設位置につきましては、公安委員会、運行事業者、道路管理者（市）、近隣地権者との協議を終え、合意を得ています。運行ダイヤの変更はありません。

なお、位置の変更は、平成29年10月20日（金）に実施済みです。

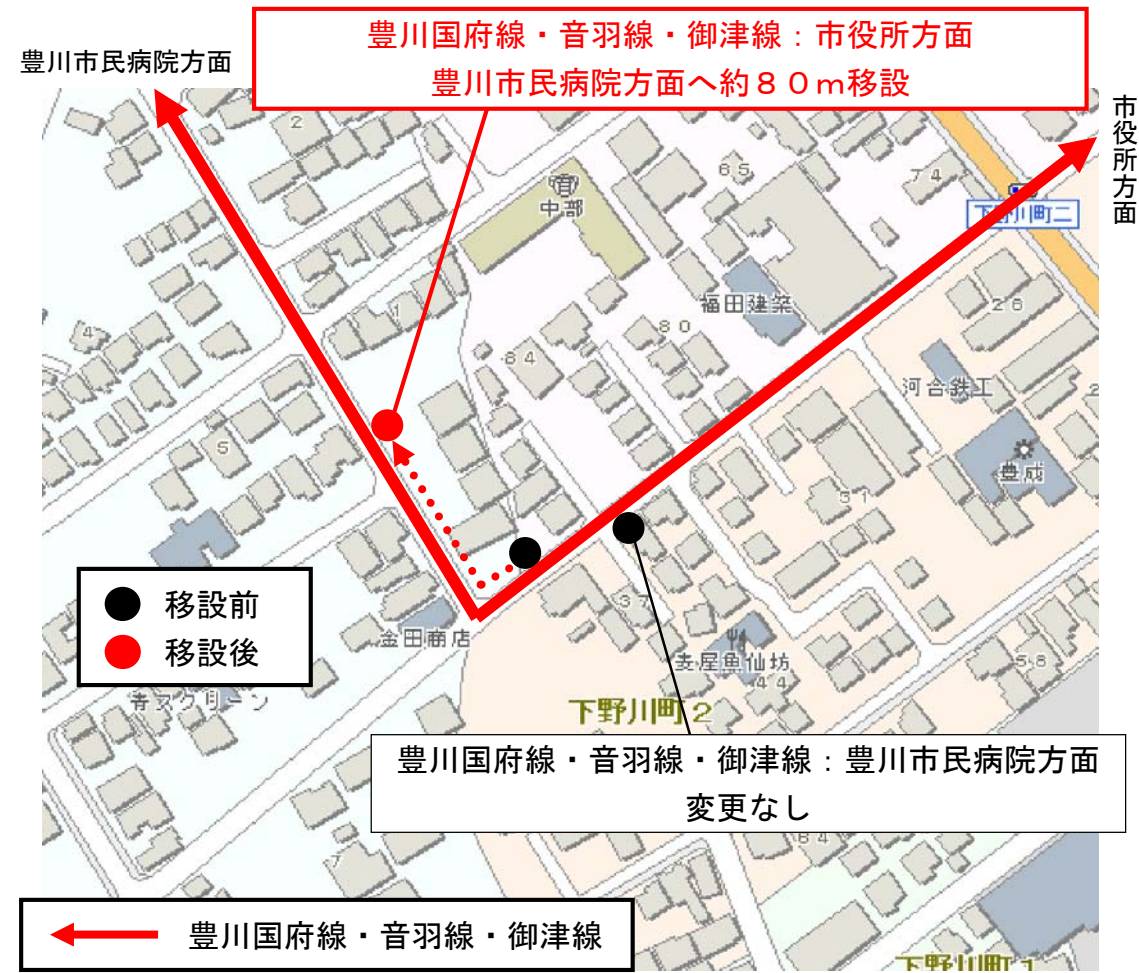


4－4．豊川国府線・音羽線・御津線「下野川」バス停位置の変更

豊川国府線・音羽線・御津線共用の「下野川」バス停（市役所方面）について、バス停地先の住宅の取り壊し、売却にあたってバス停が支障となるため、バス停位置を豊川市民病院方面へ約80m移設しました。

移設位置につきましては、公安委員会、運行事業者、道路管理者（市）、近隣地権者との協議を終え、合意を得ています。運行ダイヤの変更はありません。

なお、位置の変更は、平成29年12月1日（金）に実施済みです。



4－5．御津地区地域路線の運行計画の変更

（１）運行概要

新幹線高架橋の工事に伴い、国道２３号の西方交差点横、新幹線高架橋下の市道が車両通行止めとなるため、工事期間中は運行経路、バス停位置について一部変更を行います。

運行経路の変更及び臨時バス停の移設につきましては、公安委員会、運行事業者、道路管理者（市）、近隣地権者との協議を終え、合意を得ています。運行ダイヤの変更はありません。

なお、変更期間は、平成２９年１１月７日（火）～平成３０年３月１８日（日）の予定です。

工事完了後は、通常の運行ルートに戻して運行を行います。

運行概要その１

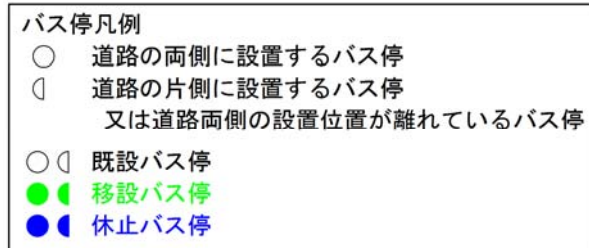
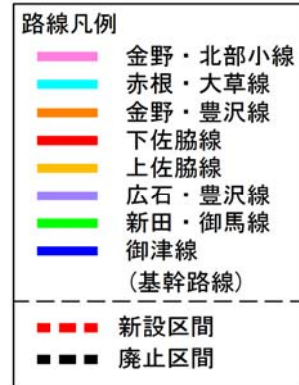
項 目		内 容
運行事業者		豊鉄タクシー株式会社
運行ルートの概要		御津地区内を運行して基幹路線の御津線と接続します。
金野・北部小線	起点	熊野神社前
	主な経由地	北部小学校、御津支所
	終点	愛知御津駅前
赤根・大草線	起点・終点	愛知御津駅前
	主な経由地	御津支所、福祉保健センター、あかね児童館
金野・豊沢線	起点・終点	愛知御津駅前
	主な経由地	御津支所、福祉保健センター、豊沢橋前、熊野神社前
下佐脇線	起点・終点	愛知御津駅前
	主な経由地	御津支所、福祉保健センター、下佐脇新屋
上佐脇線	起点・終点	愛知御津駅前
	主な経由地	御津支所、福祉保健センター、上佐脇集落センター前
広石・豊沢線	起点・終点	愛知御津駅前
	主な経由地	御津支所、福祉保健センター、クックマート国府店前
新田・御馬線	起点・終点	愛知御津駅前
	主な経由地	御津支所、福祉保健センター、新田西
延長 （１巡）	金野・北部小線	６．２km
	赤根・大草線	６．８km → ７．７km
	金野・豊沢線	１５．９km
	下佐脇線	６．３km
	上佐脇線	７．７km
	広石・豊沢線	１１．７km
	新田・御馬線	１１．４km → １１．９km
所要時間 （１巡）	金野・北部小線	１５分
	赤根・大草線	２５分
	金野・豊沢線	４２分
	下佐脇線	２０分
	上佐脇線	２０分
	広石・豊沢線	３０分
	新田・御馬線	３８分

※赤字部分は変更箇所です。

運行概要その２

項 目		内 容
運行本数	金野・北部小線	１本／日
	赤根・大草線	５本／日
	金野・豊沢線	３本／日
	下佐脇線	３本／日
	上佐脇線	３本／日
	広石・豊沢線	３本／日
	新田・御馬線	５本／日
運行日	金野・北部小線	月～金曜日運行 ※運休日：８月１日～３１日、１月１日～３日
	赤根・大草線 金野・豊沢線 下佐脇線	月・水・金曜日運行 ※運休日：１月１日～３日
	上佐脇線 広石・豊沢線 新田・御馬線	火・木・土曜日運行 ※運休日：１月１日～３日
車両	大きさ	ジャンボタクシー
	台数	１台
バス停数		４２箇所（片方向休止：１箇所）
他路線との乗継可能バス停	鉄道駅	<ＪＲ> ・愛知御津駅前 <名鉄> ・なし
	民間バス路線	<豊鉄バス新豊線・豊川線> ・なし
	基幹路線	<御津線> ・愛知御津駅前、御津支所、クックマート国府店前
運賃体系		１乗車１００円 ※御津線への乗継は、基幹路線の初乗り料金２００円を支払って乗車
その他の料金設定		ａ．未就学児：半額。但し、同伴者１人につき１人まで無料 ｂ．身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを所持している方と、その付添人１人：半額
変更期間		平成２９年１１月７日（火）～平成３０年３月１８日（日） 予定

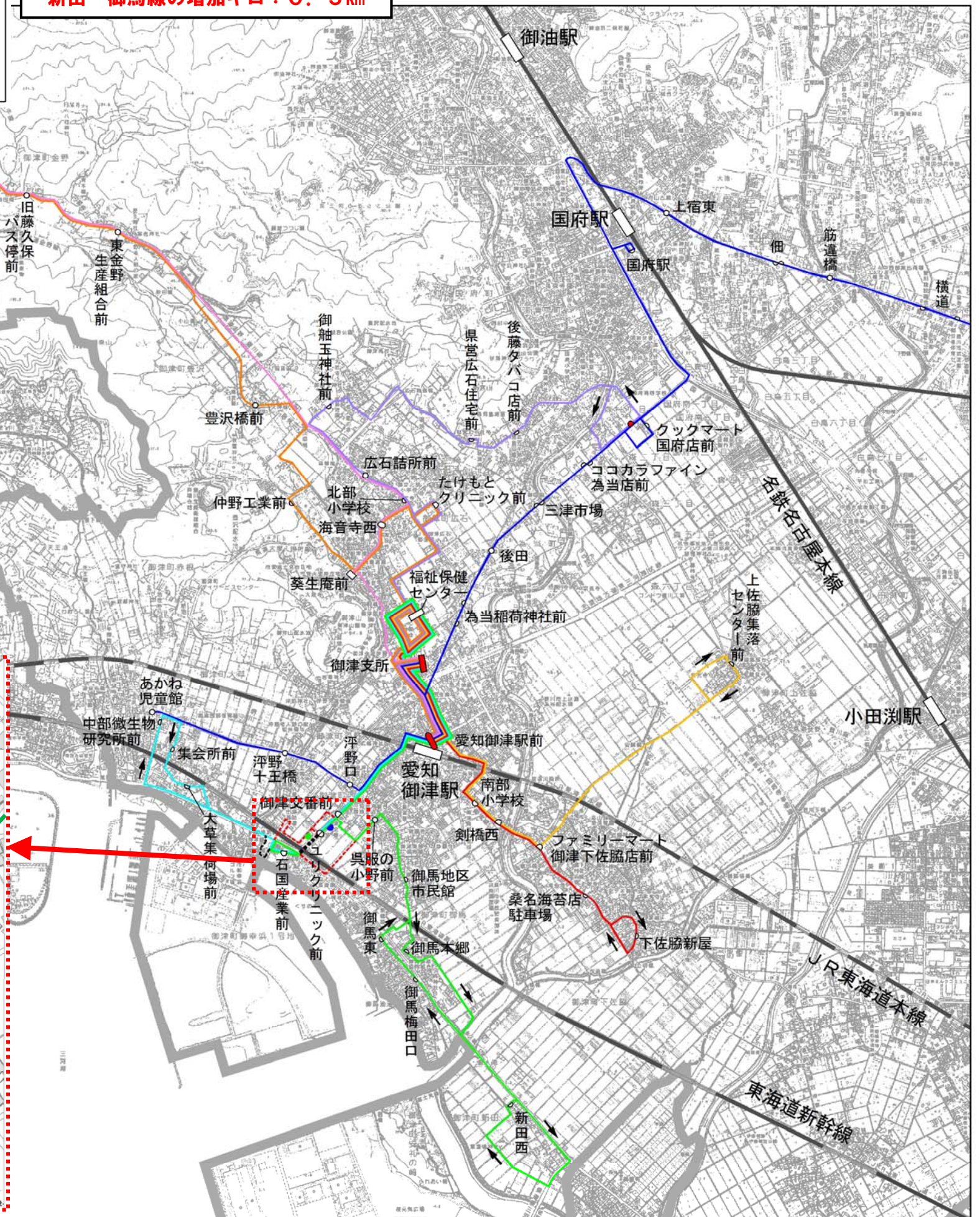
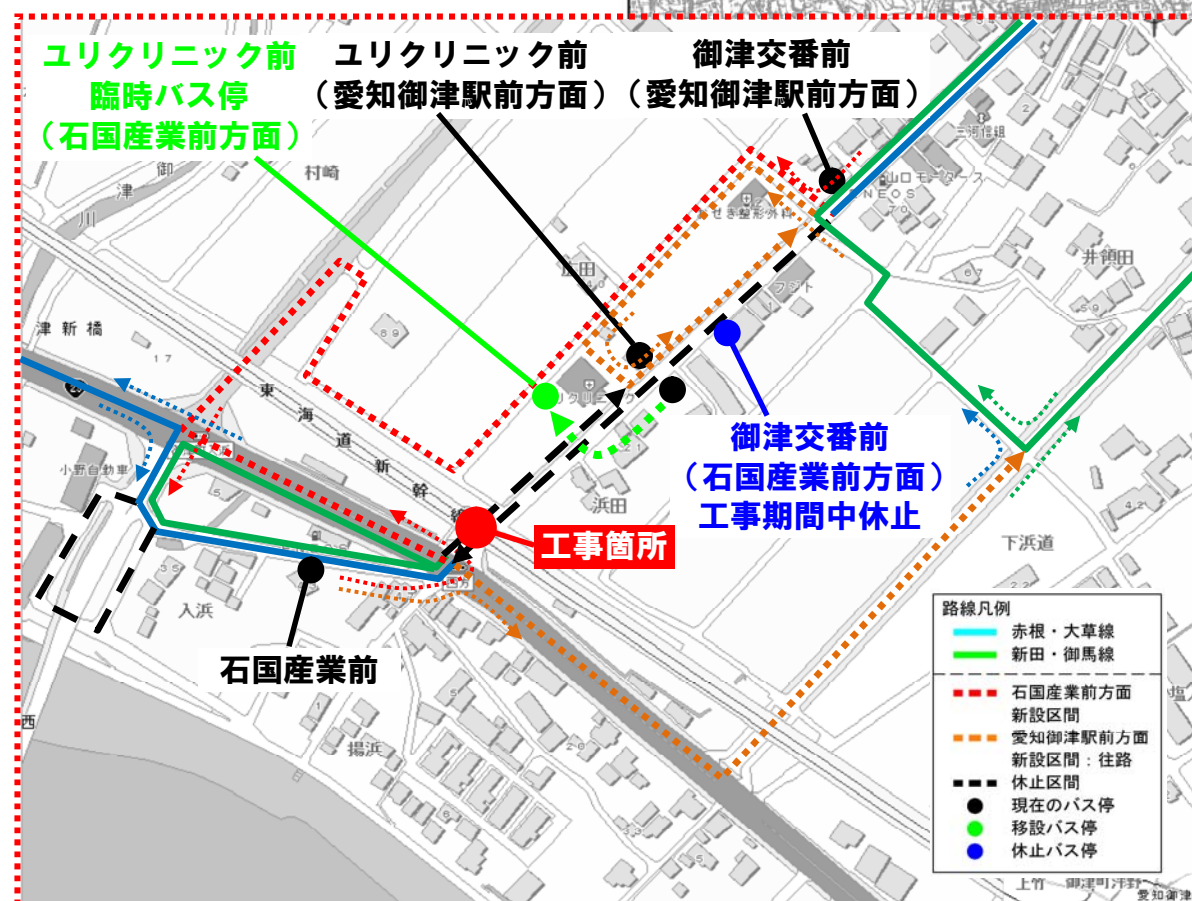
(2) 路線図



赤根・大草線の増加キロ：0.9km
新田・御馬線の増加キロ：0.5km



ユリクリニック前バス停
(石国産業前方面：臨時バス停)



5. 【報告事項（5）】利用促進イベントの取り組み結果について

5－1. 夏休み小学生50円バス

東三河地域において、夏休み期間中（7/21～8/31）に小学生の運賃を一律50円とするキャンペーンを実施しました。

実施期間中の豊川市コミュニティバスの小学生50円バスの利用状況は以下のとおりです。

豊川市コミュニティバス路線全体では、1日平均の利用者数では約6人/日（期間中計278人）となっており、平成28年度の約10人/日（期間中計485人）と比べて、約6割の利用者数となっています。

路線別では、千両三上線、一宮線、一宮地区地域路線、御油地区地域路線は前年を上回る結果となっていますが、その他の6路線は、前年より利用割合が大きく減少しています。

当利用促進イベントに参加する東三河地域全体の利用者数は平成28年度と比べて減少し、各交通事業者及び自治体単位でみた利用者数についても、その多くが減少しています。

※豊鉄バスの豊橋・新城・渥美の各営業所合計では、期間中に8,806人が利用しました。（1日平均約209人）

※平成28年度は、11,150人（1日平均約237人）

年度 路線名		過年度の実績				平成29年度実績 実施期間:7/21～8/31			H29/H28年度 比較
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	7月	8月	合計	
基幹路線	豊川国府線	63	100	57	112	15	35	50	44.6%
	千両三上線	24	40	24	35	16	21	37	105.7%
	ゆうあいの里小坂井線	15	65	94	44	9	17	26	59.1%
	一宮線	68	46	55	33	18	46	64	193.9%
	音羽線	161	91	91	94	16	13	29	30.9%
	御津線	57	41	47	72	9	22	31	43.1%
	基幹路線合計	388	383	368	390	83	154	237	60.8%
地域路線	音羽地区地域路線	23	39	63	50	4	10	14	28.0%
	御津地区地域路線	24	20	16	36	6	7	13	36.1%
	一宮地区地域路線	0	7	8	1	1	2	3	300.0%
	御油地区地域路線	9	9	11	8	1	10	11	137.5%
	地域路線合計	56	75	98	95	12	29	41	43.2%
総合計		444	458	466	485	95	183	278	57.3%

6. 【報告事項（6）】地域協議会意見交換会・勉強会について

「豊川市地域公共交通網形成計画」で位置付けている「利用促進活動の実施」の具体的な取り組みとして、住民との連携による公共交通利用意識の向上を目指し、地域のバスを守る意識を高めるための地域協議会意見交換会・勉強会を以下のとおり実施しました。

内容は、豊川市内のバス路線概況と公共交通に関する取り組みの説明、隣接する豊橋市の石巻・下条地域交通推進委員会の会長による「石巻・下条地域交通推進委員会の取り組みについて」と題した講演を聞き、会の最後に意見交換を実施しました。

意見交換会では、平成28年10月に実施した路線・運賃体系変更後の効果に関することや石巻・下条地域交通推進委員会での取り組み内容の質疑、石巻・下条地域交通推進委員会からは行政界を跨ぐバス路線の乗り入れについて意見が出されました。

利用促進に関する取り組みは、石巻・下条地域交通推進委員会での取り組みも参考のひとつにしながら、各地域協議会と行政が連携し、引き続き調整・検討を進めていく予定です。また、行政界を跨いだ連携についても、調整・検討を進めていく予定です。

- (1) 日時 平成29年9月27日（水） 午後2時～
- (2) 場所 音羽文化ホール（3階 大会議室）
- (3) 参加 音羽地域公共交通運営協議会役員：3名（1名欠席）
御津地区地域路線運営協議会役員：6名（1名欠席）
一宮地域公共交通運営協議会役員：3名
御油地域バス路線協議会役員：3名
- (4) 内容 ①豊川市内のバス路線概況
②平成29年8月までの豊川市コミュニティバスの運行実績について
③豊川市の公共交通に関する取り組み
④講演「石巻・下条地域交通推進委員会の取り組みについて」
講師：石巻・下条地域交通推進委員会 会長 西川一隆 氏
⑤意見交換・質疑応答
- (5) 主な意見
- ・路線見直し、共通ゾーン導入の効果について
 - ・石巻・下条地域交通推進委員会における支援会員の仕組みについて
 - ・石巻・下条地域交通推進委員の構成について
 - ・豊橋市と豊川市の行政界を跨ぐバス路線の乗り入れについて



地域協議会意見交換会・勉強会の様子

7. 【協議事項（1）】地域公共交通確保維持改善事業の評価について

7-1. 地域公共交通確保維持改善事業の評価

補助対象路線（地域内フィーダー系統）については、平成28年10月1日から平成29年9月30日までを評価期間として、以下の所定の様式に基づき評価を行い、地域公共交通会議後の平成30年1月18日までに国へ提出します。

【各評価項目の評価基準】
①事業実施の適切性
A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。
②目標・効果達成状況
A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

(別添1)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月

協議会名：豊川市地域公共交通会議

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況			⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の 名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行 (航)区間、整備内容等を記載(陸 上交通に係る確保維持事業におい て、車両減価償却費等及び公有民 営方式車両購入費に係る国庫補 助金の交付を受けている場合、離 島航路に係る確保維持事業におい て離島航路構造改革補助(調査検 討の経費を除く。)を受けている場 合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回 の事業評価結果をどのように生活交通確保 維持改善計画に反映させた上で事業を実施 したかを記載】	A・ B・ C 評 価	A・ B・ C 評 価			【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策 は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについ て広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画 にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず 記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載	
豊川市コミュニティバス	基幹路線：6路線 地域路線：4路線		B 計画どおり実施されていない 点があった。 (昨年度、明らかになった補助 対象以外の路線の一部の便 における運行取り止めの事案 が平成29年10月29日まで 行われ、本評価期間に含まれ るが、既に改善済みである。)	年間利用者目標：110,000人／年 年間利用者実績：87,948人／年(H28.10～H29.09実績) 達成状況：80% 利用者数、収支率とも目標を達成していないが、昨年度と比べると利用者数は84,731人／年から87,948人／年に増加した。収支率は11.8%から9.9%に減少してい る。 目標に達しない要因として、変更直後から平成29年1月までは利用者数が前年同月と比べて下回る状況が続いたこと、共通ゾーンや共通1日フリー乗車券の導入に よる利用者1人当たりの実収率の低下が影響していると考えられる。			地域主体の運行実施地域数目標：5地域 地域主体の運行実施地域数実績：4地域 達成状況：80%	平成29年10月実施のOD調査と簡易アンケート で、「共通ゾーン」や「豊川市1日フリー乗車券」の 認知度が十分でないことが明らかとなった。 平成29年2月以降の利用者数は、前年同月と比 べて上回る状況が続いており、その傾向の維持と 更なる利用の増加に向けて、バスだけでなく市内 公共交通全体の利用促進に向けたPRポスターを 作成し、引き続き利用促進活動を展開する。 「夏休み小学生50円バス」の利用促進事業は今 後も継続する。今年度は期間中の利用者数が減少 したため、利用の向上を目指して周知方法の改善 を行う。 一部の路線における運行取り止めの事案につい ては、運行事業者と共通認識を図り、連携を強化す るとともにサービスの向上に努め、平成29年10月 29日以降は改善した。
豊川国府線 (豊鉄バス)	国府駅～豊川駅前	前回の評価は、今後は共通ゾーン運 賃の認知度の向上や1日フリー乗車 券の周知を行うとともに、関係市町や 事業者との連携により広域幹線の利 用促進の取組への期待とされた。	A 計画どおり実施している。	日利用者目標：73人／日 日利用者実績：49人／日(H28.10～H29.09実績) 達成状況：67% 利用者数、収支率とも目標を達成できず、昨年度と比べると利用者数は52人／日から49人／日に減少、収支率は9.6%から8.0%に減少している。 目標に達しない要因として、変更直後から平成29年4月までは利用者数が前年同月と比べて下回る状況が続いたことが影響している。平成29年5月以降は前年同月 と比べて上回る状況が続いており、平成28年10月の路線・運賃体系の変更が浸透してきたものと考えられる。				平成28年10月の路線・運賃体系の改善以後、 路線ごとの平成29年2月～9月の合計利用者数 は、前年の同期間を上回っている。しかし、目標を 達成している路線は千両三上線のみとなっている。
千両三上線 (豊鉄タクシー)	上千両集会所～三上地区市 民館	「共通ゾーン」の設定や、「豊川市1 日フリー乗車券」に関するPRポスター を平成29年3月に作成し、同年4月よ り市内主要施設等に掲載を行った。	A 計画どおり実施している。	日利用者目標：32人／日 日利用者実績：34人／日(H28.10～H29.09実績) 達成状況：107% 利用者数、収支率とも目標を達成し、利用者数は昨年度と比べて増加している。(利用者数：31人／日→34人／日、収支率：16.8%→15.8%) 平成28年10月の路線・運賃体系変更後の利用者数は、変更直後の平成28年10月を除いて、同年11月以降は前年同月を上回る状況が続いている。				目標を達成しA評価とした千両三上線におい ては、引き続き「共通ゾーン」や「豊川市1日フリー乗 車券」の認知度向上と、バスだけでなく市内公共交 通全体の利用促進に向けたPRポスターの作成を通じ 、更なる利用者数の増加に向けて利用促進に 取り組む。
ゆうあいの里小坂井線 (豊鉄タクシー)	ゆうあいの里～西小坂井駅	また、平成28年10月からの路線・ 運賃体系変更において、音羽地区地 域路線で鉄道との接続が不便である ことが判明し、運行ダイヤの一部改正 を行い、平成29年10月1日より新しい ダイヤでの運行を開始し、利便性の向 上を図った。	A 計画どおり実施している。	日利用者目標：34人／日 日利用者実績：27人／日(H28.10～H29.09実績) 達成状況：79% 昨年度と比べて、利用者数は23人／日から27人／日に増加しているが、収支率は12.4%から12.2%に減少している。 利用者数が増加している中で収支率が減少している要因として、共通ゾーンが路線の中央に位置し、利用者1人当たりの実収率の低下が影響していると考えられる。				目標を達成せずB評価としたその他の路線におい ては、「共通ゾーン」や「豊川市1日フリー乗車券」 の認知度向上と、バスだけでなく市内公共交通全 体の利用促進に向けたPRポスターの作成を通じ 、更なる利用者数の増加に向けて利用促進に 取り組む。
音羽線 (豊鉄タクシー)	グリーンヒル音羽～市役所	広域路線の利用促進は、平成24年 度から継続して夏休み期間中に小学 生が一律50円で利用できる利用促進 事業を、豊鉄バスを含めた東三河地域 全体で取り組み、バスで広域的な移 動体験しやすい環境づくりを行った。	A 計画どおり実施している。	日利用者目標：31人／日 日利用者実績：26人／日(H28.10～H29.09実績) 達成状況：85% 昨年度と比べて、利用者数は25人／日から26人／日に微増しているが、収支率は目標を達成しているものの、12.4%から11.2%に減少している。 利用者数が増加している中で収支率が減少している要因として、共通ゾーンや共通1日フリー乗車券の導入による利用者1人当たりの実収率の低下が影響していると 考えられる。				さらに、御津線では国道1号の交通渋滞により遅 延幅が大きくなりつつあり、バス同士の接続ができ ないことも散見されることから、交通事情を考慮した 運行ダイヤの改善に取り組む。
御津線 (豊鉄タクシー)	あかね児童館～市役所		A 計画どおり実施している。	日利用者目標：24人／日 日利用者実績：22人／日(H28.10～H29.09実績) 達成状況：90% 昨年度と比べて、利用者数は22人／日で変化がなく、収支率は9.4%から8.6%に減少している。 利用者数の変化がない中で収支率が減少している要因として、共通ゾーンや共通1日フリー乗車券の導入による利用者1人当たりの実収率の低下が影響していると考 えられる。				また、豊橋市と豊川市において、行政界を跨ぐよ うな住民の生活圏を踏まえた移動への対応につい ての検討を行う。
一宮地区地域路線 <東回り> (豊鉄タクシー)	いかまい館～いかまい館		A 計画どおり実施している。	日利用者目標：40人／日 日利用者実績：25人／日(H28.10～H29.09実績) 達成状況：62% 昨年度と比べて、利用者数は24人／日から25人／日に微増しているが、収支率は8.6%から7.3%に減少している。 路線の利用形態は主に一宮地区内の天然温泉の「本宮の湯」や健康福祉センターである「いかまい館」の利用が大半を占めており、OD調査結果における70歳以上 の利用割合は98%を占め、後期高齢者の利用割合が高い特徴は昨年度までと同様の傾向である。 利用者数の減少傾向は下げ止まりとなったようにみられるが、地域協議会意見交換会・勉強会の開催を経て、施設利用以外での利用を促進するなどの具体的な取 組が必要と考えられる。				地域のバスを守る意識を高める地域協議会意見 交換会・勉強会の取り組みが一過性に終わらない ように、地域協議会と連携して利用促進に向けて 具体的に取り組む。
一宮地区地域路線 <西回り> (豊鉄タクシー)	いかまい館～いかまい館							
一宮地区地域路線 <中回り> (豊鉄タクシー)	いかまい館～いかまい館							

7－2．計画推進事業の評価

今年度は昨年度に引き続き計画推進事業の適用を受けて、以下の事業に取り組んでいます。

平成29年4月1日からこの評価を実施する時期までを評価期間として、以下の所定の様式に基づき評価を行い、地域公共交通会議後の平成30年1月18日までに国へ提出します。

(別添1)

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

平成30年1月

協議会名：豊川市地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価	【事業が適切に実施された(されている)か記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由を記載。】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割等を記載。】
OD調査の実施	A	計画どおり適切に事業が実施されている。	形成計画の評価スケジュールに沿い、平成28年10月の路線変更後の効果検証のため調査を行い、路線変更により豊川市民病院から西側の増便区間の利用者が増加し一定の効果がみられる一方で、「共通ゾーン」や「豊川市1日フリー乗車券」の認知度が十分でないことが明らかとなった。本事業で作成する市内公共交通全体の利用促進に向けたPRポスターを活用し、利用促進に努める。
企画乗車券の作成 バスマップの作成 ポケット時刻表の作成	A	計画どおり適切に事業が実施されている。	平成28年10月に民間路線も一体となった路線・運賃体系を変更し、企画乗車券、バスマップ、ポケット時刻表を発行を行ったものの、OD調査と合わせて実施した簡易アンケート調査では、特に運賃体系の変更に関する認知度が低い結果となった。サービス水準の向上が浸透していないことが推測され、自治会、老人会、地域協議会などを通じた周知や運行事業者の周知など関係者と協働して認知度の向上を図りながら利用に繋げていく。
公共交通マップの作成 利用促進広報資料の作成 公共交通利用促進ポスターの作成	A	計画どおり適切に事業が実施されている。	公共交通マップと公共交通利用促進ポスターについては、バスだけでなく市内公共交通全体の利用促進に向けたPRを目指し、関係部署と調整を行い作成中である。 利用促進広報資料について、地域でバスを守るための地域協議会意見交換会・勉強会を昨年度に引き続き平成29年9月27日(水)に実施し、地域協議会役員の意識が高まった。利用促進に関する取組みは、各地域協議会と行政が連携し、調整・検討を進めていく。

7－3．地域間幹線系統の評価

豊鉄バス新豊線・豊川線は、運行系統ごとで4系統が地域間幹線系統の国・県の補助金を受けています。

所定の様式に基づいて運行事業者と沿線市にて評価を行い国へ提出されますが、ここでは地域間幹線系統の評価の共通認識を図るため、概要を抜粋して報告します。

新豊線	豊橋駅前～ 新城富永 接続の状況(△□) <接続する系統> 名古屋鉄道本線・豊川線、JR東海道本線・飯田線、豊橋鉄道渥美線、豊鉄バス(伊良湖本線) <接続される系統> 豊橋コミバス(①しおかぜバス②かわきたバス) 豊川コミバス(③豊川国府線④千両三上線⑤ゆう あいの里小坂井線⑥一宮線⑦音羽線⑧御津線⑨一宮地区地域路線) 新城Sバス(⑩北部線⑪西部線⑫中宇利線⑬吉川市川線⑭作手線)	
	豊橋駅前～ 豊川駅前 接続の状況(△□) <接続する系統> 名古屋鉄道本線・豊川線、JR東海道本線・飯田線、豊橋鉄道渥美線、豊鉄バス(伊良湖本線) <接続される系統> 豊橋コミバス(①しおかぜバス②かわきたバス) 豊川コミバス(③豊川国府線④千両三上線⑤ゆう あいの里小坂井線⑥一宮線⑦音羽線⑧御津線)	
	豊橋駅前～ 豊川市民病院 ～豊川駅前 接続の状況(△□) <接続する系統> 名古屋鉄道本線・豊川線、JR東海道本線・飯田線、豊橋鉄道渥美線、豊鉄バス(伊良湖本線) <接続される系統> 豊橋コミバス(①しおかぜバス②かわきたバス) 豊川コミバス(③豊川国府線④千両三上線⑤ゆう あいの里小坂井線⑥一宮線⑦音羽線⑧御津線)	
豊川線	豊橋駅前～ 豊川市民病院 接続の状況(△□) <接続する系統> 名古屋鉄道本線、JR東海道本線・飯田線、豊橋鉄道渥美線、豊鉄バス(伊良湖本線) <接続される系統> 豊橋コミバス(①しおかぜバス②かわきたバス) 豊川コミバス(③豊川国府線④ゆう あいの里小坂井線⑤音羽線⑥御津線)	
	豊橋駅前～ 豊川市民病院 接続の状況(△□) <接続する系統> 名古屋鉄道本線、JR東海道本線・飯田線、豊橋鉄道渥美線、豊鉄バス(伊良湖本線) <接続される系統> 豊橋コミバス(①しおかぜバス②かわきたバス) 豊川コミバス(③豊川国府線④ゆう あいの里小坂井線⑤音羽線⑥御津線)	

(1) 目標達成状況

利用者数は、系統別では目標に達していない系統もみられますが、全体で合わせてみると目標を越える結果となっています。平成28年10月より競合区間の豊川市コミュニティバスの路線体系の変更(減便)と、運賃体系の変更により「共通ゾーン」と「共通1日フリー乗車券」が導入されたことの好影響も考えられます。

路線	新豊線	豊川線		
運行区間	豊橋駅前～ 新城富永	豊橋駅前～ 豊川駅前	豊橋駅前～ 豊川市民病院～ 豊川駅前	豊橋駅前～ 豊川市民病院
利用者数の目標	145,416 人/年	50,703 人/年	122,176 人/年	42,317 人/年
利用者数の結果	150,332 人/年	39,204 人/年	154,646 人/年	45,892 人/年
評価	A	B	A	A

※評価の凡例 A：年間目標利用者数を達成できた場合

B：年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の半数以上の利用があった場合

C：年間目標利用者数が目標の半数に満たなかった場合

(2) 平成29年度の取り組み状況

- 豊鉄バス：豊川市内沿線住民に、地域密着型の時刻表を配布し、利用促進に努めました。また、豊川市コミュニティバスの路線・運賃体系の変更に合わせ運賃の一部値下げを実施しました。
- 豊川市：豊川市コミュニティバスの路線・運賃体系の変更に合わせて、豊川市バスマップに豊鉄バスの新豊線・豊川線の時刻表を掲載し、利用促進に努めました。

(3) 今後の課題

- 豊鉄バス新豊線：3市を跨ぐ長い路線であるが、3市を跨ぐ利用者の割合は少ないので、相互間利用が増える対策が必要です。
- 豊鉄バス豊川線：豊川市内沿線住民に向けた利用促進の対策が必要と考えています。
- 豊川市：豊川市コミュニティバスとの乗継利用に配慮し、結節点での乗継情報を提供するなど、利便性の向上を図る必要があります。

(4) 平成30年度、平成31年度に行う取り組み

- 豊鉄バス新豊線：各市と協力して公共施設等へ時刻表の配布と、イベント等でのPRに努めます。
- 豊鉄バス豊川線：豊川市内沿線住民に、その地域に特化した時刻表を作成して、利用促進を図ります。
- 豊川市：平成28年10月に行った豊川市コミュニティバスの路線・運賃体系の変更による効果の検証を進めるとともに、利用者・市民アンケートなどを実施し、的確に移動のニーズや利用状況等を把握します。

(5) 中、長期的な取り組み

- 豊鉄バス：道路交通事情の変化や沿線の施設の変化を踏まえ、住民の交通需要を関係市と協力して把握し、その状況に対応した経路や運行計画になるよう沿線市町と検討していきます。
- 豊川市：バス沿線の施設等の変化も踏まえ、運行事業者とも連携を図り、豊川市コミュニティバスと一体となった路線網の形成に努めます。